

第4節 新上小阪遺跡の花粉化石群集

新山雅広 (株式会社 パレオ・ラボ)

1. はじめに

新上小阪遺跡は、東大阪市新上小阪町地内に所在する弥生時代～近世の集落跡・生産遺跡である。本遺跡では、主要な遺構として水田・島畠・掘立柱建物・竪穴住居・井戸・土坑・溝が検出され、特筆すべき遺物として古代遺構面検出井戸より墨書土器が出土した。ここでは、弥生時代、古代、中世の水田・島畠といった耕作地や湿地・盛土・土壌化層・自然堆積層と考えられている堆積物を試料とし、花粉化石群集からみた周辺植生・堆積環境の推定および遺構の検証(栽培状況の推定)を試みた。

2. 試料

花粉化石群集の検討は、合計10試料(No.1、2、4、5、8、10、11、13、16、18)について行った(図138、表7)。以下に、各試料についての簡単な記載を示す。なお、これら10試料は、珪藻化石群集の検討も行われ、試料番号はそれぞれ対応する。

No.1：調査区西の第3-1層より採取された。試料は、黄灰色シルトで中世の水田耕作土層と考えられている。

No.2：調査区東の第3層島畠内より採取された。試料は、暗灰黄色シルトで中世の島畠上部の作土部分と考えられている。

No.4：調査区東の第4層より採取された。試料は、オリーブ褐色シルト質砂で褐鉄鉱が認められる。試料採取地点では耕作に関わる多くの溝が検出されており、古代の耕作地と考えられている。

No.5：調査区西の第4層より採取された。試料は、暗灰黄色砂質～粘土質シルトであり、調査区東と異なり、顕著な遺構が検出されず、古代の湿地と考えられている。

No.8：調査区東の第6面高まり522より採取された。試料は、黄灰色砂質粘土で褐鉄鉱が認められる。弥生時代の盛土と考えられている。

No.10：調査区西の第6層より採取された。試料は、黒褐色小礫混じり粘土質砂で弥生時代の土壌化層(盛土)と考えられている。

No.11：調査区東の第7面高まり546より採取された。試料は、黄灰色粘土で弥生時代(No.8、10より一段階古い時期)の盛土と考えられている。

No.13：調査区西の第7面高まり547より採取された。試料は、黒褐色砂質粘土で弥生時代(No.8、10より一段階古い時期)の盛土と考えられている。

No.16：調査区西の第8層より採取された。試料は、黒褐色小礫混じり粘土で弥生時代の自然堆積層と考えられている。

No.18：調査区東の第9層より採取された。試料は、黒褐色粘土で弥生時代の水田耕作土層と考えられている。

3. 方法

花粉化石の抽出は、試料約2～5gを10%水酸化カリウム処理(湯煎約15分)による粒子分離、傾斜法

和名	学名	1	2	4	5	8	10	11	13	16	18
樹木											
マキ属	<i>Podocarpus</i>	-	-	-	1	-	-	13	-	-	2
モミ属	<i>Abies</i>	-	-	-	3	-	-	3	-	-	3
ツガ属	<i>Tsuga</i>	-	-	-	15	1	-	5	-	1	3
マツ属 複維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	2	1	1	10	-	1	2	-	-	-
マツ属 (不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	-	-	-	9	-	-	2	-	-	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	-	1	-	-	14	-	-	-
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	-	-	-	26	-	-	41	-	1	17
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T.-C.	-	-	-	6	-	-	12	-	1	8
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1
ヤマモモ属	<i>Myrica</i>	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	4	-	-	3	-	-	2
カバノキ属	<i>Betula</i>	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
ブナ属	<i>Fagus</i>	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	-	-	-	6	-	-	10	-	-	9
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	1	-	-	44	-	3	103	1	2	87
クリ属	<i>Castanea</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6
シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	8	2	2	26	-	3	36
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	-	-	-	2	-	-	6	-	-	1
サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	-	4	-	-	3
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
グミ属	<i>Elaeagnus</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ウコギ科	Araliaceae	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
草本											
ガマ属	<i>Typha</i>	-	-	-	-	-	-	2	-	-	4
ガマ属-ミクリ属	<i>Typha - Sparganium</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	11	8	-	201	2	-	125	5	3	66
カヤツリグサ科	Cyperaceae	-	-	-	3	1	-	15	-	-	8
イボクサ属	<i>Aneilema</i>	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
ネギ属	<i>Allium</i>	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	-	-	-	1	-	-	2	-	-	1
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	-	-	-	2	-	-	1	-	-	1
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
キンボウゲ科	Ranunculaceae	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	6	-	-	3	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	<i>Rotala</i>	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	1	-	-	16	-	-	9	1	2	22
他のキク亜科	other Tubuliflorae	-	-	-	4	-	-	3	-	-	7
シダ植物											
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
アカウキクサ属	<i>Azolla</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
単条型胞子	Monolete spore	2	-	-	13	1	-	26	-	3	19
三条型胞子	Trilete spore	-	1	-	4	1	-	12	-	3	14
樹木花粉											
樹木花粉	Arboreal pollen	4	1	1	142	3	6	259	1	8	186
草本花粉	Nonarboreal pollen	18	12	0	238	3	0	164	7	5	117
シダ植物胞子	Spores	2	1	0	19	2	0	38	0	6	33
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	24	14	1	399	8	6	461	8	19	336
不明花粉											
不明花粉	Unknown pollen	0	1	0	19	1	2	16	1	3	20

T.-C. はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceaeを示す

表6 花粉化石一覧表

による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（水酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

4. 花粉化石群集の記載

全試料で同定された分類群数は、樹木花粉25、草本花粉17、形態分類を含むシダ植物胞子4である。以下に各試料の花粉化石群集を記載する。なお、No.5、11、18以外は、十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。

No.1：樹木花粉では、マツ属複維管束亜属、ヤマモモ属、アカガシ亜属が僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、アブラナ科、ヨモギ属が産出し、イネ科、アブラナ科はやや目立った。

No.2：樹木花粉では、マツ属複維管束亜属のみが僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、ソバ属、キカシグサ属が産出し、イネ科、キカシグサ属はやや目立った。

No.4：樹木花粉では、マツ属複維管束亜属のみが僅かに産出した。草本花粉は全く産出しなかった。

No.5：樹木花粉の占める割合は、約36%とやや低率である。その中で、アカガシ亜属が約31%と最も高率である。次いで、スギ属（約18%）、ツガ属（約11%）、マツ属複維管束亜属（約7%）、シイノキ属（約6%）、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、コナラ亜属（各約4%）の順に高率である。草本花粉は、イネ科が約50%と高率である。他は、ヨモギ属（約4%）がやや目立つ程度であり、オモダカ属、イボクサ属、ソバ属、キカシグサ属などが概ね1%未満の低率で出現する。また、水生シダ植物のサンショウモ、アカウキクサ属が1%未満で出現する。

No.8：樹木花粉では、ツガ属、シイノキ属が僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科が僅かに産出した。

No.10：樹木花粉では、マツ属複維管束亜属、アカガシ亜属、シイノキ属が僅かに産出した。草本花粉は、全く産出しなかった。

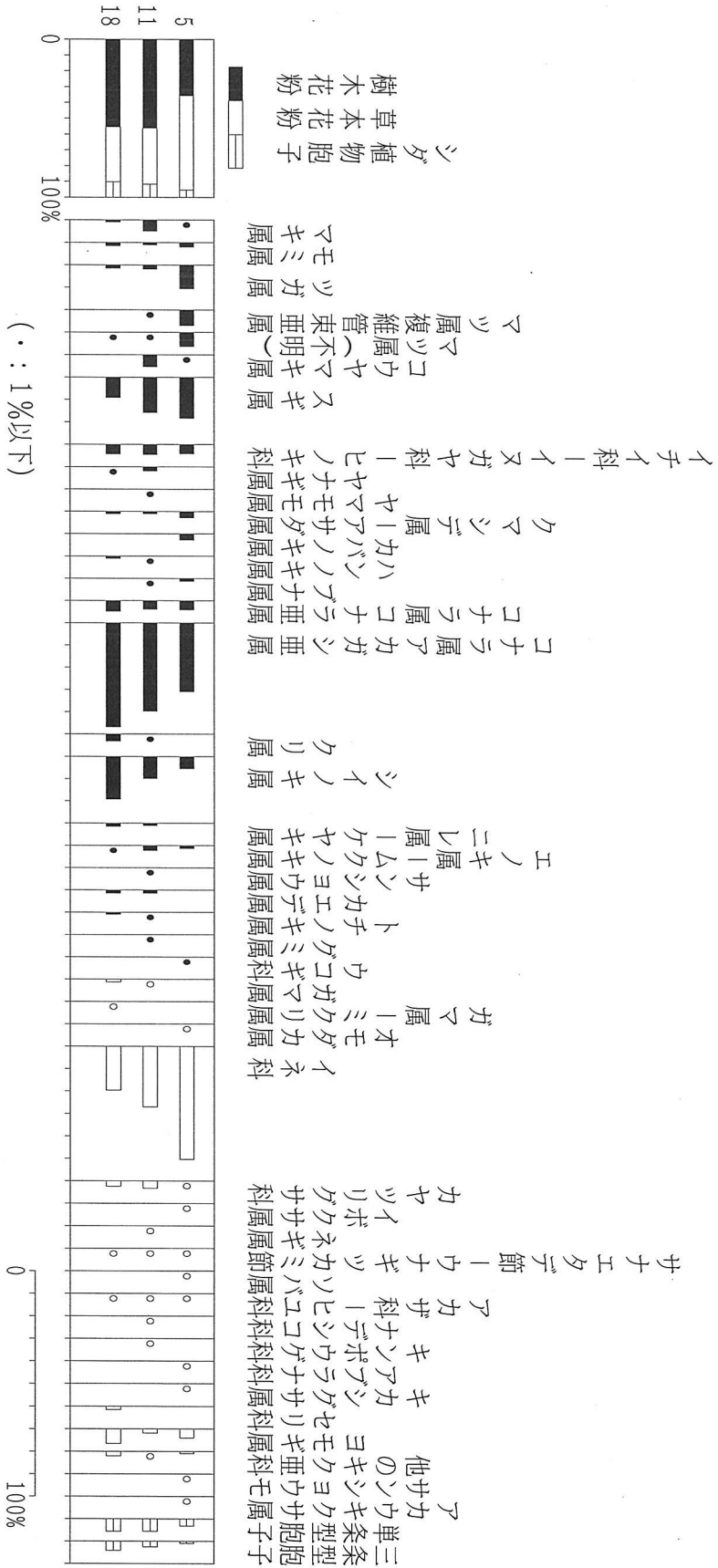
No.11：樹木花粉の占める割合は、約56%である。その中で、アカガシ亜属が約40%と最も高率である。次いで、スギ属（約16%）、シイノキ属（約10%）、コウヤマキ属、マキ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科（各約5%）、コナラ亜属（約4%）の順に高率である。他では、ヤナギ属、エノキ属-ムクノキ属、カエデ属（各約2%）、ヤマモモ属、サンショウ属、トチノキ属、グミ属（各1%未満）などが出現する。草本花粉では、イネ科が約27%と最も高率である。他は、カヤツリグサ科（約3%）、ヨモギ属（約2%）がやや目立つ程度であり、ガマ属、ネギ属などが1%未満の低率で出現する。

No.13：樹木花粉では、アカガシ亜属のみが僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、ナデシコ科、ヨモギ属が僅かに産出した。

No.16：樹木花粉では、ツガ属、スギ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、アカガシ亜属、シイノキ属が僅かに産出した。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属が僅かに産出した。

樹木花粉

草本花粉・シダ植物胞子



(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した)

No. 5: 第4層 (古代)、No. 11: 第7層 (弥生時代)、No. 18: 第9層 (弥生時代)

図137 花粉化石分布図

No.18：樹木花粉の占める割合は、約55%である。その中で、アカガシ亜属が約47%と最も高率である。次いで、シイノキ属（約19%）、スギ属（約9%）、コナラ亜属（約5%）、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科（約4%）、クリ属（約3%）の順に高率である。他では、モミ属、ツガ属、ニレ属－ケヤキ属、カエデ属（各約2%）などが出現する。草本花粉では、イネ科が約20%と最も高率であり、ヨモギ属も約7%とやや目立つ。他は、カヤツリグサ科、他のキク亜科が約2%、ガマ属、ガマ属－ミクリ属、セリ科などが概ね1%以下の低率で出現する。

5. 考察

ここでは、弥生時代、古代、中世の各時代ごとに周辺植生・堆積環境の推定および遺構の検証（栽培状況の推定）を試みる。

1) 弥生時代 (No.8,10,11,13,16,18)

周辺の森林植生については、No.11、18の結果から、アカガシ亜属を主体にシイノキ属、ヤマモモ属などをまじえた照葉樹林が発達していたと予想される。また、針葉樹のスギ属も主要な要素であっただろう。他では、針葉樹のマキ属、コウヤマキ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、落葉広葉樹のコナラ亜属、クリ属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属、カエデ属、トチノキ属なども混じっていたと思われる。

堆積環境および遺構の検証（栽培状況の推定）については、各試料ごとに順を追ってみる。No.11は、湿地性草本のガマ属が出現しており、ガマ属が生育するような湿地的環境が予想される。多産するイネ科については、属まで絞り込むことは困難であるが、湿地に生育するヨシなどの類である可能性が考えられる。No.11は盛土であるが、このような湿地性の堆積物が盛土されたと予想される。No.18は、検出状況が不良ではあるが、僅かに水田畦畔が検出された地点での試料であり、水田に関わる堆積物と考えられている。花粉化石群集をみると、湿地性草本のガマ属、ガマ属－ミクリ属が出現しており、これらが生育するような湿地的環境が予想される。イネ科は、最も高率で出現するが、約20%と水田層にしては、さほど高率ではないように思われ、典型的な水田雑草と考えられる分類群も産出しない。従って、No.18は、耕作土層そのものではない可能性が考えられるが、花粉分析からは明確に言及できる結果を得ることができず、No.18が水田層か否かは多方面からの検討が必要となろう。No.8、10、13、16は十分な花粉化石が産出しなかった。花粉化石は、水成堆積物である場合には良好に保存されるが、土壤のような酸化条件下では、分解・消失し、更にバクテリアによる腐蝕も受ける。No.10は、砂が卓越しており、花粉化石が流出してしまった可能性も考えられるが、他試料は、粘土質な堆積物であって花粉化石が殆ど産出しないことから、水成環境で安定して堆積したものとは考え難い。No.13、16は、黒色味を帯びた堆積物であり、花粉化石が保存されていないことから、土壤の可能性が高いと考えられる。

2) 古代 (No.4,5)

森林植生については、No.5の結果から、アカガシ亜属を主体にシイノキ属などをまじえた照葉樹林が発達していたと予想される。また、針葉樹のスギ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属も主要な要素であっただろう。このように、古代には、弥生時代と同様、照葉樹林が発達していたと予想されるが、幾分林分を縮小し、針葉樹の占める割合が増加したようである。特に、ツガ属、マツ属複維管束亜属は、大幅に林分を拡大したと思われる。他では、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ亜属は、依然として普通の要素であったが、マキ属、コウヤマキ属、クリ属、ニレ属－ケヤキ属、カエデ属、トチノキ属は、

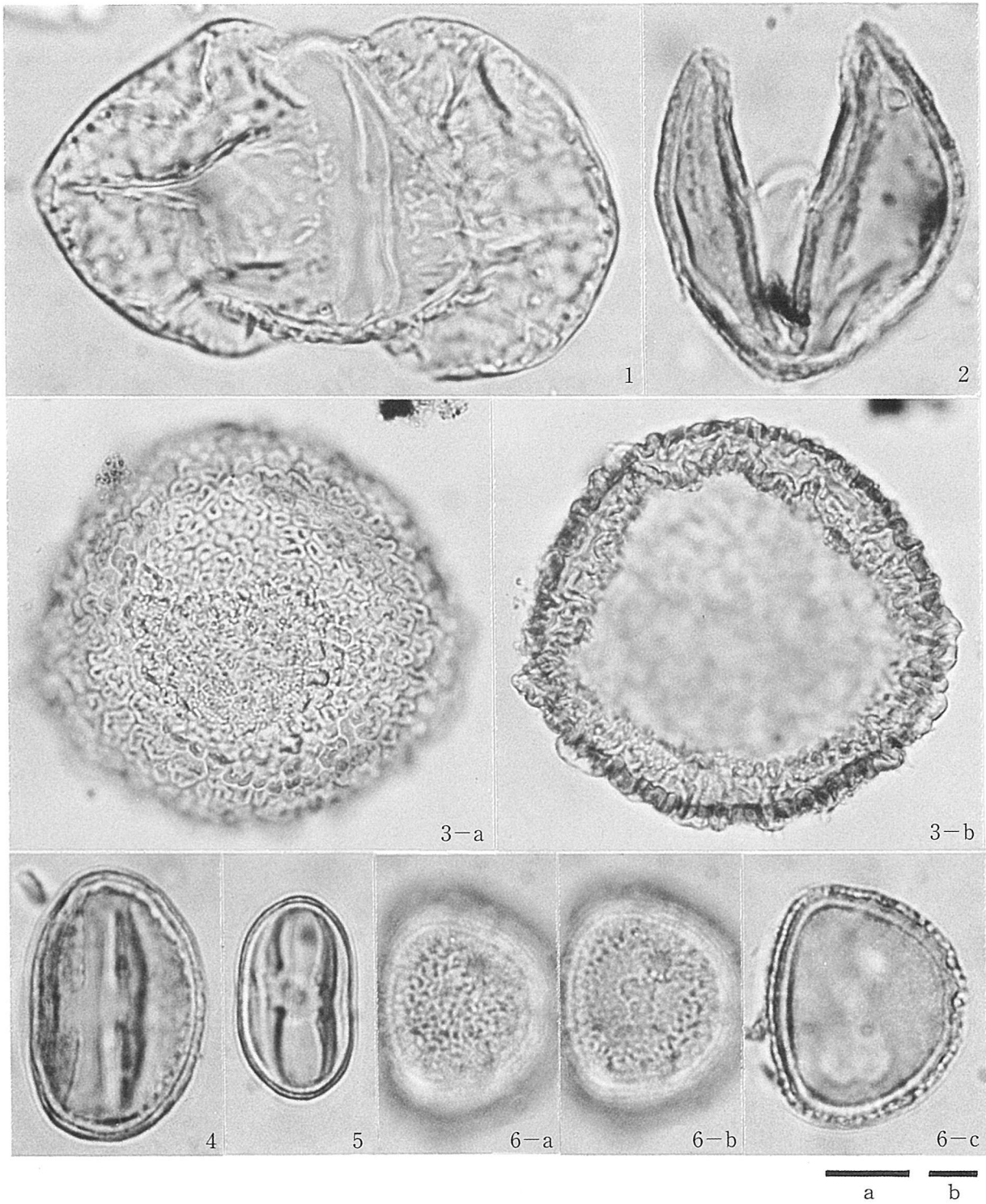
ほとんどみられなくなったと思われる。

次に、堆積環境および遺構の検証（栽培状況の推定）についてであるが、まずNo.4は、十分な花粉化石を産出せず、栽培状況の推定はできなかった。No.4は、砂が卓越した試料であり、花粉化石が流出してしまった可能性が考えられる。また、花粉化石がほとんど保存されていないことから、水成堆積物ではないことも考えられる。水田であれば、花粉化石が保存されていてもおかしくはないと思われるので、この耕作地は、畠であったのだろうか。No.5は、イネ科が高率であり、水生植物（抽水植物）でいわゆる水田雑草のオモダカ属、キカシグサ属、サンショウモなどが随伴する組成であることから、水田もしくは、水田に類似した水位の低い湿地ないし水溜りといった環境が予想される。また、ソバ属が出現しており、ソバ栽培が行われるような畠が存在していたことも予想される。もし、水田が存在していたとすれば、裏作としてソバ栽培が行われていたことや水田脇や隣接地に畠がみられた可能性も考えられる。

3) 中世 (No.1,2)

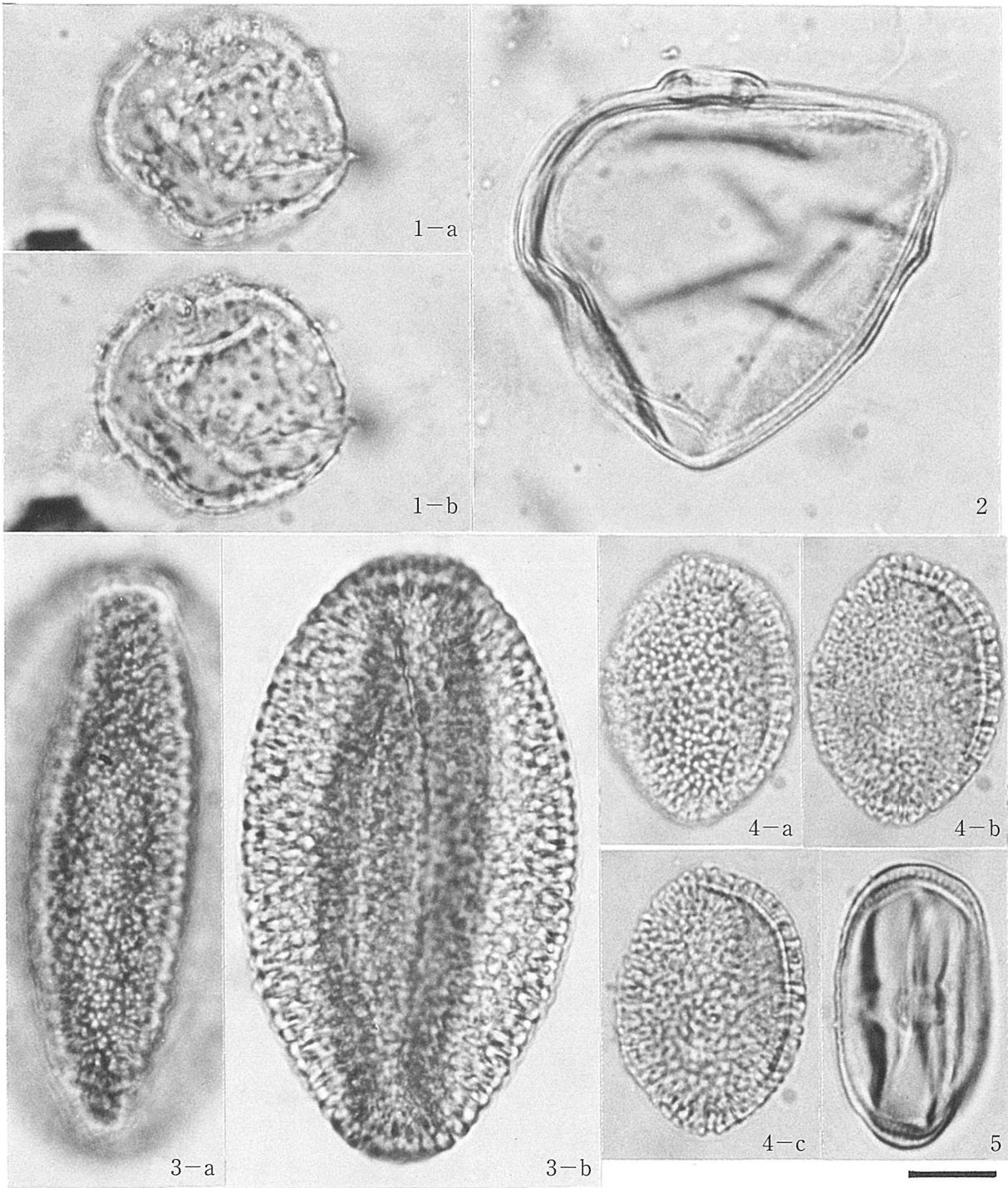
いずれの試料も十分な花粉化石を産出せず、周辺植生について推定することができなかった。産出したのは、ヤマモモ属、アカガシ亜属、古代に林分を拡大したマツ属複雑管束亜属である。これらの林分の規模については、分からないが、ヤマモモ属、アカガシ亜属の産出から、おそらく中世においても照葉樹林は存続していたであろう。

堆積環境および遺構の検証（栽培状況の推定）については、いずれの試料も十分な花粉化石を産出しないことから、少なくとも水成環境で安定して堆積したものとは考え難い。No.1は、発掘調査で遺構として水田が確認されたが、花粉化石がほとんど保存されていなかった。このことから、この水田は、絶えず水付きの状態ではなく、乾燥した状態が頻繁にあったり、長い期間続いていたような水田であったのではないだろうか。なお、僅かに得られた草本花粉の中で、イネ科と共にアブラナ科の産出がやや目立つ。アブラナ科は有用な植物を多く含む分類群であり、水田稲作と共に付近でアブラナ科（ナタネなど）の栽培も行われていたのかもしれない。No.2は、島畠上部の作土部分であるが、ソバ属が産出しており、ソバ栽培が行われていた可能性が考えられる。なお、抽水植物でいわゆる水田雑草のキカシグサ属の産出がやや目立つが、水田もしくは、水田に類似した水位の低い湿地ないし水溜りの堆積物が畠の耕作土に用いられていた可能性が考えられる。



1. マキ属、No.11、PALMN 1756
2. スギ属、No.11、PALMN 1758
3. ツガ属、No.5、PALMN 1765
4. コナラ属アカガシ亜属、No.11、PALMN 1757
5. シイノキ属、No.18、PALMN 1761
6. ガマ属、No.11、PALMN 1760

写真136 産出した花粉化石1 (scale ba:10 μ m a:1、2、4~6 b:3)



1. オモダカ属、No.5、PALMN 1767
2. イネ科、No.5、PALMN 1764
3. ソバ属、No.5、PALMN 1762
4. アブラナ科、No.1、PALMN 1766
5. キカシグサ属、No.5、PALMN 1763

写真137 産出した花粉化石2 (scale bar : 10 μm)

第5節 新上小阪遺跡の珪藻化石群集

黒澤一男（株式会社 パレオ・ラボ）

1. はじめに

珪藻は淡水から海水に至るほとんどすべての水域に生息し、水域生態系の一次生産者として重要な位置を占めている。微小（0.01～0.5mm程度）ながら珪酸体からなる殻を形成するため、化石として地層中によく保存される。また種類ごとに様々な水域に適応し生息するため古環境の指標としてもよく利用されている。

ここでは大阪府新上小阪遺跡から採取した試料を用いて珪藻化石群集を調べ、その堆積環境について検討する。

2. 試料及び分析方法

分析試料には、新上小阪遺跡内より採取された20試料（表7）を用いて、以下の珪藻分析をおこなった。

- ① 試料を湿潤重量で約1g程度取り出し、秤量した後にトールビーカーに移し、30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。
- ② 反応終了後、水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てた。この作業は上澄み液が透明になるまで7回程度繰り返し行った。
- ③ ビーカーに残った残渣は遠心管に回収した。
- ④ マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し、乾燥した。乾燥後にマウントメディア（封入剤）で封入し、プレパラートを作成した。
- ⑤ 各プレパラートを光学顕微鏡下400～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数を行った。なお、珪藻化石が少ない試料はプレパラート全面について精査した。

3. 珪藻化石の環境指標種群について

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）により設定された環境指標種群に基づいた。小杉（1988）は汽水～海水域における環境指標種群、安藤（1990）は淡水域における環境指標種群を設定した。なお環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広域種として、海水種と汽水種は不明種として扱った。また、破片であるため属レベルで同定した分類群は不明種として扱った。以下に小杉（1988）と安藤（1990）において設定された環境指標種群の概要を記す。

外洋指標種群（A） 塩分が35%以上の外洋水中を浮遊生活する種群。

内湾指標種群（B） 塩分が26～35%の内湾水中を浮遊生活する種群。

海水藻場指標種群（C1） 塩分が12～35%の水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群。

海水砂質干潟指標種群（D1） 塩分が26～35%の水域の砂底に付着生活する種群。

海水泥質干潟指標種群（E1） 塩分が12～30%の水域の泥底に付着生活する種群。

汽水藻場指標種群（C2） 塩分が4～12%の水域の海藻や海草に付着生活する種群。

汽水砂質干潟指標種群（D2） 塩分が5～26%の水域の砂底に付着生活する種群。

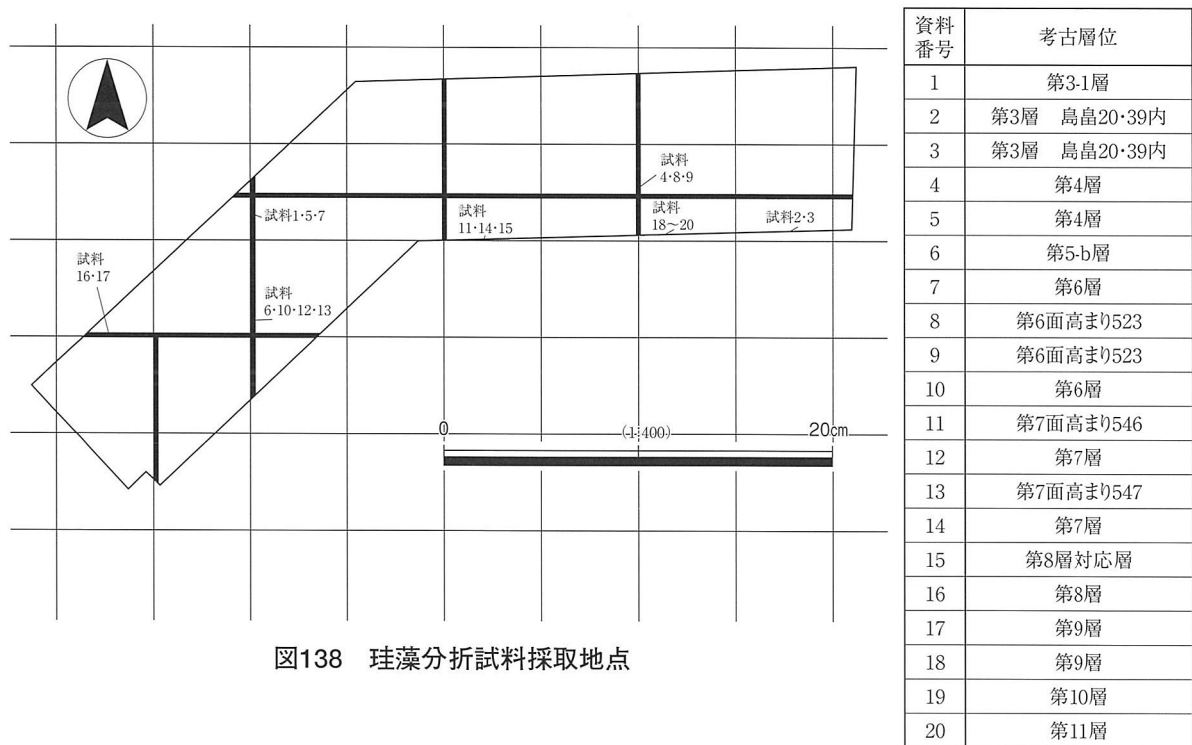


図138 珪藻分析試料採取地点

表7 珪藻分析試料一覧表

汽水泥質干潟指標種群 (E2) 塩分が2~12‰の水域（塩性湿地など）の泥底に付着生活する種群。

上流性河川指標種群 (J) 河川上流の渓谷部に集中して出現する種群。

中～下流性河川指標種群 (K) 中～下流域、すなわち河川沿いの河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群。

最下流性河川指標種群 (L) 最下流域の三角州の部分に集中して出現する種群。

湖沼浮遊性指標種群 (M) 水深が1.5m以上で、水生植物が水底には生息していない湖沼に生息する種群。

湖沼沼沢湿地指標種群 (N) 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群。

沼沢湿地付着生指標種群 (O) 水深が1 m内外で、植物が一面に繁茂しているところおよび湿地において付着状態で優勢な出現が見られる種群。

高層湿原指標種群 (P) ミズゴケを種とした植物群落および泥炭地の発達が見られる場所に出現する種群。

陸域指標種群 (Q) 前述の水域に対して、陸域を生息域として生活している種群（陸生珪藻）。

4. 珪藻化石群集の特徴

新上小阪遺跡において検出された珪藻化石は、海～汽水種が4分類群4属4種、汽水種が1分類群1属1種、淡水種が119分類群28属99種2亜種である。これらの珪藻種から設定された環境指標種群は、海水～汽水種が1種群、淡水種が6種群である（表8）。これらの種群の出現状況から珪藻帯を設定し、以下にその特徴と堆積環境について述べる。なお試料番号1～3、5、6については検出された珪藻化石の殻数が10個未満と非常に少なく、珪藻化石から堆積環境を推定することは不可能である。

D I 帯 (試料番号20、19)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 2.81×10^4 個、 6.65×10^4 個、完形殻の出現率は約15%、28%とやや低くなる。この試料からは*Eunotia praeruputa* var. *bidens*, *Pinnularia viridis*, *Cymbella aspera*などの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に出現する。

このことから沼沢湿地環境と推定される。

D II 帯 (試料番号18)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 8.08×10^5 個と多く、完形殻の出現率は約38%となる。この試料からは沼沢湿地付着生指標種群の*Eunotia praeruputa* var. *bidens*が特徴的に出現し、*Eunotia pectinalis*, *Pinnularia viridis*などの沼沢湿地付着生指標種群が随伴して出現する。

このことから沼沢湿地環境と推定される。

D III 帯 (試料番号17)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 1.35×10^4 個、完形殻の出現率は約34%となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*, *Pinnularia borealis*が特徴的に出現し、沼沢湿地指標種群が随伴して出現する。

このことから沼沢湿地を伴う陸域環境と推定される。

D IV 帯 (試料番号15)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 9.85×10^5 個と多く、完形殻の出現率は約41%となる。この試料からは沼沢湿地付着生指標種群の*Eunotia praeruputa* var. *bidens*, *Eunotia pectinalis*, 陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*が特徴的に出現する。

このことから水深があまりない沼沢湿地環境と推定される。

D V 帯 (試料番号16)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 1.32×10^5 個、完形殻の出現率は約33%となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*が特徴的に出現する。

このことから陸域環境と推定される。

D VI 帯 (試料番号14、11)

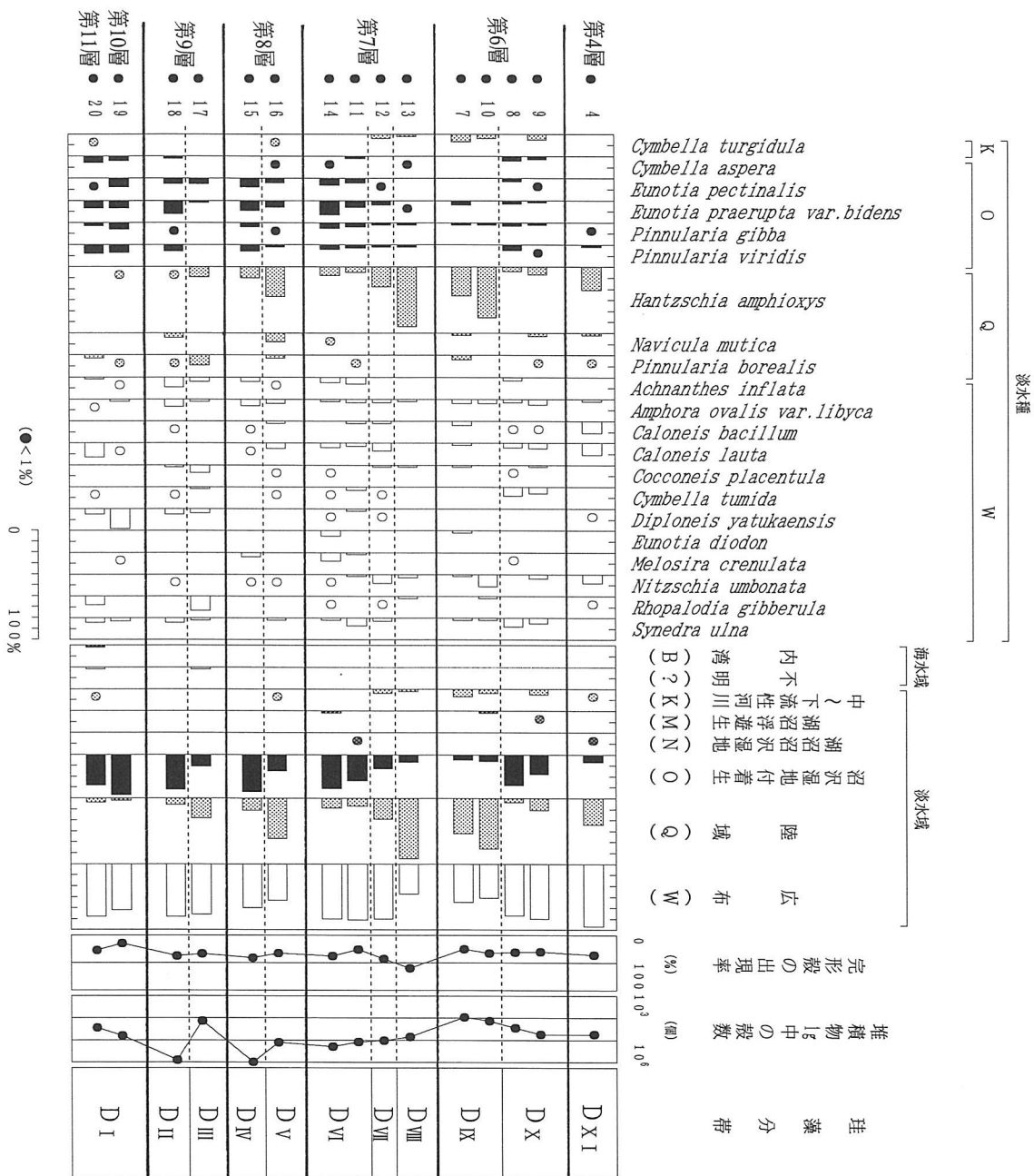
堆積物 1 g中の珪藻殻数は 1.22×10^5 個、 2.03×10^5 個と多く、完形殻の出現率は約26%、38%となる。これらの試料からは*Eunotia praeruputa* var. *bidens*, *Eunotia pectinalis*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia viridis*などの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に出現する。

このことから沼沢湿地環境と推定される。

D VII 帯 (試料番号12)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 1.09×10^5 個と多く、完形殻の出現率は約43%となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*と、*Eunotia praeruputa* var. *bidens*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia*

図139 珪藻化石分布図 (5%以上の分類群を表示)



分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
<i>Melosira sulcata</i>																					
<i>Caloneis westii</i>																					
<i>Cyclotella stylonum</i>																					
<i>Diploneis interrupta</i>																					
<i>Aphrosira triquetra</i>																					
<i>Achnanthes coretata</i>																					
<i>A. crenulata</i>																					
<i>A. inflata</i>																					
<i>A. lanceolata</i>																					
<i>A. sp.</i>																					
<i>A. Amphora montana</i>																					
<i>A. ovalis</i> var. <i>libyca</i>																					
<i>Anomoeoneis sphaerophora</i>																					
<i>Bacillaria branderi</i>																					
<i>Caloneis branderi</i>																					
<i>C. bacillum</i>																					
<i>C. sp.</i>																					
<i>C. schroederi</i>																					
<i>C. silicula</i>																					
<i>C. sp.</i>																					
<i>Cocconeis disculus</i>																					
<i>C. placentalis</i>																					
<i>C. aspera</i>																					
<i>C. cistula</i>																					
<i>C. cuspidata</i>																					
<i>C. nitida</i>																					
<i>C. naviculiformis</i>																					
<i>C. subaequalis</i>																					
<i>C. tumida</i>																					
<i>C. turgidula</i>																					
<i>C. sp.</i>																					
<i>Diploneis finnica</i>																					
<i>D. ovalis</i>																					
<i>D. yuldaensis</i>																					
<i>E. sp.</i>																					
<i>E. thibensis</i>																					
<i>E. nitida</i>																					
<i>Eumotia diodon</i>																					
<i>E. formica</i>																					
<i>E. gracilis</i>																					
<i>E. pectinatis</i>																					
<i>E. praerupta</i> var. <i>hidens</i>																					
<i>E. sp.</i>																					
<i>Fragilaria japonica</i>																					
<i>F. pinna</i>																					
<i>F. sp.</i>																					
<i>F. costata</i>																					
<i>F. sp.</i>																					
<i>Gomphonema acuminatum</i>																					
<i>G. augur</i>																					
<i>G. clevei</i>																					
<i>G. gracile</i>																					
<i>G. olivaceum</i>																					
<i>G. parvum</i>																					
<i>G. truncatum</i>																					
<i>G. sp.</i>																					
<i>G. rosigama acutum</i>																					
<i>G. scalproides</i>																					
<i>G. sp.</i>																					
<i>Mantzschia amphioxys</i>																					
<i>Melosira ambigua</i>																					
<i>M. crenulata</i>																					
<i>M. granulata</i>																					
<i>M. rooseana</i>																					
<i>M. tethera</i>																					
<i>M. sp.</i>																					
<i>Melicula adensis</i>																					

表8 珪藻化石産出表

*viridis*などの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に出現する。

これらのことからジメジメした陸域環境または沼沢湿地環境と推定される。

DⅧ帯 (試料番号13)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 7.27×10^4 個、完形殻の出現率は約60%とやや高くなる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*が特徴的に出現する。

このことから陸域環境と推定される。

DⅨ帯 (試料番号10、7)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 9.46×10^3 個、 1.38×10^4 個、完形殻の出現率は約25%、33%となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*が特徴的に出現する。

このことから陸域環境と推定される。

DX帯 (試料番号8、9)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 2.88×10^4 個、 5.63×10^4 個、完形殻の出現率は約30~31%となる。これらの試料からは*Cymbella aspera*, *Eunotia praeuruputa* var. *bidens*, *Pinnularia gibba*などの沼沢湿地付着生指標種群が特徴的に出現する。

これらのことから沼沢湿地環境と推定される。

DX I帯 (試料番号4)

堆積物 1 g中の珪藻殻数は 5.63×10^4 個。完形殻の出現率は約36%となる。この試料からは陸域指標種群の*Hantzschia amphioxy*が特徴的に出現する。

このことから陸域環境と推定される。

5. おわりに

新上小阪遺跡の堆積物中の珪藻化石を検討した結果、珪藻化石があまり検出されなかった5試料を除き計15試料より堆積環境を推定することができた。

D I帯の縄文時代と考えられる黒色の堆積物の堆積環境は、水深 1 m内外の沼沢環境あるいは湿地環境であると推定される。

黒色土壌の上位にあたる第9層の堆積環境は、調査区の東側では沼沢湿地環境 (D II帯)、西側では沼沢湿地を伴う陸域環境 (D III帯) と推定される。弥生時代の自然堆積層である第8層の堆積環境は、第9層と同様に調査区の東側では水深の浅い沼沢湿地環境 (D IV帯)、西側では陸域環境 (D V帯) と推定される。第7層の堆積環境は、調査区の東側で沼沢湿地環境 (D VI帯)、調査区の西側で沼沢湿地を伴う陸域環境 (D VII帯) から陸域環境 (D VIII帯) と推定される。また第6層の堆積環境は、調査区の西側では陸域環境 (D IX帯)、東側では沼沢湿地環境 (D X帯) と推定される。第9層から第6層にかけて、調査区の東側では沼沢湿地環境、西側では概ね陸域環境であったと推定される。また東側では第9層から第8層にかけてやや水深が浅くなる傾向が認められる。

第4層の堆積環境は、東側で陸域環境 (D X I帯) と推定され、耕作にかかわる溝が多く検出されて

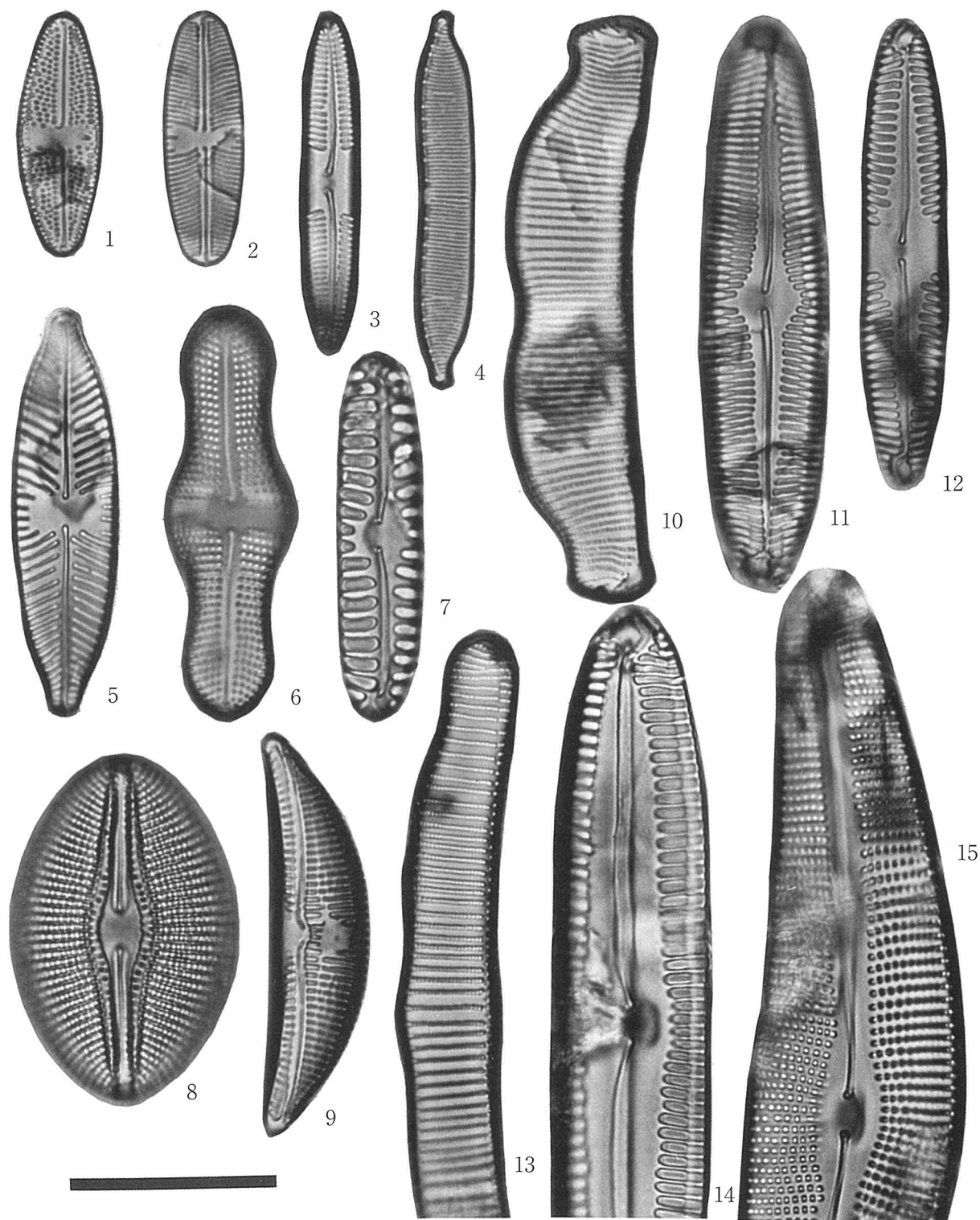
いることを考慮すると、常時水を張っているような環境下ではなかったと考えられる。

なお、第4層の試料番号5は、花粉化石では水田に係わる花粉が検出されているが、珪藻化石は僅かである。これは、堆積物がやや砂質のシルトであるため、珪藻分析の処理ではこれら粒子を取り除くことができず、相対的に珪葉殻の含有量が低くなるために検出されなかったと思われる。なお、花粉分析の処理ではフッ化水素を用いてこれら粒子を完全に溶かすため容易に花粉化石を濃集することができる。

第5層と第3層については、少なくとも3層は島畑の耕作土であり、珪藻化石が検出されていないことから、乾いた環境であったことが予想される。このことは、花粉化石が検出されなかったことから支持される。

<引用文献>

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標种群の設定と古環境復元への応用。東北地理、42, 73-88.
小杉正人（1988）珪藻の環境指標种群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究、27, 1-20.



1 *Navicula mutica* (16)

2 *Navicula pupula* (11)

3 *Caloneis lauta* (12)

4 *Hantzschia amphioxys* (13)

5 *Navicula elgimensis* (15)

6 *Achnanthes inflata* (4)

7 *Pinnularia borealis*

8 *Diploneis yatukaensis* (13)

9 *Amphora ovalis* var. *libyca* (13)

10 *Eunotia praerupta* var. *bidens* (15)

11 *Pinnularia virides* (15)

12 *Pinnularia microstauron* (15)

13 *Eunotia pectinalis* (15)

14 *Pinnularia gibba* (15)

15 *Cymbella aspera* (15)

写真138 珪藻化石顕微鏡写真 (スケール 20 μ m)

第6節 放射性炭素年代測定

山形秀樹（株式会社 パレオ・ラボ）

1. はじめに

新上小阪遺跡より検出された木材の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

2. 試料と方法

試料は、A12-d9グリッド第6面南側溝掘削中から出土した自然木の根1点、A13-e2グリッド第7b面土坑633から出土した輪切りになった木材（No.4木4）1点、A13-d2グリッド第8b面検出土坑867から出土した板状の木片1点の併せて3点であり、それぞれ年輪の外側部分から採取したものをを用いた。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

3. 結果

表9に、各試料の同位体分別効果の補正值（基準値-25.0%）、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を示す。

¹⁴C年代値（yrBP）の算出は、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年）を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

¹⁴C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 1σ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしさを示す確率が最も高い年代範囲については、表中に下

線で示した。

4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

<引用文献>

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ¹⁴C Database and Revised CALIB3.0 ¹⁴C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP \pm 1 σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1661 (AMS)	木片 No.586 (自然木の根) A12-d9 第6面の立ち木 南側溝掘削中	-29.3	2365 \pm 25	cal B.C. 400	cal B.C. 480 - 470 (17.8%) cal B.C. 410 - 390 (75.2%)
PLD-1662 (AMS)	木片 No.988 (No.4木4) A13-e2 第7b面 土坑633	-26.9	2265 \pm 25	cal B.C. 300	cal B.C. 390 - 360 (57.5%) cal B.C. 285 - 260 (36.6%)
PLD-1663 (AMS)	木片 No.1093 (板状の木片) A13-d2 第8b面検出 土坑867	-27.1	2355 \pm 30	cal B.C. 400	cal B.C. 480 - 470 (10.3%) cal B.C. 410 - 385 (86.7%)

表9 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

第7章 まとめ

今回の調査で検出された遺構、遺物の主要なものは、弥生時代中期前半（Ⅱ様式～Ⅲ様式前半）、古墳時代前期（布留式前後）、古代（8～9世紀）の3時期である。以上の各時期を中心として、今回の新上小阪遺跡における初めての調査成果を簡単にまとめておきたい。

地形の変遷 まず、やや時期が不明確ではあるが、弥生時代中期前半以前には、調査区西半に大きな落ち込みが形成されていた（第9面）。この落ち込みの成因は不明であるが、中期初頭には埋没していた。河内平野一帯における様相では、縄文時代晩期末までの開析谷（流路）が、前期にはほとんど埋没されるようであり〔松田2001〕、この落ち込みも前期に埋没したものであろう。次の、弥生時代中期前半段階には調査区西側に微高地があり、同東側が低まりであった（第8面～第6面）。その後、この微高地上では面の更新が頻繁になされるが、時期はほとんど変わることはない。微高地上では比較的粗粒の堆積物が見られ、低まり部分では逆に細粒の堆積物が見られたことから、微高地上の西側にその供給源があったことが窺える。河内平野一帯における様相では、先述の開析谷（流路）の充填後、側方堆積作用に転ずるとされる〔松田2001〕。このことから、当遺跡周辺においても同様な現象が起こったものと考えられ、その結果、頻繁な面の更新が起こったものと推定される。

中期前半の面廃絶後、調査区一帯にはしばらく湿地性の堆積が見られたのち、調査区東端には粗粒の堆積物が湿地性の堆積物を挟むように分厚く堆積する（第5b層）。これは弥生時代中期に形成されていた東側の高まりに規制されたものと考えられる。なお、堆積の時期であるが、僅かに見られる遺物からは、Ⅲ様式の時期が考えられる。第5章でも記したように、Ⅳ様式の様相が不明であり、この時期をどこに設定するかは未解決である。今後の調査に期待されるが、遅くとも庄内式後半～布留式初頭段階には安定していたものと考えられる（第5面）。微高地上ではⅤ様式土器出土の遺構も見られるが、周辺の遺構がそれ以降の時期を中心とするものであり、伝統的Ⅴ様式の可能性を考えると、Ⅴ様式＝後期とは言い切れない。しかし、Ⅴ様式土器やわずかな庄内式土器の出土が微高地上に限られることから、それらは地表面化後の上面からの混入と考え、堆積時期はそれ以前と考えておく。

さらにその後、微高地を除く低地部一帯に湿地性の堆積があり、東側微高地の西側を中心に複数回の粗粒の堆積が見られる（第4b層）。微高地上（第5面）には、布留式を中心とした遺構が見られるが、その最新の時期は6世紀後半である。低地部の堆積層中（第4b層）から出土した遺物には、同時期の遺物を含むので、その時期には既に低地部は埋積しつつあったと考えられる。なお、同堆積層中に含まれる布留式の遺物（図41-305・306）は、微高地部分を検出中に出土した遺物であり、上層に巻き上げられた資料の可能性が高く、除外しておく。最終的に調査区東半を中心に、比較的粗粒の堆積物をもたらし、東半に微高地を形成し（第4面）、その微高地上には古代の地表面が形成される。なお、堆積の最終時期は、一部で見られる古墳時代の面（第5-0面）が7世紀初め頃であり、4層に安定的に含まれる時期が8世紀以降であることから、7世紀後半頃と考えられる。

そして、古代段階においてもやや低まっていた調査区西側に、古代末～中世にかけて堆積があり（第3-4～3-3層）、調査区一帯がほぼ平坦化する。そして、これ以降、居住に関わる遺構の形成はなく、生産に関わる遺構が形成されることになる（第3面～第1面）。以上の、地形変遷の概略を踏まえ、次に各時期の様相をまとめておく。

各時期の様相・遺構の変遷

弥生時代中期前半以前 この段階の様相は遺構の検出がほとんどなく不明瞭である。なお、第10層や第11層のような黒色土壌化層は確認されている。これらの時期は遺物の出土がなく不明であるが、縄文時代後期～晩期に対応する可能性が考えられる。一部前期まで遡る可能性がある第9面東半では、畦畔の検出がなされ、この部分では水田が営まれていたものと考えられる。しかし、花粉分析からはそれを積極的に裏付けるデータは得られなかった。ただし、珪藻分析からは湿地であったことは確かなようである。畦畔も一部で検出されたのみであり、その継続時期は短かったのであろう。なお、前期段階の居住域と水田域は隣接する状況が、近畿自動車道の一連の調査で確認されている [若林1999]。近畿自動車道での調査成果では、山賀遺跡居住域から500m程離れた地点で水田が確認されており、当調査区も同様な距離に当たる。また、当調査区でも西側で大規模な落ち込みが検出されたことから、居住域は東側に存在したものと考えられる。これらから、山賀遺跡の居住域との関連性が窺える。

弥生時代中期前半 今回の調査では、第5章第4節に記したように、調査区西半で弥生時代中期前半の遺構面が複数検出された。これらの時期はいずれも類似したものである。この居住域は西側の小若江遺跡で出土した遺物 [布施市史編纂委員会1962] とほぼ同時期であり、同一居住域の東限であると考えられ、東西300m程の居住域が広がっていた可能性もある。なお、美園遺跡のように前期から中期中頭まで継続する集落ではなく、中期中頭になり出現する集落である。

居住域の東側には高まりが検出されており、東側の不安定な低地との区分を目的に構築されたものであろう。また、この高まりのすぐ東側では、第7b面で祭祀的な土坑(土坑633・657)や掘立柱建物が、第7面低まり部分からの土器の集中出土などが見られた。掘立柱建物の性格は不明であるが、土坑633のような遺構は西側の微高地上では見られず、居住域縁辺部分における廃棄空間をも含む、祭祀的空間であったと考えられる。

この低地部は溝や不定形な落ち込みが検出されており、さらに東側の調査区東端では、第6面で畦畔が検出された。低地部は、当初(第7面段階)は利用するには不安定な調査区中央部からやや高まった調査区東端部分を水田として使用していたものと考えられるが、その後、水田域と不安定な低湿地とを区分する目的で高まり(第6面高まり523)が構築されたものと考えられる。このように、第6面の景観は、弥生時代中期前半における居住域と水田域との境界部分の景観を窺い知れ、また第7面との対比においては土地利用の変化を窺う上で、ある種の完成形態とも言え、興味深い。また、居住域、祭祀域、生産(水田)域といった集落構成要素の配置が窺える興味深い資料であるといえる。なお、水田は前段階と同様の場所に築かれており、山賀遺跡でこの段階に墓域が見られることも含めれば、前期から中期前半にかけての山賀遺跡からの居住域の移動も考えられ、中期前半の集落構成を考える上でも、山賀遺跡、小若江遺跡、新上小阪遺跡の成果は興味深い。

なお珪藻分析からも、調査区西側が陸域環境、同東側が沼沢湿地環境と推定されており、検出遺構との整合性が見られる。また、東側の高まり523に含まれる珪藻が湿地性のものであることから、湿地の堆積物を盛土したことが推定される。

なお、第6章第5節で記したように、その中でも最上面である第6面の立ち木、最も遺構が密に検出された第7b面の遺構から出土した木片の年代測定を実施した。その結果は、第6章第6節で記したように、 ^{14}C 年代で、第6面立ち木が $2365 \pm 25\text{yr BP}$ (暦年代較正值でcal B.C.400)、第7b面土坑633出土木片が $2265 \pm 25\text{yr BP}$ (暦年代較正值でcal B.C.380)、第8b面土坑867出土木片が $2355 \pm 30\text{yr BP}$ (暦

年代較正值でcal B.C.400) という、いずれも類似した年代が確認された。分析対象とした時期は概ねⅡ様式であるが、この時期の¹⁴Cデータは全国的に少ないのが現状であり、このデータが適切か否かの判断は難しい。しかし、滋賀県野洲郡中主町湯ノ部遺跡出土、前期末炭化材のβ線計測法による¹⁴C分析結果(Gak-16350)で2880±8040 yrBP、岡山県岡山市百間川原尾島遺跡出土、中期前葉井堰の杭材の液体シチュレーション分析(KSU-426)では2180±30yrBP、同南方(済生会)遺跡出土、Ⅲ様式建築部材の年輪年代分析ではB.C.243・248・270の各年代が報告されている[埋蔵文化財研究会編1996]。また、池島・福万寺遺跡におけるASH法による¹⁴Cデータに拠れば、前期中頃層中(14-2層)出土の自然木(Beta-140901)は、¹⁴C年代で2560±40 yrBP、前期末～中期初頭面(13面)の立ち木(Beta-140902)は、¹⁴C年代で2290±40 yrBPの結果が報告されている[株式会社地球科学研究所・岸本2002]。地域的にもばらばらで、それぞれの分析方法についても不明な点は多いものの、池島・福万寺遺跡のデータから主に判断すると、今回の年代測定結果は概ね妥当であると考えられる。

弥生時代中期後半 今回の調査では、第5章でも記したように遺物の出土はⅢ様式前半までに収まり、Ⅲ様式後半～Ⅳ様式にかけての、弥生時代中期後半の様相は不明である。なお、生産域でもないようである。弥生時代中期前半の第6面は、その直上を覆う層が湿地性の堆積であることから、突然の大規模な洪水により廃絶した様子は窺えず、自然的な要因により集落が廃絶したのではないものと考えられる。ただし、正確な時期は不明ながら、この時期から後期頃に大規模な氾濫堆積物が見られる。

弥生時代後期～古墳時代 第6面で形成されていた東側の高まり523に規制され、その東側では微高地が形成される。この微高地上で最も古い遺構は、弥生土器Ⅴ様式のものである(第5b面土坑497)が、第5章でも記したように、庄内式以降の伝統的Ⅴ様式の可能性もあり、弥生時代後期とは断言できない。ただし、微高地を形成した堆積層中に含まれる遺物からは、微高地の形成は後期以前と考えられる。この微高地上で多くの遺構が見られる時期は古墳時代前期である。なお、この微高地は東側に展開するものと推定され、当調査区で検出された遺構群はその西端に当たるものと考えられる。東側約500mにあたる山賀遺跡その2調査区では、後期に堆積した砂層の上面で掘立柱建物が2棟検出されているが、時期的にやや古い。微高地の形成は当調査区より新しいものの、遺跡検出面はT.P.3.0m前後と当調査区同様である[森井ほか1983]。なお、弥生時代後期には北東約400mにあたる上小阪遺跡で居住域が見られ、ほぼ同時期に形成された別の微高地が存在するようである。

微高地上では布留式段階の、西縁辺で複数回建て替えられた掘立柱建物が、東側で溝がそれぞれ検出された。数棟の建物を復元したが、この復元が妥当ではないにしても、この部分に複数回の建て替えが行われたことは確実であろう。この掘立柱建物が西側の低地部と東側の溝に囲まれていることを評価すれば、北側へ展開する居住域の南端と考えられる。また、断面の観察では溝の東側にも微高地は展開し、別の居住域が東側にも存在する可能性が考えられる。なお、掘立柱建物間の空閑地では高坏の集中出土が見られ、祭祀的行為が行われていたようである。ただし、微高地上も布留式以降には生産に関すると思われる遺構が見られるようになる。

なお、調査区西半は、これ以前とは逆転し、生産域になっていた。必ずしも畦畔が明瞭に検出されたのではなく、擬似畦畔の検出のみであるが、この部分がある程度の期間水田域であったことは確かであろう。なお、水田の時期であるが、先述のように擬似畦畔のみの検出であり、不明確ではあるが、ベース面(第5b面)で検出された溝(溝382)から出土した遺物が弥生時代後期～布留式の遺物を含むことから、布留式頃の可能性が考えられる。ただし、微高地上の居住域に伴う遺構の時期よりやや先行

するようにも思われる。

古代 8世紀後半～9世紀になると、さらに拡大された微高地上で掘立柱建物や溜め井状遺構が見られるようになる。掘立柱建物は、その微高地西側に築かれており性格は必ずしも明確ではないが、軒丸瓦や埴、また上層出土であるが円面硯の出土から、小規模な仏教施設であった可能性が考えられる。当調査区は古代において若江郡の中心地である錦織郷に属していたと考えられ、周辺では不明瞭であった古代前半（奈良時代～平安時代前半）の郡内の様相の一例を加えることができたといえる。

なお、この微高地上では掘立柱建物と同時並存し、耕作地が展開していたようである。これは、多くの溝が検出されたことから窺え、溝の検出状況からは、掘立柱建物への意識が看取される。この同時並存の想定は、溝出土遺物からのものであるが、溝に意図的、積極的に伴うとは考えにくい。しかし、溝が掘立柱建物を避けるように掘削されていることから、とりあえず同時並存の可能性を考えておく。今回はこの掘立柱建物の性格を先述のように小規模な仏教施設と考えたが、当時の同様な掘立柱建物周辺の景観を窺う上でも興味深い成果であろう。また、調査区東端で検出された水溜め状遺構（第4b面土坑252）は、その最終的な廃絶においては墨書土器が見られやや特殊であるが、機能段階においては耕作に伴い使用されたものであろう。なお、掘立柱建物や水溜め状遺構が廃絶する時期以降は当調査区は全域が生産域になっていたようである。

なお、今回の調査における条里施工の時期は、必ずしも明確ではない。しかし、検出された溝が方位に沿ったものであることから、8世紀のある段階（後半？）の可能性が考えられる。また、溝207から出土した土器埋納ピット出土の可能性のある土器（図39-239）や、溝200から出土した土器（同258）も同時期である。この時期に条里施工が掘立柱建物建立とほぼ同時に行われたものと考えられ、掘立柱建物の性格を考える上で興味深い。なお、坪境が検出されていないこともあると思われるが、条里に伴い検出されることのある置き石は調査区内で若干の出土は見られたものの不明であった。

また、西半の7世紀後半頃の堆積層中（第4b層）からは飛鳥時代の土師器と木製の履物が出土した。この段階は初現的な条里施行が見られる段階にあたるが、少なくとも当調査区ではその段階には安定した地表面は形成されていなかった可能性が高い。

中世以降 古代後半以降一帯は耕作域であった。鎌倉時代になると鳥島も築かれるようになる。当調査区では、その鳥島の拡大状況を明らかにした。また、その地割りに関して調査区の東半と西半で異なる状況も明らかになった。この地割り異常の原因は、先述の古代の掘立柱建物にあると考えられる。調査区西半は、古代において遺構の検出がなくその開発時期は検出された遺構からは12世紀後半に下る。

遺物の様相

土器などについて ここでは、土器を中心に古代以前の面・層で出土した瓦も含めて記す。

弥生時代中期前半以前 今回の調査で最も古い遺物は、第8面溝836出土の縄文晩期突帯文土器の深鉢片である（図125-770）。同遺構からは、I様式の壺胴部片も出土している（同769）。しかし、これらはいずれも摩滅が著しく下層の自然堆積層からの巻き上げと考えたほうが妥当である。他にも、I様式の土器が若干見られるが、いずれも摩滅気味であることから巻き上げと考えられ、当遺跡における積極的な土地への働きかけは、弥生時代中期以前には、遡らないものと考えられる。

弥生時代中期前半 今回の調査ではII様式～III様式前半にかけての多くの土器が出土した。なお、III様式に下るものは少数であり、そのほとんどはII様式に収まる。その一つ一つについての詳述は、既に第5章に記してあるので避けるが、まず甕は煤化したものが多く見られ、炭化物が分厚く付着するものも

見られた（例えば図97-622など）。また、壺と思われる器形の幾つかにも煤化が見られた。甕の総量に比し甕蓋の出土量は少なく、蓋内側に二重の炭水化物付着箇所が見られる資料（図89-551、写真図版28）からも、甕と蓋が1：1ではないことが推定される。甕は、いわゆる河内形といわれるミガキ調整を基調とする甕以外にも、いわゆる摂津型といわれる甕が一定量見られた他、それに類似する大和型や外面を削る紀伊型と思われる甕も少量見られた。また、タタキ調整の可能性が考えられる痕跡を残す甕も見られた（図71-435）。胎土については細かく観察できなかったが、明らかに白色を呈するものが一定量みられた。ただし、河内形と考えられた甕のうちでも、中期後半の生駒西麓型に見られるものや、庄内式に見られるものとは胎土が異なるようではある。

壺では赤彩を施すものが見られた。赤彩の残存度が悪いこともあるが、その施し方に特定の傾向は看取されなかった。ただし、図109-692のようにやや正面観を意識したかのような赤彩も見られた。施文は櫛描直線文を基本とするが、ヘラ状工具による流水文（図97-632）、稚拙な波状文（図97-630など）、擬流水文、扇形文などが見られた。また、口縁端部に鋸歯状の文様を施すもの（図95-600）も見られた。なお、淀川流域からの搬入の可能性が高い胎土が白色を呈する壺（図81-474）も1点見られた。他にも、同様な白色を呈する胎土の土器が見られた。

なお、土器に見られるおそらく用途外と思われる穿孔では、胴部最大径部分に施すもの（図71-435）、胴部最大径よりやや下に施すもの（図76-452、図104-662）、底部直上部分に施すもの（図92-586）の3者が見られた。

また、壺、甕以外にも鉢が見られたが量的に少なく、高坏も見られたが微量であった。

古墳時代前期前後 この時期で最も多く見られたのは布留式であり、弥生土器V様式や庄内式は僅かにとどまる。特に、庄内式は破片が僅かに見られたのみである。まず甕は、定型化した布留式甕は少量であり、それ以降の所産と考えられる甕が多く見られた。これらは、部分部分で布留式的要素を残しながら、典型的な布留式から逸脱しているものである。特に、口縁端部への意識の欠如が著しく、端部を肥厚させないものが多く見られた。また、外面のハケも粗雑なものが多かった。なお、いずれの甕も、先述の弥生土器同様、煤化が著しく使いこまれた感のあるものが多かった。

なお、この段階で最も多いのが高坏である。一部の高坏は第5章で記したように複数の型式のものがまとめて出土しており、祭祀的な意味あいの可能性が考えられた。甕と高坏以外の壺や小型精製器種などもみられたが、僅かにとどまる。

布留式の資料は第5章に記したように、一部須恵器出現以降の時期を含むが、併行する段階の須恵器は見られない。布留式が見られなくなり、居住域に伴うと考えられる遺構の多くが廃絶した以降になり、初めて須恵器が見られるようになる。ただし、須恵器は居住域に伴わないこともあり、量的には少ないものの、時期的には大きな断絶は見られず古墳時代後期までのものが見られる。

古代 まとめて検出された遺構や包含層からは、8～9世紀の遺物が多く出土した。この中でまず特筆すべきは緑釉陶器である。これらはいずれも破片であり、全体の形状を推定するのも容易ではないような破片である。ただし、緑釉陶器は、一般の小規模な集落から出土する類の遺物ではなく、一定規模の集落が当遺跡に営まれていたことが推定される。

また、「村主」銘の墨書土器の出土も見られた（図39-250）。この「村主」については、第5章第2節で詳述したので繰り返しを避けるが、当遺跡が錦織郷に属すると推定されることから、錦織村主などとの関連が考えられる資料である。なお、製塩土器もいずれも破片ながらまとめて出土した。

また、古代の層を中心に、さらに上層に巻き上げられてややまとまって瓦の出土が見られた。中でも特筆すべきは、青谷式の複弁七弁軒丸瓦（図33-222）である。また、土師質の埴（同231）の出土も見られた。いずれも一点のみであるが、掘立柱建物付近からの出土である点が興味深い。

これらについても第5章第2節で既に記してあるとおりで、先述の墨書土器や緑釉陶器、掘立柱建物などの遺構も含めて、8世紀後半～9世紀における錦織郷の一小地域における様相を掲げることができる資料であろう。

なお、古代以降の遺物は当調査区が生産域になることもあり、特筆すべきものはない。ただし、上層からも古代の遺物は多く巻き上げられて出土した。

木器・木製品について 今回の調査では、さほど量は多くないものの、木器・木製品が出土した。そのほとんど全てを実測し、掲載した（表19参照）。

弥生時代の各層、遺構からは、不明木製品は多いものの、用途が推定された製品が数点見られた。それらには、農耕具はもとより、紡織具も見られた。また、祭祀土坑と考えられる土坑633から出土した刻み目の施された木製品（図109-695）は、性格不明ながら刻み目を施した面を上にして出土しており興味深い。さらに、自然堆積層中（第6b層）出土ながら、刀子状木製品（図85-524）の出土も興味深い。なお、これらの樹種は、羅列するとカヤ、ヒノキ、コナラ亜属、ケヤキ、サカキ、ヤマグワ、アカガシ亜属、クリ、スギ、クスノキである。花粉分析に拠れば、アカガシ亜属を主体にシイノキ属、ヤマモモ属などをまじえた照葉樹林が発達し、針葉樹のスギも主要な要素であったと報告されている。このことから、近在する木材を利用したことが窺える。

古墳時代末、7世紀初め頃の堆積層中（第5-0b層）からは、紡織具の出土が見られた。樹種はヒノキ。当層を含め古墳時代の層は花粉分析に供していないが、弥生時代から古代の間で照葉樹林が発達する状況などは基本的に類似するようである。この遺物の出土は自然堆積層中からであるが、さほど大きな摩滅の痕跡は見られず、近接地からの流入と考えられ、近在する木材を利用したことが窺える。

古代（8～9世紀）の面（第4面・第4b面）では、掘立柱建物に伴うピットから礎板として使用されたと考えられる板材が出土した。その全てを持ち帰ることは、検出段階で劣化していたものが多く不可能であった。また、溜め井状の遺構からは桶も出土した。また、同包含層や、下層の7世紀後半頃の堆積層中からは農具や建築部材、そして特異なものとして履物が見られた。それらの樹種は、スギもしくはヒノキである。花粉分析に拠れば、照葉樹林が発達し、針葉樹のスギ属も主要な要素であり、ヒノキ科も普通の要素であったと報告されていることから、近在する木材を使用したことが窺える。また、第5章でも記したように、履物が出土したことは、当遺跡周辺の7世紀後半頃を考える上で重要な位置を占めるものと考えられる。同様な遺物は、難波宮や長原遺跡で出土しており、当該期の中心的遺跡が近在したものと考えられる。当遺跡に南接する遺跡はないものの、南側約1.4kmに見られる美園遺跡では自然河川（FNR401）から7世紀代の遺物が集中して出土しており、祭祀的な様相も見受けられるという。今回出土した7世紀代の遺物は、この美園遺跡の河川と一連のものかもしれないし、より近接する当遺跡の南側に当該期の集落が存在するのかもしれない。（市村）

石器・石製品について 石器・石製品については多くを図化し、サヌカイト剥片については、出土層位・遺構面の確実にわかり打点が残存しているものを中心に図化した（表20参照）。

弥生時代の面では、中期前半の遺構面・包含層から磨製石器・砥石・サヌカイト製の打製石器・剥片が合計134点出土した。全体の組成比は、図化していないものをふくめて、剥片60%、刃器B類（ス

クレイパー) 19%、刃器A類(石小刀・両面調整石器) 6%、石庖丁4%、磨製石斧、砥石、未製品が2%、独鈷石、石鏃または石錐、尖頭器、未製品再加工品、楔形石器が各1%である。

石器の大半は各層・面とも西半の高まりより西半側で出土し、中央部、東半と出土量が減少する。

サヌカイト製石器・剥片に関しては次のような特徴が見受けられる。まず、同時期の他遺跡で比較的数量の多い石鏃がない。石核も出土しなかった。また、製品よりもスクレイパーが目立つ。未製品からは背面に自然面を残す素材剥片を石小刀などに使用している例(532・760)や、製作失敗品を刃器に転用している例(562)がある。やや条件の悪い素材も使用し失敗品を利用する様子がみてとれる。剥片類は全体の60%を占め、久宝寺北、久宝寺南、亀井、城山、瓜生堂遺跡の組成比との比較を試みると、他の遺跡の剥方の割合(20~40%)に比べ非常に高い[松山ほか1993]。また、サヌカイト製石器中に占める剥片の割合は64%で、亀井遺跡H3~H8区S D19で55%、唐古、鍵遺跡第20次S X-101で62%と大きな差はない[塚田1990](註)。剥片には、母岩に近い背面に大きく自然面の残るもの(574・614・652など)、両面調整石器を製作する際に産出される調整剥片(565・657・658)などが数は少ないながらも存在する。石材は数種類の自然面が観察でき、垂円礫を使用例や大型剥片の存在もあり、石材の大きさにもいくつかあることから、数カ所の原産地遺跡で採掘された可能性がある[塚田1990]。

磨製石器であるが、石庖丁は自然堆積層中出土資料を含むものの、形状が残るものは4点のみ出土した。石材は石英片岩、千枚岩、緑泥片岩である。いずれも使いこまれた感のあるものであり、使用と砥ぎ直しが繰り返されたようだ。磨製石斧は、太型蛤刃石斧が2点出土した。2点とも刃部に使用感はあまりない破損品である。石材は緑泥岩石英片岩、長石質~砂岩製である。

なお、第7層・第7b層から出土した赤色顔料が付着した礫(592・758)のうち、592は擦り石の可能性はあるが、類例とは形状が違う。758は擦り石ではないとの分析がなされており、その意図は不明ながら興味深い。

石材は、肉眼での観察によるとサヌカイトはいずれも二上山産であり、他の砥石に使用された礫や円化していないものの、遺構から出土した礫の類も近在する石材を利用している様相が明らかになっている。このように、Ⅱ様式段階の短期間小規模集落における河内平野の石器群の様相を提示できたといえる。

古代以降では砥石がほとんどを占める。流紋岩がもっとも多く、他にシルト岩などが使用された。砥石の使い分けにより石材が選択されたと考えられる[野崎1985]。(野口)

おわりに

以上、やや羅列気味ながら今回の調査をふりかえった。各時期とも居住域であれ、生産域であれ、その中心的な位置を検出したものではなく、縁辺部分が検出されたものが多い。今後の調査では、地形においては、微高地や低地部の広がりの確認され、その上でその各地点における遺構の検出や、遺物の出土から、土地利用の様相がより明確にされることが期待される。その中で、当調査区では遺構、遺物が見られない時期である、弥生時代中期後半や7世紀などの様相が明らかにされることにも期待が持てる。

今回は、新上小阪遺跡における初めての調査であったこともあり、当遺跡の基本的様相を提示するよう心がけたが、担当者の力量不足から充分なものとはなっておらず、不明瞭な点が多く残る結果となったが、各時期の景観・様相の復元に供することができるのであれば、幸いである。なお、多くの不備については今後展開する新上小阪遺跡における調査成果とあわせて再考を期したい。(市村)

<参考文献>

(株)地球科学研究所・岸本広樹2002「放射性炭素年代測定」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要XⅧ』(財)大阪府文化財調査研究センター／塚田良道 1990「弥生時代における二上山サヌカイトの獲得と石器生産」『古代学研究』122 古代学研究会／布施市史編纂委員会 1962『布施市史 第1巻』布施市役所／野崎 準1985「東北地方を主とした「砥石」に関する二、三の資料」『東北学院大学 東北文化研究所紀要』第17号 東北学院大学東北文化研究所／埋蔵文化財研究会編1996『考古学と実年代』埋蔵文化財研究会／松山 聡・佐伯公子・溝川陽子1993「第3節 石器」『河内平野遺跡群の動態Ⅵ』(財)大阪文化財センター／松田順一郎2001「河内平野沖積平野南部における完新世後半の旧大和川分流路発達と人間活動」『環境と人間社会』埋蔵文化財研究会／若林邦彦1999「大阪平野における拠点集落の性格—河内平野遺跡群を中心として—」『みずほ』第31号 大和弥生文化の会

註) ただし、[松山ほか1993]では中期全般を対象としていること、[塚田1993]では凹線文出現段階以前の資料を対象としている。また、各遺跡ごとに石器回収率が異なるため、データ条件が完全に一致しないことが前提条件になる。

[周辺遺跡の調査報告書]

山賀遺跡 (大阪文化財センター調査分)

杉本二郎ほか1983『山賀 その1』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター／森井貞雄・高橋雅子ほか1983『山賀 その2』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター／西口陽一・宮野淳一・上西美佐子ほか1984『山賀 その3』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター／石神幸子・小林義孝・生田維道ほか1983『山賀 その4』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター／田中和弘・岸本道昭ほか1986『山賀 その5・6』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター

山賀遺跡 (近畿大学調査分)

山本昭・西村歩・田代克巳・村川行弘1985『山賀遺跡』近畿大学／山本昭1989『近大山賀遺跡Ⅱ』近畿大学

山賀遺跡 (東大阪市調査分)

阿部嗣治・勝田邦夫・松田順一郎・上野利明1981「若江遺跡・山賀遺跡発掘調査概報」『東大阪市遺跡保護調査会発掘調査概要集 1980年度』東大阪市遺跡保護調査会／若江遺跡・山賀遺跡 東大阪市遺跡保護調査会1981『東大阪市遺跡保護調査会発掘調査概要集 東大阪市遺跡保護調査会／下村晴男1990「山賀遺跡発掘調査報告」『山賀遺跡発掘調査概要一付 弥刀・瓜生堂・縄手・若江遺跡発掘調査概要一』東大阪市教育委員会／福永信雄1997「山賀遺跡第4次発掘調査概報」『東大阪市文化財協会概報集—1996年度(1)—』(財)東大阪市文化財協会／金村浩一1995「山賀遺跡第6次調査報告」「山賀遺跡第7次調査報告」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告 1993年度』(財)東大阪市文化財協会／藤城泰・別所秀高1999「山賀遺跡8次・若江北遺跡6次調査」『瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会／松田順一郎1996「山賀遺跡第9次発掘調査報告」『東大阪市文化財協会ニュース』vol.6.No.4 (財)東大阪市文化財協会／別所秀高・井上伸一1999「山賀遺跡第10次・若江北第7次調査」『瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会

山賀遺跡 (八尾市調査分)

近江秀俊1989「山賀遺跡(63-044)の調査」『八尾市文化財調査報告19 八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告Ⅰ』八尾市教育委員会／八尾市教育委員会編1990「山賀遺跡(89-213)の調査」『八尾市文化財調査報告20 八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告Ⅰ』八尾市教育委員会／(財)八尾市文化財調査研究会編1994「山賀遺跡(第1次調査)」「山賀遺跡(第2次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告43』(財)八尾市文化財調査研究会／米田敏幸1995「山賀遺跡(94-396)の調査」「山賀遺跡(94-401)の調査」『八尾市文化財調査報告31 八尾市内遺跡平成6年度発掘調査報告Ⅰ』八尾市教育委員会／(財)八尾市文化財調査研究会編1995「山賀遺跡(第3次調査)」『平成6年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会／原田昌則1998「山賀遺跡(第4次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告60』(財)八尾市文化財調査研究会／森本めぐみ1998「山賀遺跡(第5次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告60』(財)八尾市文化財調査研究会／古川晴久1999「山賀遺跡(第7次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告62』(財)八尾市文化財調査研究会／森本めぐみ2000「山賀遺跡(第8次調査)」「山賀遺跡(第9次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告65』(財)八尾市文化財調査研究会／樋口薫2000「山賀遺跡(第6次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告66』(財)八尾市文化財調査研究会／高萩千秋2000「山賀遺跡(第10次調査)」『八尾市文化財調査研究会報告67』(財)八尾市文化財調査研究会

上小阪遺跡

東大阪市遺跡保護調査会編1975『上小阪遺跡試掘調査報告書』東大阪市遺跡保護調査会／勝田邦夫編1976『上小阪・瓜生堂・新家遺跡調査報告書』東大阪市遺跡保護調査会／福永信雄編1998『上小阪遺跡第3次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会／上野利明1992「上小阪遺跡第4次調査」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告 1991年度』(財)東大阪市文化財協会／松田順一郎1997「上小阪遺跡第5次発掘調査概要」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告 1995年度』(財)東大阪市文化財協会

小若江遺跡 (東大阪市調査分)

菅原章太2000「小若江遺跡第4次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報 平成11年度』東大阪市教育委員会／東大阪市教育委員会編2001「小若江遺跡第5次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報 平成12年度』東大阪市教育委員会

小若江遺跡 (近畿大学調査分)

近畿大学文化会考古学研究会編1986『小若江遺跡』近畿大学小若江遺跡調査運営委員会／藤田義成・西森忠幸1991『小若江遺跡(第5次調査)・山賀遺跡(第4次調査)』近畿大学

基礎データ編

表10 遺構の種類・数一覧

	溝	土坑	井戸	ピット	高まり	落込み	畦畔	鳥島	溝
第1面	2	1	1	0	0	0	1	6	11
第2面	0	0	0	0	0	0	1	6	7
第3-1面	0	6	0	0	0	0	8	5	19
第3-2面	4	0	0	0	0	0	6	4	14
第3-3面	2	1	0	1	0	0	0	1	5
第3-4面	4	5	0	0	0	0	0	0	9
第4面	57	21	0	40	0	0	0	0	118
第4b面	69	43	0	42	0	0	0	0	154
第5-0面	1	0	0	0	1	0	0	0	2
第5-0b面	0	0	0	0	1	0	0	0	1
第5面	1	2	0	2	3	0	11	0	19
第5b面	30	38	0	81	1	2	0	0	152
第6面	6	4	0	1	2	0	10	0	23
第6b面	3	0	0	0	2	2	0	0	7
第7面	6	0	0	1	1	3	3	0	14
第7b面	55	53	0	165	0	2	0	0	274
第8面	2	4	0	21	0	0	0	0	27
第8b面	2	4	0	4	0	0	0	0	10
第9面	0	1	0	0	0	1	5	0	7
合計	245	181	1	358	11	10	45	22	873

表11 落ち込み一覧

第5b面

番号	グリッド	幅(m)	深さ(cm)	埋土
409	A12-c7	3	14~38	5Y2/1黒色 粗~極粗砂混粘質シルト
410	A12-c7	6	35~50	図52

第6b面

番号	グリッド	幅(m)	深さ(cm)	埋土
552	A13-d・e2・3	2.8~4.5	2~24	10Y3/1オリーブ黒色 粘土~シルト

第7面

番号	グリッド	幅(m)	深さ(cm)	埋土
560	A12-c・d9・10	(4.4~6.2)	25	5Y4/1灰色 粗~極粗砂混粘質シルト
561	A12-c・d10	(7.6)	10	5Y3/2オリーブ黒色 シルト~極細砂
562	A13-c・d1	(1.8~4.8)	8	5G3/1暗緑灰色 粘土~シルト

第9面

番号	グリッド	幅(m)	深さ(cm)	埋土
892	A13-f・g3・4	(6.5)	12~44	図5・6

※ 表15~17の遺物の有無の凡例

- ◎：出土遺物があり、図化されている
- ；出土遺物はあるが、図化はされていないもの
- ×：出土遺物がないもの

表12 畦畔一覧

第1面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
7	A13-f2・3・4	東西	(30~50)	5~7	(20)

第3面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
18	A13-f3・4	東西	(60~80)	(10)	(21)

第3-1面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
23	A12-c・d6	南北	(30)	1~6	(14.5)
24	A12-c・d8	南北	(50~80)	5~7	(15.3)
25	A12-c・d10	南北	50~70	3~6	(15.2)
26	A13-d1・2	東西	(55~70)	2~8	(13.7)
28	A13-e2・3	東西	60~100	(10)	(19.7)
29	A13-f3・4	東西	(110)	5~12	(16)
30	A13-e1	南北	(30)	(5)	(1.3)
31	A13-e1	南北	(30~110)	(6)	(2.2)

第3-2面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
42	A12-c・d6	南北	(30)	3~6	(13.6)
43	A12-c・d8	南北	60~70	3~8	(15.1)
44	A12-c・d10	南北	50~70	2~6	(15)
45	A13-e2・3	東西	60	5~8	(16.5)
46	A13-f3・4	東西	(70)	7	(17)
48	A13-g3・4	東西	40~50	2~5	(8)

第5面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
341	A13-e3	北西	(4)	—	(2.3)
342	A13-e3	北西	(4)	—	(3)
343	A13-f3	東西	(4)	—	(4.2)
344	A13-f3	北西	20~40	—	(4.1)
345	A13-d3	北西	40	—	(2.5)
346	A13-e2	北東	40	—	(5.6)
347	A13-e2	北西	40	—	(3)
348	A13-e2	東西	30	—	(1)
349	A13-f3	北西	50	—	(4.0)
350	A13-f3	北東	20~30	—	(6.3)
351	A13-f3	北西	20~30	—	(3.7)

第6面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
524	A12-c7	北東	70	3~15	(1.4)
525	A12-c7	南北	100~130	3~19	(9.7)
526	A12-c・d6・7	東西	120	15	(2.4)
527	A12-d7	北東	50	2~7	(4)
528	A12-c7	北西	40	2~7	0.6
529	A12-d7	北西	60	2~5	0.7
530	A12-c7	南北	70~80	3~11	(3.7)
531	A12-c7	南北	110~120	11~18	(4.1)
532	A12-d9	北東	90	3~10	2.3
533	A12-d9	北西	60~80	2	3.2

第7面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
554	A12-c6・7	北東	(80~180)	12~26	(14)
555	A12-c・d6・7	東西	(200)	8~41	(5.2)
557	A12-c・d9	北西	(20)	—	(9.0)

第9面畦畔

番号	グリッド	主軸方位	幅(cm)	高さ(cm)	検出長(m)
876	A12-c8	東西	50	2~3	(2)
877	A12-c・d8	北東	40~50	2~4	(15)
878	A12-c・d8	北西	50	2~5	(3.5)
879	A12-c・d8	北西	50	3	(2)
880	A12-c・d8	北西	50	3	(1.5)

表13 島島一覧

第1面島島

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
1	A12-c・d7	南北	(2.9)	—	(15.3)
2	A12-c・d8	南北	(21.2)	—	(15.1)
3	A13-c1	東西	(0.5)	—	(2.9)
4	A13-d1・2・3	東西	(3.8)	—	(15)
5	A13-e1・2・3・4	東西	(9.4)	—	(21.6)
6	A13-f・g3・4	東西	(8.8)	—	(20)

第2面島島

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
12	A12-c・d7	南北	(4.2)	16~20	(15.2)
13	A12-c・d8・9・10	南北	(20.2)	15~20	(15.3)
14	A13-c1	東西	(0.8)	12	(3.4)
15	A12-d10・A13-d1・2	東西	(4)	17	(20.7)
16	A13-e2・3・4	東西	(8.3)	13	(22)
17	A13-f・g3・4	東西	(9.3)	16	(21)

第3-1面島島

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
19	A12-c・d7	南北	3.2~3.4	14~34	(15.3)
20	A12-c・d8・9	南北	10.3~11	5~39	(15.3)
21	A13-c1	東西	(1.6)	(18)	(6.5)
22	A13-f・g3・4	東西	(6.5)	(11)	(15.2)
27	A13-d・e2・3	東西	(1.2)	15~25	(13.8)

第3-2面島島

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
38	A12-c・d7	南北	2.5~3	17~26	(15.1)
39	A12-c・d8	南北	(4.5~5.2)	17~37	(15.2)
40	A13-c1	東西	(1.5)	19	(3.5)
41	A13-e2・3・4	東西	(1)	4~7	(18.1)

第3-3面島島

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
52	A13-e・f・g3・4	東西	5	1~9	(21.5)

表14 高まり一覧

第5-0面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
335	A13-e・f・g3・4	北西	0.1~2.6	1~9	(21.5)

第5-0b面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
337	A13-e・f13	北西	1.6~2.8	2~17	(14.5)

第5面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
338	A12-c・d6・7	北西	(0.4~4.7)	(3~7)	(11.5)
339	A12-c・d7	南北	(4.6)	(5~15)	(11.5)
340	A12-c・d8	南北	(0.6~2.5)	(2~10)	(10)

第5b面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
357	A13-d2	北西	0.7~1.4	—	(5.5)

第6面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
522	A12-c・d8・9	北西	(7.2~8.6)	(53~81)	(16.5)
523	A13-d・e・f2・3	北西	(3.5~5)	(60)	(15.2)

第6b面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
546	A12-c・d8・9	北西	(8)	(40)	(16.8)
547	A13-d・e・f2・3	北西	(4.7)	—	(15)

第7面高まり

番号	グリッド	主軸方位	幅(m)	高さ(cm)	検出長(m)
553	A13-d・e・f2・3	北西	(4)	40~70	(15)

表15 ピット一覧

第3-3面ピット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
55	A13-f4	円形		30	30	(1)	N3/暗灰色 シルト	×	

第4面ピット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
135	A12-c6	円形		20	20	5	2.5Y5/4黄褐色～5/2暗灰黄色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
136	A12-c7	円形	南北	40	30	7	2.5Y5/4黄褐色～5/2暗灰黄色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
137	A12-d7	円形		40	40	6	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	◎	8世紀?
141	A12-d7	円形		30	30	13	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
142	A12-c8	円形		40	(30)	5	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
143	A12-d8	円形		30	30	7	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
144	A12-d8	円形		20	20	6	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
145	A12-c8	円形	南北	40	30	3	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
146	A12-d8	円形		40	(30)	7	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	○	
148	A12-d8	円形		30	30	7	10YR4/1褐灰色～2/2黒褐色 砂質シルト (粗砂をほとんど含まない。極細砂ブロック状に含む)	×	
149	A12-d8	円形		20	(10)	14	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
150	A12-d8	円形		20	20	(1)	10YR4/1褐灰色～2/2黒褐色 砂質シルト (粗砂をほとんど含まない。極細砂ブロック状に含む)	×	
151	A12-c8	楕円形	南北	45	20	24	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	◎	8世紀後半?
152	A12-c8	円形		20	20	8	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
153	A12-c8	円形		20	20	8	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含む)	×	
154	A12-c9	円形		30	30	10	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
155	A12-c9	円形		40	(40)	6	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
156	A12-c9	円形		30	30	9	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
157	A12-c9	円形		30	30	10	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
158	A12-c9	円形		30	30	5	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
159	A12-c9	円形		30	30	11	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
160	A12-c9	円形		40	40	11	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	10世紀後半～11世紀初頭
161	A12-d9	円形		20	20	9	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
162	A12-d9	円形		20	20	(1)	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
164	A12-d9	円形		40	40	14	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	◎	12世紀?
165	A12-d9	円形		(40)	(30)	6	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
169	A12-c9	円形		30	30	9	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
171	A12-d9	円形		35	25	5	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
172	A12-d9	円形		30	30	12	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
173	A12-d9	円形		20	(10)	13	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
174	A12-d9	円形		30	30	7	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
175	A12-d9	円形		40	40	2	10YR2/1黒色 粘土質シルト (極細砂ブロック多く含む)	×	
176	A12-c10	円形		40	40	9	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
177	A12-c10	円形		45	45	19	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	10世紀?
178	A12-d10	円形		30	30	15	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
179	A12-d10	円形		30	(20)	3	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
180	A12-d10	円形		30	30	22	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
181	A12-d10	円形		40	40	(1)	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
182	A12-c10	円形		20	20	9	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
183	A13-d1	円形		20	20	4	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	

第4b面ピット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
255	A12-c7	円形		40	40	8	2.5Y5/1～4/1黄灰色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
256	A12-d7	円形		45	45	10	2.5Y5/1～4/1黄灰色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
257	A12-c7	円形		30	30	9	2.5Y5/1～4/1黄灰色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
258	A12-d8	円形		30	(10)	6	2.5Y5/1～4/1黄灰色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	
259	A12-c8	円形		(45)	(40)	29	10YR5/1褐灰色～4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	○	
262	A12-d8	円形		30	20	7	10YR5/1褐灰色～4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	
263	A12-d8	円形		30	30	10	10YR5/1褐灰色～4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	
268	A12-d8	円形		30	(20)	(1)	10YR5/1褐灰色～4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	

269	A12-c9	円形		45	45	(1)	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
270	A12-d9	円形		30	30	11	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
271	A12-d9	円形		30	30	8	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	
272	A12-d9	円形		20	20	5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
273	A12-d9	円形		20	20	8	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
274	A12-d9	円形		30	40	17	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
277	A12-d9	円形		40	(30)	9	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
278	A12-d9	円形		20	20	6	10YR5/1褐灰色~4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
279	A12-c9	円形		30	20	11	10YR5/1褐灰色~4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
295	A12-d10	円形		20	(10)	5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
297	A12-d10	円形		40	30	7	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	
300	A12-c10	円形		20	20	18	5Y6/1灰色	粗~極粗砂混粘質シルト	×	
302	A12-c10	円形		20	(10)	12	5Y6/1灰色	粗~極粗砂混粘質シルト 図37	○	
304	A12-c10	円形		40	40	(1)	10YR4/4褐色	中砂~細礫混粘質シルト	×	
306	A12-c10	隅丸方形	東西	(25)	25	5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	極粗砂混粘質シルト	×	
309	A12-d10	楕円形		25	15	6	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	
310	A12-d10	楕円形		30	15	6	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
311	A12-d10	円形		40	40	22	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	
312	A12-c10	円形		30	30	12	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
313	A12-c10	円形		20	20	13	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	
315	A12-d10	円形		20	20	6	10YR5/1褐灰色~4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	○	
317	A12-d10	円形		30	30	8	10YR5/1褐灰色~4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
320	A12-d10	円形		20	20	7	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
322	A12-d10	円形		20	20	8	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
323	A12-d10	円形		10	10	3	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
326	A13-d1	円形	南北	30	(10)	3	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	○	
327	A13-d1	円形		20	20	4	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	×	
328	A13-d1	円形		30	30	7	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	×	
329	A13-d1	円形		40	40	9	2.5Y5/2暗黄褐色~4/6オリーブ褐色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	
330	A13-d1	円形		35	35	3	10YR4/4褐色	極粗砂~細礫混砂質シルト	×	
333	A13-d1	円形		30	30	11	2.5Y5/2暗黄褐色~4/6オリーブ褐色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
334	A12-c8	円形		20	20	13	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
895	A12-d7	楕円形		45	50	-	10YR5/1褐灰色~4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
896	A13-d1	円形		10	12	-	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	

第5面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
355	A12-c7	円形		30	30	(1)	10YR5/4にぶい黄褐色~4/2灰黄褐色	粗砂~細礫混粘質シルト	×
356	A12-c8	円形		30	30	(1)	10YR5/4にぶい黄褐色~4/2灰黄褐色	粗砂~細礫混粘質シルト	○

第5b面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
389	A12-c6	円形		20	20	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
390	A12-c7	円形		35	(20)	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
392	A12-c7	楕円形	南北	40	(20)	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
393	A12-c7	円形		25	20	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
394	A12-c7	円形		30	30	10	図67		○
395	A12-c7	円形		40	40	6	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
397	A12-c7	円形		25	25	10	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○
398	A12-c7	楕円形	北東	45	35	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○
399	A12-c7	円形		40	35	6	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強) 図65	○
400	A12-c7	円形		30	30	3	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強) 図59	◎
401	A12-c7	円形		25	25	11	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○
402	A12-c6	円形		30	30	5	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○
403	A12-d6	円形		40	(20)	15	図52		○
404	A12-d6	円形		40	35	5	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
405	A12-d7	楕円形	北西	45	33	22	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○
407	A12-c6	楕円形	東西	(30)	30	5	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
408	A12-c7	円形		45	45	18	図67		○
413	A12-c・d7	円形		25	25	(1)	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
414	A12-d7	円形		30	30	3	2.5Y4/1黄灰色	粗砂~極粗砂粘質シルト	×
416	A12-c7	円形		35	30	5	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
420	A12-c7	円形		35	35	6	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
421	A12-c7	楕円形?	北西	30	(20)	35	図65		○
422	A12-c7	円形		40	40	5	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
424	A12-d7	円形		30	30	(1)	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×
426	A12-d7	円形		30	30	3	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
427	A12-d7	円形		15	15	3	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×

428	A12-d7	円形		20	20	4	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×	
429	A12-d7	円形		30	30	(1)	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
431	A12-c7・8	円形		35	28	14	5Y2/1黒色	中～粗砂混粘質シルト 図65	×	
432	A12-c8	楕円形	北西	40	30	16	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
433	A12-c7	円形		45	40	18	図67		◎	6世紀後半
434	A12-d7	楕円形	南北	(20)	25	(1)	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
435	A12-d7	隅丸方形	東西	45	30	7	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
436	A12-d7	円形		20	20	3	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
440	A12-d8	円形		40	40	4	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	布留式
452	A12-c8	円形		25	(15)	21	図65		○	布留式
454	A12-c8	楕円形	東西	40	20	1	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
455	A12-c8	円形		25	25	6	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
457	A12-c8	楕円形	北東	40	25	6	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強) 図65	○	
458	A12-c8	円形		25	25	3	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
460	A12-c8	円形		35	35	27	図67		×	
461	A12-c8	円形		40	35	28	図67		×	
462	A12-c8	円形		40	40	16	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む) 図65	×	
463	A12-c8	円形		30	25	24	図67		×	
464	A12-c8	円形		30	30	40	図67		×	
465	A12-c8	円形		30	30	18	図67		×	
467	A12-c8	円形		45	40	21	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む) 図67	×	
470	A12-c8	円形		30	30	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
471	A12-c8	円形		40	40	(1)	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	
472	A12-c8	円形		25	25	4	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	
473	A12-c8	円形		30	25	43	図65		×	
474	A12-c8	円形		40	40	10	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	布留式
475	A12-c8	円形		30	30	6	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
476	A12-c8	円形		40	40	8	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
479	A12-c8	楕円形	南北	43	33	20	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
480	A12-c8	円形		40	40	16	図67		×	
481	A12-c8	円形		25	25	26	図67		×	
482	A12-c8	円形		40	40	6	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
483	A12-c8	円形		35	35	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
484	A12-c8	円形		30	25	3	5Y2/1黒色	粘質シルト (砂をほとんど含まない)	×	
485	A12-c8	円形		25	20	5	5Y2/1黒色	粘質シルト (砂をほとんど含まない)	○	
486	A12-c8	円形		35	30	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	
487	A12-d8	円形		40	40	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	布留式
488	A12-d8	円形		30	(20)	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
491	A12-c8	楕円形	南北	35	25	1	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	布留式
492	A12-c8	円形		40	(30)	(1)	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
495	A12-c8	円形		30	25	6	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	布留式
496	A12-c8	円形		30	25	4	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	
500	A12-c8	円形		25	(20)	1	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
501	A12-c・d8	楕円形	南北	45	35	15	図67		×	
503	A12-d8	楕円形	南北	40	30	5	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
504	A12-d8	楕円形	南北	43	35	21	図67		×	
505	A12-d8	円形		40	35	17	図67		×	
506	A12-d8	円形		30	30	4	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
507	A12-d8	円形		35	30	5	5Y2/1黒色	粘質シルト (砂をほとんど含まない)	×	
512	A12-d8	円形		40	40	4	5Y2/1黒色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	
515	A12-c9	円形		30	30	13	N3/暗灰色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
516	A12-c9	円形		20	20	11	N3/暗灰色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
517	A12-c10	円形		20	20	5	N5/灰色	細砂混粘質シルト	×	
518	A12-c10	円形		40	40	(1)	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色	粘土～シルト	×	
519	A12-c10	円形		30	30	16	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色	粘土～シルト	○	
516	A12-c9	円形		20	20	11	N3/暗灰色	粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
517	A12-c10	円形		20	20	5	N5/灰色	細砂混粘質シルト	×	

518	A12-c10	円形		40	40	(1)	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	×	
519	A12-c10	円形		30	30	16	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	○	布留式

第6面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
543	A13-e2	円形		45	45	(1)	2.5GY4/1～3/1暗オリーブ灰色 粘土～極細砂	×	

第7面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
567	A13-f5	円形		30	30	4	10GY2/1緑黒色 シルト～極細砂	×	

第7b面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
568	A13-f4	円形		40	40	7	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層(第7層)	○	弥生
571	A13-f4	円形		45	40	24	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層(第7層)	×	
634	A13-d3	円形		15	15	14	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
635	A13-e3	円形		15	15	10	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	
636	A13-e3	円形		15	15	15	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
637	A13-e3	円形		10	10	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
638	A13-e3	円形		30	20	12	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
639	A13-e3	円形		20	20	10	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
640	A13-e3	円形		20	15	34	図111	×	
641	A13-e3	円形		20	20	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
642	A13-e3	円形		20	15	43	図111	◎	弥生中期前半
643	A13-e3	円形		15	15	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
644	A13-e3	円形		25	25	10	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
645	A13-e3	円形		25	25	15	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	
646	A13-e3	円形		30	30	25	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	◎	弥生中期前半
647	A13-e3	楕円形	北西	45	20	11	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	弥生中期前半
648	A13-e3	円形		15	15	15	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	◎	弥生中期前半
649	A13-e3	円形		10	10	7	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
650	A13-e3	円形		15	15	1	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
651	A13-e3	円形		13	13	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
652	A13-e3	円形		30	30	6	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
653	A13-e3	円形		30	30	8	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
654	A13-e3	円形		25	25	3	10Y3/2オリーブ黒色 細砂に植物遺体を含む	×	
655	A13-e3	楕円形	南北	45	30	4	10Y3/2オリーブ黒色 細砂に植物遺体を含む	×	
656	A13-e3	円形		10	10	3	10Y3/2オリーブ黒色 細砂に植物遺体を含む	×	
659	A13-e3	円形		15	15	33	5BG2/1青黒色 粘土～シルト+細～中砂	×	
660	A13-e3	楕円形	南北	20	13	8	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
661	A13-e3	楕円形	南北	20	10	9	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
662	A13-e3	楕円形	北西	15	10	5	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
664	A13-e3	円形		18	15	140	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
666	A13-e3	円形		40	40	7	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
668	A13-e3	円形		15	15	9	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
669	A13-e3	円形		40	40	8	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	○	弥生
670	A13-e3	円形		25	25	4	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	×	
671	A13-e3	円形		20	20	4	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	×	
672	A13-e3	円形		20	20	4	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	×	
674	A13-e3	円形?		(40)	(40)	9	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
679	A13-e2	円形		40	40	5	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	弥生
680	A13-e2	円形		40	40	9	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	◎	弥生中期前半
681	A13-e2	円形		30	30	8	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	弥生中期前半
682	A13-e2	円形		30	30	21	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	弥生中期前半
683	A13-e2	円形		20	20	4	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
684	A13-e2	円形		20	20	16	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
685	A13-f2	円形		15	15	5	10Y3/1オリーブ黒色シルトに7.5Y2/1黒色シルト～細砂植物遺体を含む	×	
687	A13-f3	円形		20	20	6	5Y2/1黒色～10Y3/2オリーブ黒色 シルト～細砂	×	
688	A13-f3	楕円形	北西	40	(20)	(1)	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層(第7層)	×	
689	A13-f3	円形		45	45	6	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層(第7層)	×	

690	A13-f3	円形		40	30	3	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
691	A13-f3	円形		30	30	5	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
696	A13-e4	円形		25	25	10	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
700	A13-e4	円形		10	10	4	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
701	A13-e4	円形		10	10	19	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
702	A13-e4	円形		10	10	20	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの 攪拌層(第7層)	×	
707	A13-f4	円形		30	30	15	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
709	A13-f4	円形		10	10	16	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
710	A13-f4	円形		10	10	29	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
711	A13-f4	円形		10	10	14	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
712	A13-f4	円形		20	10	29	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
713	A13-f4	円形		20	20	32	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
714	A13-f4	円形		20	20	18	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
715	A13-f4	円形		20	20	9	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
716	A13-f4	円形		30	25	14	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
717	A13-f4	円形		35	30	32	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
718	A13-f4	円形		25	25	11	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	弥生中期前半
720	A13-f4	円形		40	40	(1)	図111	×	
721	A13-f4	円形		25	20	33	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
725	A13-f4	円形		10	10	26	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	×	
726	A13-f4	円形		30	30	13	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
727	A13-f4	円形		15	15	13	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
728	A13-f4	円形		20	20	7	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
729	A13-f4	円形		30	30	7	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
730	A13-f4	円形		30	30	27	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
731	A13-f4	円形		40	40	33	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
732	A13-f4	円形		40	40	28	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
734	A13-f4	楕円形		(35)	30	(1)	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	○	弥生中期前半
735	A13-f4	楕円形		45	48	16	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	◎	弥生中期前半
737	A13-f4	円形		30	30	8	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	×	
738	A13-f4	円形		25	25	5	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	×	
739	A13-f4	円形		30	30	5	10Y2/1黒色 細～粗砂 シルトブロックを含む	×	
740	A13-f4	円形		40	40	36	10Y2/1黒色 細～粗砂 やや淡色のシルトブロックを含む	×	
741	A13-f4	円形		30	30	32	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
742	A13-f4	円形		30	30	10	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
743	A13-f4	円形		30	30	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	弥生中期前半
744	A13-f4	円形		30	30	5	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
745	A13-f4	円形		35	30	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
746	A13-f4	楕円形		40	15	12	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
748	A13-f4	楕円形		(45)	35	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
749	A13-f4	楕円形		(40)	40	4	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
750	A13-f4	円形		(15)	20	4	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
751	A13-f4	円形		20	20	5	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
752	A13-f4	円形		20	(15)	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
753	A13-f4	円形		20	20	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
754	A13-f4	楕円形		40	25	28	10Y2/1黒色 細～粗砂 やや淡色のシルトブロックを含む	○	弥生中期前半
755	A13-f4	円形		45	45	5	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	○	
756	A13-f4	円形		40	40	25	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	◎	弥生中期前半
757	A13-f4	円形		25	25	9	図114	○	弥生中期前半
759	A13-f4	円形		20	20	(1)	10Y3/1オリーブ黒色 極細～細砂 に7.5Y4/3暗オリーブ色 細砂のブロックを含む	○	弥生中期前半
760	A13-f4	円形		20	20	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	弥生中期前半
761	A13-f4	円形		30	25	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
762	A13-f4	円形		20	20	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
763	A13-f4	楕円形		(20)	15	4	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
764	A13-f4	円形		20	(10)	2	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
765	A13-f4	円形		20	15	5	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
766	A13-f4	円形		25	20	10	7.5Y3/1オリーブ黒色 細～中砂	×	
769	A13-f4	円形		25	25	23	N1.5/黒色 シルト～粗砂	×	
770	A13-f4	円形		15	15	14	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
771	A13-f4	円形		30	30	14	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
774	A13-f4	円形		20	20	5	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
775	A13-f4	円形		20	20	5	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
777	A13-f5	円形		10	10	12	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	×	
778	A13-f4・5	円形		20	20	8	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	
779	A13-f4	円形		35	35	(1)	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	◎	弥生中期前半

780	A13-f4	円形		30	30	26	N1.5/黒色	シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	弥生中期前半
782	A13-f4	円形		30	30	12	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
783	A13-f4	円形		20	20	11	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
784	A13-f4	円形		30	25	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	○	
785	A13-f4	円形		20	15	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
786	A13-f4	円形		10	10	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
787	A13-f-g4	円形		40	40	12	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	◎	弥生中期前半
789	A13-g4	円形		20	15	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
790	A13-g4	円形		40	(30)	17	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
791	A13-g4	円形		15	(10)	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
792	A13-g4	円形		15	10	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
793	A13-g4	円形		15	15	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
796	A13-g4	楕円形	北西	45	35	48	図114		×	
798	A13-g4	円形		30	30	40	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
799	A13-f4	楕円形	南北	30	15	5	N1.5/黒色	シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
803	A13-f4	円形		20	20	12	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
804	A13-f4	円形		45	45	4	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
805	A13-f4	円形		25	25	8	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
806	A13-f4	円形		15	15	5	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
807	A13-f4	円形		(15)	(15)	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
808	A13-f4	円形		(20)	(20)	1	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
810	A13-f4	円形		20	20	21	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
811	A13-e3	楕円形	北東	40	30	18	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
812	A13-e3	円形		20	20	4	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
813	A13-d2	円形		30	25	42	図115		×	
814	A13-d2	円形		20	20	27	図115		○	弥生中期前半
815	A13-d2	円形		10	10	9	図117		×	
816	A13-d2	円形		20	20	20	図115		×	
817	A13-d2	円形		30	25	32	図115		×	
818	A13-d2	円形		20	20	20	図115		×	
819	A13-d2	円形		20	20	11	図117		×	
820	A13-d-e2	円形		20	20	22	図117		○	弥生中期前半
821	A13-d-e2	円形		20	20	5	図117		×	
822	A13-e2	円形		15	15	2	図117		×	
823	A13-e2	円形		20	20	29	図117		×	
824	A13-e2	円形		15	15	18	図117		×	
825	A13-e2	円形		20	20	15	図117		×	
826	A13-d2	円形		15	15	19	図117		×	
827	A13-d2	円形		20	20	28	図115		×	
828	A13-d2	楕円形	東西	35	25	27	図115		×	
829	A13-d2	円形		20	20	32	図115		○	
830	A13-d2	円形		20	20	26	図115		×	
831	A13-d2	円形		20	20	36	図115		×	
832	A13-d2	円形		25	25	23	図117		×	
833	A13-d2	円形		20	20	12	図117		×	
861	A13-d2	円形		25	20	8	10Y6/1灰色・5G2/1緑黒色	粘土～極細砂	×	
862	A13-d2	円形		10	(5)	15	図117		×	
863	A13-d2	円形		20	20	19	図117		×	
864	A13-d2	円形		10	10	11	図117		×	
865	A13-d2	円形		20	20	6	図117		×	
866	A13-d2	円形		20	20	10	図117		×	
893	A13-d2	円形		15	15	9	10Y6/1灰色・5G2/1緑黒色	粘土～極細砂	×	
894	A13-f4	円形		20	20	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～10Y2/1黒色	細～中砂	◎	弥生中期前半

第8面ビット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
840	A13-d2	円形		20	20	(1)	5GY4/1暗オリーブ灰色 粘土～シルト (第7b層)	×	
843	A13-e2	円形		20	20	7	10Y3/1オリーブ黒色 粘土～シルト かなり砂質 (第7層)	×	
844	A13-f2	円形		15	15	3	10Y3/2オリーブ黒色～2/1黒色 極細砂 有機物を多く含む	×	
845	A13-f2	円形		15	15	4	10Y3/2オリーブ黒色～2/1黒色 極細砂 有機物を多く含む	×	
847	A13-f4	円形		20	20	(1)	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
848	A13-f4	円形		20	20	4	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
849	A13-f4	円形		10	10	(1)	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
850	A13-f4	楕円形	東西	45	20	4	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
851	A13-f4	円形		20	20	(1)	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
852	A13-f4	円形		15	15	4	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
853	A13-f4	円形		15	15	7	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
854	A13-f4	円形		25	25	8	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
855	A13-f4	円形		25	25	9	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
856	A13-f4	円形		20	20	8	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	
857	A13-f4	円形		15	15	4	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色 シルト やや土壌化している	×	

858	A13-f4	円形		25	25	5	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色	シルト	やや土壌化している	×	
859	A13-f4	円形		20	20	5	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色	シルト	やや土壌化している	×	
860	A13-f4	円形		30	25	3	5Y7/3浅黄色～10Y4/1灰色	シルト	やや土壌化している	×	
882	A13-f4	円形		20	20	6	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土～シルト	(第7b層)	×	
883	A13-f4	円形		20	20	(1)	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土～シルト	(第7b層)	×	
884	A13-f4	円形		15	(10)	(1)	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土～シルト	(第7b層)	×	
885	A13-g4	円形		40	40	32	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土～シルト	(第7b層)	×	
886	A13-g4	円形		30	30	5	5GY4/1暗オリーブ灰色	粘土～シルト	(第7b層)	×	

第8b面ピット

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
868	A13-e2	円形		25	25	16	5Y3/1オリーブ黒色 粘性の強いシルト	×	
869	A13-e2	円形		25	25	33	5Y3/1オリーブ黒色 粘性の強いシルト	×	
870	A13-e2	円形		25	25	30	5Y3/1オリーブ黒色 粘性の強いシルト 植物遺体を含む	○	弥生中期前半
871	A13-e2	円形		40	40	6	5Y3/1オリーブ黒色 粘性の強いシルト	×	

表16 土坑・井戸一覧

第1面土坑・井戸

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
10	A12-d8	円形		80	(60)	18	5GY4/1暗オリーブ灰色 中～粗砂混粘質シルト	×	
11	A13-e2	円形		130	(70)	230	図11	○	

第3-1面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
32	A12-d9	隅丸方形	北西	100	90	60	図16	○	現代
33	A12-d9・10	不整形	東西	540	(260)	120	図16	○	近世後半
34	A12-d9	隅丸方形?	東西	(260)		190	図16	○	近世後半
35	A12-c10	円形	東西	120	(90)	31	10Y3/2オリーブ黒色 中～粗砂混シルト	○	近世後半
36	A13-d2	隅丸方形	北西	120	110	48	7.5Y2/1黒色・2.5GY3/1暗オリーブ灰色の攪拌されたシルト	○	現代
37	A13-d2	楕円形	東西	100	80	25	7.5Y4/2・5Y4/2灰オリーブ色 シルト～細砂	×	

第3-3面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
56	A13-g3	円形		50	50	15	2.5Y4/2暗灰黄色 粗砂	○	13世紀前半

第3-4面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
61	A13-c・d2	隅丸方形		210	210	54	図25	○	
62	A13-c・d2	楕円形	南北	(250)	220	56	図25	×	
63	A13-d2	隅丸方形		160	160	51	図25	×	
64	A13-d2	隅丸方形	南北	190	160	57	図26	×	
65	A13-e2・3	隅丸方形	東西	380	210	48	図26	×	

第4面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
123	A12-d7	楕円形	南北	110	50	6	10YR3/1黒褐色ブロック多く含む、10YR4/4褐色・4/1褐灰色粗砂混砂質シルト	○	
124	A12-d7	隅丸方形	南北	170	140	5	10YR3/1黒褐色ブロック多く含む、10YR4/4褐色・4/1褐灰色粗砂混砂質シルト	◎	8世紀
125	A12-d6・7	不整形		(150)	(130)	(7)	10YR4/6褐色・5/1褐灰色 粗砂混砂質シルト (やや粘質シルト)	○	(8世紀?)
126	A12-c7	不整形		(100)	(100)	5	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	○	
127	A12-c・d8	隅丸方形	南北	230	210	55	図30	×	13世紀?
128	A12-d8	隅丸方形	南北	240	220	70	図30	○	13世紀?
129	A12-d8	円形		80	65	6	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	◎	10世紀?
130	A12-d8	楕円形	東西	70	50	19	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	○	
131	A12-d8	楕円形	北東	110	50	20	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	○	
132	A12-c9	楕円形	南北	90	50	25	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	◎	8世紀後半
133	A12-c10	円形		80	70	21	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	◎	
134	A12-d6	円形		(60)	(40)	7	2.5Y5/1黄灰色・10YR5/1～4/3にぶい黄褐色 粗砂混粘質シルト	×	
138	A12-c7	円形?		(50)	(20)	(1)	10YR3/3暗褐色 粗砂混砂質シルト	◎	
139	A12-d7	円形		50	50	5	2.5Y5/1黄灰色・10YR5/1～4/3にぶい黄褐色 粗砂混粘質シルト	○	
140	A12-c7・8	円形		50	50	13	2.5Y5/1黄灰色・10YR5/1～4/3にぶい黄褐色 粗砂混粘質シルト	×	
147	A12-d8	円形		50	50	(19)	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	○	
163	A12-d9	楕円形	東西	75	30	12	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂を含む)	○	
166	A12-d9	楕円形?	南北	(60)	100	7	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
167	A12-d9	楕円形	南北	60	40	9	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
168	A12-c9	楕円形	北西	55	35	19	10YR5/1褐灰色～3/3暗褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	◎	8世紀後半
170	A12-c9	楕円形	北西	65	40	11	2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	×	

第4b面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
251	A12-c7	隅丸方形	東西	100	(50)	8		×	
252	A12-c・d7	隅丸方形	南北	200	150	90	図35	◎	9世紀前半
253	A12-d6・7	不整形		(250)	(150)	14	2.5Y6/1黄灰色・10YR4/4褐色 粗～極粗砂混砂質シルト	○	
254	A12-d7	不整形	南北	(650)	550	52	図35	◎	11世紀
260	A12-c8	楕円形	北東	50	30	5	2.5Y6/1黄灰色・10YR4/4褐色 粗砂～細礫混砂質シルト	○	
261	A12-d8	楕円形	南北	50	45	14	10YR6/1褐灰色～3/2黒褐色 砂質シルト	○	
264	A12-c8	楕円形	南北	50	50	6	10YR5/1褐灰色～3/2黒褐色 砂混粘土質シルト	×	

265	A12-d8	楕円形	北西	110	40	11	10YR5/1褐色～4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
266	A12-d8	不整円形	北西	90	70	12	10YR5/1褐色～4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
267	A12-d8	楕円形	東西	50	30	5	10YR5/1褐色～4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
275	A12-d9	円形		60	50	19	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	○	
280	A12-c9	楕円形	北東	65	45	5	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	×	
281	A12-d9	楕円形	南北	100	75	12	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	○	
282	A12-d9	楕円形	東西	50	40	17	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	×	
283	A12-c10	円形?	東西	95	(40)	9	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	×	
284	A12-c10	隅丸方形	南北	70	60	36	図37		○	9世紀
285	A12-c10	隅丸方形	北東	110	90	49	図37		○	
286	A12-c10	円形		70	70	36	図37		◎	9世紀前半
287	A12-c・d10	円形	南北	80	60	55	図37		◎	9世紀前半
288	A12-d10	不整円形		90	90	38	図37		◎	9世紀前半
289	A12-c10	不整円形		90	80	(26)	図37		◎	9世紀前半
290	A12-c10	円形		110	110	42	図37		○	
291	A12-c10	不整円形		100	95	45	図37		◎	9世紀
292	A12-c10	円形		100	80	28	図37		◎	9世紀
293	A12-c10	隅丸方形	南北	110	100	29	図37		○	
294	A12-c10	楕円形	南北	145	115	25	図37		○	
296	A12-d10	楕円形	南北	100	40	21	図37		×	
298	A12-c・d10	楕円形	北東	360	200	57	図38		◎	13世紀
299	A12-c・d10	楕円形	北東	250	130	21	図37		○	
301	A12-c10	楕円形	東西	260	140	37	図37		◎	
303	A12-c10	不整円形	東西	300	130	50	図37		×	
305	A12-c10	不整円形	北東	175	125	33	図38		×	
307	A12-c・d10	隅丸方形	南北	380	230	42	図38		◎	12世紀後半
308	A12-d10	円形		100	(40)	34	図37		×	
314	A12-d10	不整円形		75	65	18	10YR6/1褐色～3/2黒褐色	砂質シルト	○	
316	A12-d10	円形		55	55	13	10YR5/1褐色～4/2灰黄褐色	砂混砂質シルト	×	
318	A12-d10	隅丸方形?		(50)	(30)	7	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	×	
319	A12-d10	隅丸方形?		(50)	(25)	5	2.5Y5/1～4/1黄灰色	粗～極粗砂混砂質シルト	×	
321	A12-d10	楕円形	東西	75	50	13	10YR6/1褐色～3/2黒褐色	砂質シルト	○	
324	A13-c1	楕円形	南北	110	80	4	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	×	
325	A13-d1	円形		70	70	11	10YR4/4褐色	極粗砂～細礫混砂質シルト	◎	8世紀?
331	A13-d1	不整円形		(130)	(40)	4	10YR4/4褐色	極粗砂～細礫混砂質シルト	○	
332	A13-c・d1	円形		140	130	11	10YR4/4褐色	極粗砂～細礫混砂質シルト	○	

第5面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
353	A12-c・d7	隅丸方形	北東	420	110	(1)	10YR5/4にぶい黄褐色～4/2灰黄褐色 粗砂～細礫混粘質シルト	○	
354	A13-c1	円形	南北	120	(80)	35	図46	×	

第5b面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
388	A12-c6	円形		55	20	(1)	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
391	A12-c6・7	円形		50	50	(1)	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
396	A12-c7	不整円形	北西	70	40	11	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	◎	布留式前半
406	A12-c6	楕円形	南北	(60)	40	(1)	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強) 図60	◎	布留式前半
411	A12-c7	楕円形	南北	170	130	11	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	◎	布留式
412	A12-d7	楕円形	北西	130	100	110	図61	◎	布留式後半
415	A12-d7	楕円形	南北	(170)	130	49	図67	◎	布留式後半
417	A12-c7	隅丸方形	北東	80	45	2	10YR4/4褐色 粗砂混砂質シルト	×	
418	A12-c7	不整円形	南北	90	70	8	10YR4/4褐色 粗砂混砂質シルト	○	布留式
419	A12-d7	楕円形	南北	60	50	11	10YR4/4褐色 粗砂混砂質シルト	○	
423	A12-c7	不整円形	北東	75	45	47	図67	×	
425	A12-d7	円形		50	50	6	10YR4/4褐色 粗砂混砂質シルト	○	
430	A12-d7	楕円形	北東	50	40	12	10YR4/4褐色 粗砂混砂質シルト	×	
437	A12-d7・8	隅丸方形	東西	215	200	32	図62	◎	布留式
438	A12-d7・8	楕円形	北西	(50)	40	7	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	布留式前半
439	A12-d7・8	楕円形	北西	(55)	40	6	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	×	
450	A12-c8	隅丸方形	東西	80	30	4	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
451	A12-c8	楕円形	東西	50	35	7	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
453	A12-c8	楕円形	北東	80	35	3	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	布留式
456	A12-c8	隅丸方形	東西	180	110	15	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	◎	布留式前半
466	A12-c8	円形		53	50	9	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強) 図70	◎	布留式後半

468	A12-c8	楕円形	北東	60	40	7	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (第5b層のブロック明瞭に含む)	○	布留式
478	A12-c8	楕円形	北西	50	40	31	図67	×	
490	A12-c8	隅丸方形	南北	190	180	16	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	○	布留式
493	A12-c8	楕円形	北西	65	50	33	図67	○	布留式前半
494	A12-c8	不整円形	北西	80	60	8	5Y2/1黒色 粘質シルト (砂をほとんど含まない)	○	
497	A12-c8	円形		180	180	(1)	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	◎	弥生後期?
498	A12-c8	楕円形	北西	180	125	(1)	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	○	
499	A12-c8・9	不整円形	北東	230	210	7	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	×	
502	A12-d8	楕円形	北西	85	40	23	図67	○	
508	A12-d8	隅丸方形?		(75)	75	(1)	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
509	A12-d8	隅丸方形	北東	150	85	27	図65	○	布留式前半
510	A12-d8	楕円形	南北	(60)	60	8	5Y2/1黒色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	○	
513	A12-c9	楕円形	北東	(120)	45	31	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	◎	6世紀前半
514	A12-c9	円形		50	40	12	N3/暗灰色 粗～極粗砂混粘質シルト (粘性強)	×	
520	A12-d9	楕円形	北東	(90)	70	9	2.5Y3/3暗オリーブ褐色～5Y2/1黒色 粘土～シルト	×	
521	A12-f4	円形		50	45	8	5G2/1緑黒色 粘土 (極粗砂など粗い砂を含む)	×	

第6面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
541	A13-d3	楕円形	北西	(70)	100	40	2.5GY4/1～3/1暗オリーブ灰色 極細砂～粘土 全体に黄色の細砂を含む	○	弥生中期前半
542	A13-e2	円形		60	55	(1)	2.5GY4/1～3/1暗オリーブ灰色 極細砂～粘土	×	
544	A13-e3	楕円形	北東	400	250	29	7.5Y6/2灰オリーブ色～4/1灰色 極細砂 一部に粗砂含む	×	
545	A13-f4	楕円形		(90)	(40)	22	7.5Y7/1灰白～3/1オリーブ黒色 シルト～極細砂	○	弥生中期前半

第7b面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
569	A13-f4	円形		50	50	20	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
570	A13-f4	楕円形	北東	70	50	(1)	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
572	A13-f4	円形		50	45	11	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
630	A12-d8	円形		(220)	(190)	13	図103	◎	弥生中期前半
631	A12-d8	隅丸方形	北東	(120)	125	9	5BG2/1青黒色 極細砂含む粘土～シルト	○	弥生中期前半
632	A13-d・e2	楕円形	北東	200	160	56	10Y3/2オリーブ黒色 粘土～シルト 細砂を含む	○	
633	A13-e2	不整円形		420	(335)	72	図107	◎	弥生中期前半
657	A13-e3	不整円形	東西	95	70	13	図111	◎	弥生中期前半
658	A13-e3	隅丸方形	北西	(180)	240	24	図113	◎	弥生中期前半
663	A13-e3	楕円形	南北	210	(100)	132	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 シルト～細砂 植物遺体を含む	○	弥生中期前半
665	A13-e3	楕円形		(80)	(40)	(1)	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 シルト～細砂 植物遺体を含む	×	
667	A13-e3	円形		50	45	8	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	×	
673	A13-e3	円形		70	(30)	17	N1.5/黒色 植物遺体が大量に入った細砂～シルト	◎	弥生中期前半
675	A13-e3	円形		50	50	16	10Y3/2オリーブ黒色 細砂に植物遺体を含む	×	
676	A13-e3	円形		230	(120)	6	10Y3/2オリーブ黒色 細砂に植物遺体を含む	◎	弥生中期前半
677	A13-e2	円形		70	70	16	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 シルト～細砂 植物遺体を含む	×	
678	A13-e2	円形?		90	(40)	4	N1.5/黒色 シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	◎	弥生中期前半
686	A13-f2	円形?		(60)	(50)	12	5Y2/1黒色 細～中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトの攪拌層	×	
692	A13-f3	円形		60	60	10	5Y2/1黒色 細～中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトの攪拌層	×	
693	A13-f3	楕円形	南北	100	85	22	10Y2/1黒色 細～粗砂 やや淡色のシルトブロックを含む	◎	弥生中期前半
694	A13-f3	円形		60	60	7	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	×	
695	A13-f3	円形		60	60	7	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
697	A13-e4	円形		70	70	20	図111	◎	弥生中期前半
698	A13-e4	隅丸方形?		(50)	(40)	6	10Y2/1黒色 細～粗砂 やや淡色のシルトブロックが入る	○	弥生中期前半
699	A13-e4	円形		60	(45)	16	10Y2/1黒色 細～粗砂	○	弥生中期前半
703	A13-f4	楕円形		(50)	50	35	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
704	A13-f4	楕円形		(45)	50	7	5Y2/1黒色 中砂と10Y3/2オリーブ黒色シルトブロックの攪拌層 (第7層)	○	弥生中期前半
705	A13-f4	楕円形		(90)	80	34	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	弥生中期前半
706	A13-f4	隅丸方形?		50	(30)	(1)	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色 細～中砂	○	弥生中期前半
708	A13-f4	円形		85	(35)	21	図111	○	弥生中期前半
719	A13-f4	隅丸方形		100	55	15	図111	○	弥生中期前半

722	A13-f4	隅丸方形?		(90)	(90)	19	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	○	弥生中期前半
723	A13-f4	隅丸方形		(80)	50	4	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
724	A13-f4	円形		60	55	6	N1.5/黒色	シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
733	A13-f4	隅丸方形		100	100	12	10Y2/1黒色	細～粗砂 やや淡色のシルトブロックを含む	○	弥生中期前半
736	A13-f4	楕円形		(150)	(50)	19	10Y2/1黒色	細～粗砂 やや淡色のシルトブロックを含む	○	弥生中期前半
747	A13-f4	楕円形		110	80	18	図111		◎	弥生中期前半
758	A13-f4	楕円形		130	110	23	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルトが攪拌されている	◎	弥生中期前半
767	A13-f4	楕円形		(130)	80	7	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルトが攪拌されている	×	
768	A13-f4	円形		50	50	(1)	N1.5/黒色	シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	×	
772	A13-f4	隅丸方形		120	(90)	(1)	N1.5/黒色	シルト～植物遺体を大量に含んだ細砂	○	弥生中期前半
773	A13-f4	不整円形		90	(40)	7	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	◎	弥生中期前半
776	A13-f4	隅丸方形		65	45	4	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
781	A13-f4	円形		65	65	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
788	A13-f.g4	楕円形		80	60	14	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	◎	弥生中期前半
794	A13-g4	不整円形		(60)	50	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	○	弥生中期前半
795	A13-f.g4	不整円形		(100)	(30)	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	○	弥生中期前半
797	A13-g4	楕円形		(80)	(50)	13	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌される	○	弥生中期前半
800	A13-f4	円形		70	70	23	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌される	×	
801	A13-f.g4	円形		80	(70)	20	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌される	×	
802	A13-f4	円形		55	55	7	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
897	A13-f4	(円形)		(50)	(25)				×	
898	A13-f4	(円形)		(70)	(15)				×	

第8面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
834	A13-d2	円形?		(40)	50	51	図126	×	
842	A13-d3	楕円形	北西	170	140	59	図124	○	弥生中期前半
846	A13-f3	楕円形	北西	150	100	14	5GY4/1暗オリーブ灰色 粘土～シルト	×	
887	A13-f4	円形		70	65	11	5GY4/1暗オリーブ灰色 粘土～シルト	×	

第8b面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
867	A13-d2	隅丸方形	南北	130	100	50	5Y3/2オリーブ黒色 シルト～細砂 2.5Y4/2灰黄褐色粗砂をブロック状に含む(ラミナカ)	◎	弥生中期前半
872	A13-f4	楕円形	東西	(100)	70	(1)	10Y4/1灰色 粘土～シルト	×	
873	A13-f4	楕円形	南北	120	(40)	8	10Y4/1灰色 粘土～シルト	×	
891	A13-d2.3	隅丸方形	北東	270	(170)	10	10YR3/2黒褐色～2/1黒 粘土～シルト 極細砂・有機物を含む	×	

第9面土坑

番号	グリッド	平面形	主軸方位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
881	A12-d8	楕円形	東西	85	60	36	図134	○	弥生中期～中期初

表17 溝一覧

第1面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
8	A12-d7~9	東西	28.6	20~60	3~8	2.5Y3/2黒褐色 極粗砂混シルト~細砂	×	
9	A12-d7~9	東西	27.4	40~60	7~12	5Y3/2オリブ黒色 細砂	○	

第3-2面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
47	A13-d1~3	東西	(16.2)	50~90	2~8	2.5Y6/2灰黄色 シルト~極細砂 粗~極粗砂含む (粘性東より強い)	×	
49	A13-d1~2	東西	(11.8)	70~90	1~4	2.5Y6/2灰黄色 シルト~極細砂 粗~極粗砂含む (粘性東より強い)	×	
50	A13-d1~2	東西	(14.0)	20~60	2~5	2.5Y6/2灰黄色 シルト~極細砂 粗~極粗砂含む (粘性東より強い)	×	
51	A13-d1~3	東西	(15.9)	30~50	1~7	2.5Y6/2灰黄色 シルト~極細砂 粗~極粗砂含む (粘性東より強い)	×	

第3-3面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
53	A13-c1・2	東西	(14.4)	50	3~6	2.5Y5/2暗灰黄色 シルト~極細砂 中~極粗砂多く含む	×	
54	A13-d1・2	東西	(14.9)	40~100	(1)	2.5Y6/2灰黄色 シルト~極細砂 粗~極粗砂含む (粘性東より強い)	×	

第3-4面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
57	A13-c・d1・2	東西	(4.2)	50	5~8	2.5Y5/2暗灰黄色 シルト~極細砂 極細~粗砂含む	×	
58	A13-e3・4	北東	(12.7)	60~90	(1)	2.5Y5/2暗灰黄色 シルト~極細砂 極細~粗砂含む	×	
59	A13-f3・4	東西	(14.5)	40~60	(1)	2.5Y5/2暗灰黄色 シルト~極細砂 極細~粗砂含む	×	
60	A13-f4	北東	(6.0)	60	(1)	2.5Y5/2暗灰黄色 シルト~極細砂 極細~粗砂含む	×	

第4面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
66	A12-c・d7	南北	(10.6)	30~50	5~7	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	○	古代?
67	A12-c・d7	南北	(14.2)	20~30	3~5	10YR4/3にぶい黄橙色 粗砂混砂質シルト	×	
68	A12-c・d7	南北	(8.5)	20~40	1~3	10YR4/3にぶい黄橙色 粗砂混砂質シルト	×	
69	A12-d7	南北	(2.4)	30	2~4	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	×	
70	A12-c7	南北	4.4	20~40	2~5	10YR4/3にぶい黄橙色 粗砂混砂質シルト	×	
71	A12-c7	南北	(6.5)	50~80	2~12	10YR4/3にぶい黄橙色 粗砂混砂質シルト	×	
72	A12-c7・8	南北	(5.9)	20~70	4~9	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	○	古代?
73	A12-d8	南北	(1.2)	40	5	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	×	
74	A12-c・d8	南北	(11.6)	30~40	5~8	2.5Y4/1黄灰色 粗砂混粘質シルト	×	
75	A12-c・d8	南北	(15.2)	50~70	1~16	2.5Y4/1黄灰色 粗砂混粘質シルト	○	13世紀前半
76	A12-c・d7	北東	2.6	30	2~4	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	×	
77	A12-c・d8	南北	3.9	30	5~7	10YR4/3にぶい黄橙色 粗砂混砂質シルト	×	
78	A12-c・d8	南北	3.2	30	1~6	10YR5/1褐灰色・4/6褐色 粗砂混砂質シルト	◎	8世紀?
79	A12-c・d9	南北	(15.2)	50~70	3~7	10YR5/1褐灰色 (上部)・10YR5/4にぶい黄褐色~4/4褐色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代?
80	A12-c・d9	南北	(15.2)	60~70	2~9	7.5YR4/6褐色・4/1褐灰色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	◎	10世紀
81	A12-c9	南北	4.5	20~30	1~4	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	×	
82	A12-c・d9	南北	(11.3)	80~130	4~13	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	×	
83	A12-c・d9・10	南北	(11.3)	80~110	4~15	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	×	
84	A12-c・d10	南北	(11.3)	60~70	2~6	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	×	
85	A12-c・d10	南北	(14.5)	30~60	6~9	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	◎	8世紀
86	A12-c・d10	南北	(13.2)	40~60	2~8	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	◎	10世紀前半
87	A13-c・d1	南北	(13.5)	30	2	7.5YR5/8明褐色 粗~極粗砂 (第4b層) 混粘質シルト	○	13世紀
88	A12-c8・9	東西	13.3	30~50	4~19	10YR4/1褐灰色 粘質シルト~砂質シルト	○	古代
89	A12-c8・9	東西	13.5	20~40	3~15	10YR4/1褐灰色 粘質シルト~砂質シルト	○	10世紀?
90	A12-c8・9	東西	13.3	20~40	3~17	10YR4/1褐灰色 粘質シルト~砂質シルト	○	古代?
91	A12-c9	東西	(5.0)	30~40	6~8	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	○	8世紀?
92	A12-c9	東西	(2.1)	30	5	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	○	古代?
93	A12-8・9	東西	12.9	30	5~15	10YR4/1褐灰色 粘質シルト~砂質シルト	○	10世紀?
94	A12-c9	東西	2.6	30	(1)	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	×	
95	A12-d8	東西	2.9	30	5~13	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	○	9世紀?

96	A12-d9	東西	2.2	(10~30)	(1)	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	×	
97	A12-d8・9	東西	12.9	20~40	4~20	10YR4/1褐色 粘質シルト~砂質シルト	◎	10世紀後半
98	A12-d9	東西	(4.6)	10~30	3~9	10YR4/2灰黄褐色・3/2黒褐色 粗~極粗砂混粘土質シルト (やや砂質)	◎	8~9世紀
99	A12-d8・9	東西	13.1	20~30	6~10	10YR4/1褐色 粘質シルト~砂質シルト	◎	11世紀?
100	A12-d8	北西	1.7	30	18	上層: 2.5Y5/2暗灰黄色~4/2暗灰黄色 砂混砂質シルト 下層: 10YR2/1黒色 粘土質シルト (第4層ブロック混) <上・下層の分層は極めて明瞭>	◎	9世紀?
101	A12-d8	東西	1.1	30	11	2.5Y6/1黄灰色~3/2黒褐色 極粗砂混砂質シルト (溝100・102・103などに比べて上部に粗粒の砂多く含む 下層はほぼ同様)	○	古代
102	A12-d8・9	東西	(13.3)	20~40	4~13	10YR4/1褐色 粘質シルト~砂質シルト	○	古代
103	A12-d8	東西	2.5	30	9~15	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト (粘性ややあり・粗砂含むが第4層より砂質)	◎	9世紀?
104	A12-d8	東西	(5.8)	20~40	7~14	10YR4/1褐色 粘質シルト~砂質シルト	○	9~10世紀
105	A12-d8	東西	0.7	30	8~9	10YR4/6褐色・5/1褐色 粗砂混砂質シルト	○	古代
106	A12-d7	東西	(1.0)	50	6	10YR4/6褐色・5/1褐色 粗砂混砂質シルト	×	古代
107	A12-c10	東西	(2.9)	50	6~13	2.5Y5/1黄灰色 砂混粘質シルト	×	
108	A12-d10	東西	(2.8)	50~60	14~21	2.5Y5/1黄灰色 砂混粘質シルト	◎	8世紀?
109	A12-d10	東西	(2.8)	30~50	9~12	2.5Y5/1黄灰色 砂混粘質シルト	×	
110	A13-d1	東西	(1.1)	30	3	2.5Y5/1黄灰色 砂混粘質シルト	×	
111	A13-d1	東西	(1.8)	60	1~3	2.5Y5/1黄灰色 砂混粘質シルト	○	古代
112	A12-c8	南北	(5.4)	30	3~17	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	
113	A12-c8	南北	(5.4)	20~30	4~7	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
114	A12-c・d8	南北	(15.2)	30~40	3~20	2.5Y4/1黄灰色 粗砂混粘質シルト	◎	10世紀?
115	A12-c・d8	南北	(3.0)	20	5	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
116	A12-c9	南北	(3.4)	20	4~5	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	○	古代
117	A12-c・d9	南北	(11.4)	30	3~9	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	○	古代
118	A12-d9	南北	(1.0)	30	7~8	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	○	古代
119	A12-c10	南北	(2.5)	(10)	2	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	×	
120	A12-d10	南北	(2.5)	20	4~5	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	○	
121	A12-c・d10	南北	6.7	20~50	3~5	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	◎	古代
122	A12-c10	南北	(2.0)	20	3~5	7.5YR4/3褐色 砂混砂質シルト	×	

第4b面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
184	A12-c7	東西	(1.3)	40	7	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 砂混粘土質シルト	◎	9世紀
185	A12-c7	東西	2.9	40~50	6~12	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 砂混粘土質シルト	○	9世紀
186	A12-c7	東西	3.4	70~80	9	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 砂混粘土質シルト	◎	8世紀末~9世紀
187	A12-c7	東西	2.4	50	15	10YR5/1褐色~3/2黒褐色 砂混粘土質シルト	○	古代
188	A12-c7	東西	(0.6)	30	9	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	
189	A12-c7	東西	(5.7)	50	7~9	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	◎	古代
190	A12-d7	東西	(2.2)	40	9	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	
191	A12-c7	東西	(0.5)	50	4	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代?
192	A12-c7・8	東西	1.4	40	6	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
193	A12-d7	東西	(1.0)	20	2	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
194	A12-d7	東西	(4.4)	40	7	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
195	A12-d7・8	東西	6.0	30~50	5~8	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代
196	A12-d7・8	東西	(2.8)	20~40	2~6	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代
197	A12-c・d7	南北	(9.0)	30~60	5~10	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	◎	古代
198	A12-c7	南北	(0.6)	30	8	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	×	
199	A12-c7	南北	(9.0)	20~60	5~12	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	◎	8世紀後半
200	A12-c・d7	南北	(9.0)	30~40	5~8	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	◎	8世紀
201	A12-c・d7	南北	(9.0)	30~40	4~12	10YR5/1褐色~4/2灰黄褐色 砂混砂質シルト	◎	8世紀
202	A12-c・d7	南北	(7.5)	30~40	7~11	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
203	A12-c・d7	南北	(15.5)	30~70	5~11	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	◎	8世紀中頃
204	A12-c・d7	南北	(15.5)	30~50	4~9	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	◎	8世紀後半
205	A12-d7	南北	(1.3)	10~20	5	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
206	A12-c・d7	南北	(15.5)	20~60	4~10	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	◎	古代
207	A12-c・d8	南北	(15.4)	40~60	5~7	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	◎	8世紀後半
208	A12-c8	南北	(4.9)	30	2~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	8世紀
209	A12-c8	南北	(3.5)	20~30	2~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
210	A12-d8	南北	(2.3)	(50~60)	8~9	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代
211	A12-d8	南北	(2.3)	(20~40)	4~15	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	×	
212	A12-c・d8	南北	(3.5)	30	6~14	10YR6/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト	◎	古代
213	A12-c・d8	南北	(3.9)	40	3~6	10YR6/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト	×	
214	A12-c・d8	南北	(6.6)	20~30	1~3	10YR6/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト	×	
215	A12-c8	南北	(6.4)	10~40	3~6	10YR6/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト	○	古代
216	A12-d8	南北	(2.5)	60	4~5	10YR6/1褐色~3/2黒褐色 砂質シルト	×	
217	A12-c9	北西	(3.5)	30	4~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色 粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代

218	A12-d9	南北	(2.5)	20~30	3~13	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
219	A12-c-d9	南北	(8.6)	20~30	3~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
220	A12-c9	南北	(6.0)	30	3~7	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	8世紀前半
221	A12-c-d9	南北	(11.0)	30~50	5~11	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	8世紀
222	A12-d10	南北	(3.0)	40~50	3~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	
223	A13-c1	南北	(1.8)	30	3~7	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	×	
224	A13-c1	南北	(4.7)	40	1~5	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	○	古代
225	A13-c-d1	南北	(13.5)		3~9	2.5Y5/2暗灰黄色~4/6オリーブ褐色	粗砂~極粗砂混砂質シルト	◎	古代
226	A13-c-d1	南北	(13.8)		5~10	2.5Y5/2暗灰黄色~4/6オリーブ褐色	粗砂~極粗砂混砂質シルト	○	古代
227	A12-c8	東西	(6.9)	50	5~8	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
228	A12-c8	東西	(10.0)	30~70	3~12	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
229	A12-c8	東西	(5.4)	20	3~7	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
230	A12-c8	東西	(6.8)	30~60	4~17	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
231	A12-c8	東西	(6.8)	40~50	5~9	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	◎	8世紀中頃
232	A12-c8	東西	(7.0)	20~70	5~10	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	◎	8世紀中頃
233	A12-c9	東西	(2.7)	30~40	2~4	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
234	A12-c-d8	東西	(6.5)	50	3~7	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
235	A12-d8	東西	(3.3)	40	5~7	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
236	A12-d8	東西	(5.5)	40~50	6~16	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	8世紀後半
237	A12-d8	東西	(5.5)	50~70	13~17	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	8世紀後半
238	A12-d8	東西	(3.0)	(30)	9	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
239	A12-d8	東西	(3.0)	(40)	5	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
240	A12-d8	東西	1.1	30	4	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
241	A12-d8	東西	(5.8)	(70)	4~5	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	9世紀初頭
242	A12-d8	東西	(5.8)	40~50	4~6	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
243	A12-d8	東西	2.4	30	6~7	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
244	A12-d9	東西	2.3	20~40	3~5	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
245	A12-d9	東西	3.5	50	7~11	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	○	古代
246	A12-d10	東西	3.6	50	4~6	10YR6/1褐灰色~3/2黒褐色	砂質シルト	×	
247	A13-c1	東西	4.5	50	3~13	2.5Y5/1黄灰色	粗砂混砂質シルト	×	
248	A13-d1	北東	1.1	50	4~5	10YR4/4褐色	極粗砂~細礫混砂質シルト	×	
249	A13-d1	東西	2.0	40	3~5	2.5Y5/2暗灰黄色~4/6オリーブ褐色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	8世紀
250	A13-d1	東西	0.9	50	6	2.5Y5/2暗灰黄色~4/6オリーブ褐色	粗~極粗砂混砂質シルト	○	古代
442	A12-c7	南北	2.9	40~60	7	10YR5/1褐灰色~3/2黒褐色	砂混粘質シルト	◎	古代
888	A12-d7-8	南北	(0.4)	20	3~5	2.5Y5/1~4/1黄灰色	粗~極粗砂混砂質シルト	×	

第5-0面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
336	A13-f3-4	北西	(13.1)	110~400	12	2.5Y7/1灰白色~6/4にぶい黄色	粗~極粗砂主体	×

第5面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
352	A12-c8	南北	2.6	35~60	2~6	10YR4/4褐色	粗砂混粘質シルト	×

第5b面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
358	A12-c6	北東	(1.5)	20	4	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	○
359	A12-c7	北東	1.0	35	7	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト(粘性強)	○
360	A12-c7	北西	1.1	20	3	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
361	A12-c7	北西	1.2	30~40	7	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
362	A12-c7	北東	1.2	20	2	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
363	A12-c7	北東	1.3	30	4	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	×
364	A12-c7	北東	2.0	20	2~4	10YR4/4褐色	粗砂混砂質シルト	○
365	A12-d8	北東	1.4	20	4	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト	○
366	A12-c6-7	北西	(5.1)	120~140	50	図52	×	布留式前半
367	A12-c-d6-7	北西	(9.9)	(90~160)	15~17	図52	◎	布留式
368	A12-c-d6-7	北西	(12.0)	100~230	31~50	図52	◎	布留式
369	A12-c-d7	北西	(11.6)	60~80	21~40	図52	◎	布留式
370	A12-c-d6-7	北西	(18.4)	90~190	25	図52	○	布留式
371	A12-d7	北東	(4.3)	40	6	図52	○	布留式
372	A12-d7	東西	(1.2)	(20)	2	図52	×	
373	A12-d7	北東	(3.7)	(40~70)	25	図52	◎	布留式後半
374	A12-d7	南北	(2.3)	55~70	12	5Y2/1黒色	粘質シルト(炭含む)	×
375	A12-c-d7-8	北西	(17.6)	90~170	7~19	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト(粘性強)	○
376	A12-c-d8	北西	(7.5)	40~75	39	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト(粘性強)	◎
377	A12-c-d8	北西	(16.3)	20~60	2~8	5Y2/1黒色	粗~極粗砂混粘質シルト(粘性強)	×
378	A12-c-d10	北東	(21.0)	50~110	4~16	5G5/1緑灰色	粘土~シルト(細砂を含む・土壌化弱い)	×
379	A12-c-d9-10	北西	(20.2)	30~80	1~15	5G5/1緑灰色	粘土~シルト(細砂を含む・土壌化弱い)	×

380	A12-13-c·d10-1-2	東西	20.3	40~70	24	図50	×	
381	A13-d1	北西	(4.7)	50~90	1~4	10GY5/1緑灰色 粘土~シルト (細砂を含む・土壌化弱い)	×	
382	A13-c·d·e1-2	北西	(14.6)	190~380	45	図50	◎	布留式前半
383	A13-e1-2	北西	(3.4)	20	3~5	5B2/1青黒色 粘土~シルト	×	
384	A13-e2	南北	4.2	30	5~6	2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粘土~シルト (極細砂含む所により粘性強い)	×	
385	A13-f2	北西	(3.0)	40	15	2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粘土~シルト (極細砂含む所により粘性強い)	○	
386	A13-f3	北西	(6.0)	50~100	4~8	5G2/1緑黒色 粘土~シルト (粗い砂を含む)	×	
387	A13-f-g4	北西	(6.4)	40~60	4~11	5G2/1緑黒色 粘土 (極粗砂など粗い砂を含む)	×	

第6面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
535	A13-e2	北西	2.5	40~50	10~13	2.5GY4/1~3/1暗オリーブ灰色 粘土~極細砂	×	
536	A13-d·e2-3	北西	(15.0)	70~200	3~51	2.5GY4/1~3/1暗オリーブ灰色 粘土~極細砂	◎	弥生中期前半
537	A13-e-f3-4	北西	(15.0)	770~860	12~87	図5	◎	弥生中期前半
538	A13-e-f3-4	北西	(15.9)	35~150	2~16	7.5Y7/1灰白~3/1オリーブ黒色 シルト~極細砂	×	
539	A13-f4	北西	(6.0)	115~210	11~36	7.5Y7/1灰白~3/1オリーブ黒色 シルト~極細砂	◎	弥生中期前半
540	A13-f3-4	北西	(13.6)	170~310	68	図77	◎	弥生中期前半

第6b面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
548	A12-c-d9	北西	4.8	45	3~8	2.5GY3/1暗オリーブ灰色~10Y3/1オリーブ黒色 シルト	○	弥生中期前半
549	A12-c9-10	北東	5.7	50	3	2.5GY3/1暗オリーブ灰色~10Y3/1オリーブ黒色 シルト	×	
550	A13-e-f3-4	北西	(15.0)	90	(1)		×	

第7面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
558	A12-c-d9	南北	(10.5)	90~190	19~38	図8	◎	弥生中期前半
559	A12-c-d9-10	北西	(14.2)	30~35	19~38	図8	◎	弥生中期前半
563	A13-e-f3-4	北西	(15.0)	360~620	35~85	図5	◎	弥生中期前半
564	A13-f4	東西	(8.7)	130~330	21~52	粘土~極細砂	×	
565	A13-f-g3	北西	(7.5)	50~80	3~13	10G2/1緑黒色 極細砂を含むシルト~粘土	○	弥生中期前半
566	A13-f4	北東	1.9	30~40	3~9	10G2/1緑黒色 極細砂を含むシルト~粘土	×	

第7b面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	遺物の有無	時期
573	A12-c6-7	北東	(3.7)	50~100	12	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
574	A12-c7	北西	(2.5)	30~80	7~9	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
575	A12-c6-7	北東	(5.8)	50~100	4~22	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
576	A12-c-d6-7	北東	(12.5)	25~60	1~6	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
577	A12-d6-7	北東	(2.5)	20	2~4	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
578	A12-c-d6	南北	(3.8)	10	1~4	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
579	A12-d6-7	北西	(4.3)	40	6~7	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
580	A12-d6-7	東西	1.4	35	4	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
581	A12-d7	南北	(5.3)	15~30	4~10	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
582	A12-d7	北東	(2.5)	30	4~6	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
583	A12-d7	北東	(5.7)	20~50	1~8	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
584	A12-d8	北東	(3.0)	60~80	2~11	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
585	A12-d8	北東	(2.5)	30~40	5~9	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
586	A12-c9	北東	(2.2)	60	2~8	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
587	A12-c9	北西	(4.1)	50~85	1~4	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
588	A12-c9	北東	(5.6)	15~30	2~5	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
589	A12-d10	北西	(5.9)	110	3~8	5BG2/1青黒~N2/黒色 極細~細砂混粘土~シルト	×	
591	A13-d2	北西	(2.0)	20~40	5~13	7.5GY4/1~5G3/1暗緑灰色 粘土~シルト	○	弥生中期前半
592	A13-d1-2	東西	(6.3)	60~145	8~24	7.5GY4/1~5G3/1暗緑灰色 粘土~シルト	◎	弥生中期前半
594	A13-d2	南北	(2.5)	25~40	4~14	5Y3/2オリーブ黒色 シルト~極細砂	○	弥生中期前半
596	A13-d3	南北	(1.8)	20	2~6	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	○	弥生中期前半
597	A13-d3	北西	(1.2)	20~50	4~6	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	×	
598	A13-d-e3	東西	(1.6)	40~60	4~5	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	○	弥生中期前半
599	A13-e3	東西	(0.8)	20	4	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	×	
600	A13-e3	東西	(3.8)	30~130	2~16	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	◎	弥生中期前半
601	A13-e3	北東	(2.6)	10	3	10Y3/2オリーブ黒色 シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	○	弥生中期前半
602	A13-e3	南北	(0.9)	20	4~7	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	×	
603	A13-e3	東西	1.5	10~30	3~5	10Y3/2オリーブ黒色~7.5Y2/1黒色 細~中砂	×	

604	A13-e3	南北	(0.4)	20	2	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
605	A13-e3	南北	(0.7)	10	3	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
606	A13-e・f2	北西	(5.5)	20	3～7	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む	×	
607	A13-f2	北西	(1.1)	20	2～4	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む	×	
608	A13-e2	北西	(1.9)	50	7～11	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む 一部に 5Y3/2暗赤褐色 の細砂を含む	○	弥生中期前半
609	A13-f2	北西	(1.6)	30	4	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む 一部に 5Y3/2暗赤褐色 の細砂を含む	×	
610	A13-f2	北西	(1.9)	10	1～3	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む 一部に 5Y3/2暗赤褐色 の細砂を含む	×	
611	A13-f2	北東	(0.8)	25	6～7	10Y3/1オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	シルト～細砂 植物遺体を含む 一部に 5Y3/2暗赤褐色 の細砂を含む	×	
612	A13-f3	北西	(2.0)	60	2～21	10Y3/2オリーブ黒色	シルト中にやや濃色のシルトと植物遺体を含む	○	弥生中期前半
613	A13-f3	北東	(1.2)	25	1～5	5Y2/1黒色	細～中砂 シルトブロックを含む	○	弥生中期前半
614	A13-e・f4	北西	(7.4)	30～60	9～27	10Y2/1黒色	細～粗砂 やや淡色のシルトブロックが入る	○	弥生中期前半
615	A13-f4	北西	(1.3)	(90)	13	10Y2/1黒色	細～粗砂 やや淡色のシルトブロックが入る	○	弥生中期前半
616	A13-f4	北東	0.6	15	6	10Y3/2～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
617	A13-f4	北西	(3.0)	(60)	10	10Y2/1黒色	細～粗砂 やや淡色のシルトブロックが入る	◎	弥生中期前半
618	A13-f4	北東	(1.4)	20	8	7.5Y2/1黒色	細～中砂	○	弥生中期前半
619	A13-f4	北東	(7.1)	30～75	3～8	7.5Y2/1黒色	細～中砂	◎	弥生中期前半
620	A13-f4	北東	(1.0)	10～20	3	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
621	A13-f4	北東	(1.0)	25	2～7	10Y3/2オリーブ黒色～7.5Y2/1黒色	細～中砂	×	
622	A13-f4	北西	(0.8)	35	(1)	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
623	A13-f4	北東	(1.4)	25	8～18	10Y2/1黒色	細～粗砂	○	弥生中期前半
624	A13-f4	北東	(1.3)	60	10	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	○	弥生中期前半
625	A13-f4	東西	(0.5)	10	3	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	
626	A13-f4	東西	(0.5)	20	5	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
627	A13-f4	東西	(0.3)	20	3	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	×	
628	A13-f・g4	北東	(2.4)	80～100	18	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	○	弥生中期前半
629	A13-e・f・g3 .4	北西	(15.0)	270～700	(1)	5Y3/1オリーブ黒色	シルト～細砂 よく攪拌されている	◎	弥生中期前半
809	A13-f4	北東	0.7	15	3	7.5Y3/1オリーブ黒色	細～中砂	×	

第8面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
836	A13-e・f・g3・4	南北	(17.0)	780～1180	75～137	図5	◎	弥生中期前半
837	A13-f・g4	北東	(9.7)	150～200	34	図123	×	

第8b面溝

番号	グリッド	主軸方位	長径(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	埋土	遺物の有無	時期
875	A13-f4	北東	1.5	50	9～13	10YR3/2黒褐色～2/1黒色	粘土～シルト	×
889	A13-c1	北西	5.2	40～75	2～27	10YR3/2黒褐色～2/1黒色	粘土～シルト	×

表18 実測土器観察表

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径・長・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
図12	1		1層	A13-f2-3	波佐見焼染付碗	(11.4)	(3.5)	10Y8/1灰白	密	良好	脚部端のみ露胎、草花文、染付青	18世紀
	2		1層	A13-f2-3	波佐見焼染付碗	(10.6)	(3.1)	7.5GY8/1明緑灰	密	良好	脚部端のみ露胎、草花文、染付青	18世紀
	3		1層	A13-f4	波佐見焼染付碗	(9.7)	(3.4)	乳白	密	良好	脚部端のみ露胎、草花文、染付青	18世紀
	4		1層	A13-f4	波佐見焼染付碗	(9.7)	(3.2)	乳白	密	良好	外面二重網目文、染付緑	18世紀
	5		1層	A12-d7	波佐見焼染付碗	(4.2)	(3.3)	10Y8/1灰	密	良好	脚部端のみ露胎、染付青	18世紀
	6		1層	A13-f2-3	波佐見焼白磁碗	(4.2)	(3.6)	5Y8/1灰白	密	良好	脚部端のみ露胎	18世紀
	7		1層	A13-f4	波佐見焼白磁碗	(4.6)	(2.1)	乳灰白	密	良好	脚部端のみ露胎 10G5/1緑灰の胎土目積痕?あり	18世紀
	8		1層	A13-d1	波佐見焼染付碗	3.3	(3.1)	10Y8/1灰白	密	良好	脚部端のみ露胎、染付青	18世紀
	9		1層	A13-e2	唐津焼天目茶碗	(4.2)	(2.6)	2.5YR5/4にぶい 赤褐・2.5Y3/1 黒褐	密	良好	内面のみ褐釉	17世紀後半
	10		1層	A13-d2	京信楽系陶器 小坏	(6.0)	3.2	5Y7/3浅黄	密	良好	脚部露胎	18世紀
	11		1層	A12-c10	京信楽系陶器蓋	(11.6)	(2.1)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	外面のみ施釉	18世紀
	12	17	1層	A13-f2-3	伊万里焼皿	(8.4)	(1.6)	10GY8/1明緑灰	密	良好	内面中央フントによる 五弁花	19世紀
	13		1層	A13-d1	瀬戸灰釉梅瓶	(4.8)	(2.8)	釉:7.5Y7/2灰オリ ーブ、露:7.5Y6/1 灰	密	良好	口縁部複合口縁状	13世紀
	14	17	1層	A13-f4	伊万里焼変形皿	—	1.8	乳灰白	密	良好	脚部端のみ露胎、染付青	19世紀
	15		1層	A13-e2	瓦質土器控鉢	(19.8)	(5.3)	N5/灰・5Y7/1 灰白	密	良好		15世紀
	16		1層	A13-f2-3	堺焼控鉢	—	(6.5)	10R5/4赤褐	密	良好	揺り目8条以上 白神編年II型式	19世紀
	17		1層	A13-d3	平瓦	(7.0・ 7.5)	1.9	5Y7/1灰白	密	軟	土師質気味、凹面に斜方 向緩弧線残存	中世後期
	18	33	1層	A13-f2-3	土製品・龟	(3.5・ 3.0)	1.1	2.5Y7/2灰黄	密	良好	土師質、中実型成形 安芸分類Ⅲ類②口	18世紀
図14	19	17	2層	A13-d1	波佐見焼染付碗	(9.7)	5.3	5GY8/1灰白	密	良好	高台銘あり	18世紀
	20		2層	A13-f3	波佐見焼白磁碗	(10.9)	(4.6)	5Y8/1灰白	密	良好	外面釉剥落	18世紀
	21		2層	A13-e2	波佐見焼青磁碗	(4.7)	(3.2)	釉:10Y7/1灰白、 露:2.5Y8/1灰白	密	良好	脚部露胎	18世紀
	22		2層	A13-f3	波佐見焼白磁碗	(4.1)	(2.5)	7.5GY8/1明緑灰	密	良好	脚部コバルトによる1条圍 線	17世紀後半
	23		2層	A12-d10	京信楽系陶器鉄絵 小碗	(3.6)	(2.9)	釉:2.5Y8/2灰白、 露:10YR7/3にぶい 黄橙	密	良好	脚部付近露胎	18世紀
	24	17	2層	A12-d7-8	唐津焼肥前系 刷毛目碗	(3.7)	(2.1)	釉:2.5Y8/2灰白、 露:7.5Y5/3にぶい 褐	密	良好	脚部端のみ露胎、内面 左巻き文様	18世紀
	25		2層	A13-c2-3	京信楽系陶器土瓶 蓋	—	(1.5)	5YR6/4にぶい橙	密	良好	内面釉、外面釉による 文様	19世紀
	26		2層	A13-f3	肥前三島手碗	—	(1.8)	釉:5Y7/2灰白・ 2.5Y3/1黒褐、 露:2.5Y4/1黄灰	密	良好	胎土目積痕跡あり	17世紀
	27		2層	A13-d1	瓦質土器火舎	—	(5.0)	N5/灰	密	良好	二重凸帯間にスタンプ印 あり	16世紀
図18	29		3-1層	A13-d1-2	須恵器台付壺	(12.9)	(4.5)	N7/灰白~5/灰	密	良好	金属器模倣か	奈良後半
	30	17	3-1層	A12-d7	緑釉陶器碗	(8.6)	(3.6)	5Y7/1灰白~6/1灰	密	良好	京都系?黄緑色の釉が内 面部分的に残存 平尾分類I Bb第三段階	9世紀後半~ 10世紀初頭
	31		3-1層	A13-e2	波佐見焼青磁碗	(10.8)	(3.7)	7.5GY7/1明緑灰	密	良好		18世紀
	32		3-1層	A13-d2	土師器	(7.2)	(4.7)	10YR8/2灰白	やや密	やや 良好	器種不明	
	33		3-1層	A13-f4	瓦器皿	(10.0)	(1.4)	N5/灰・5Y8/1灰白	密	やや 良好	暗文見られず	14世紀
	34		3-1層	A13-f4	土師器 へそ皿	(5.8)	1.2	2.5Y8/1灰白	密	やや 良好		14~15世紀
	35		3-1層	A12-d6-7	丸瓦	(7.8・ 6.8)	2.0	7.5Y6/1灰	やや密	良好	凹面布目痕、凸面ナデ	14~15世紀
	36		3-1層	A13-f4	備前焼控鉢	—	(5.1)	2.5YR5/4にぶい 赤褐	密	良好	斜め方向の揺目あり	16世紀末
	37		3-1層	A12-d10	備前焼控鉢	—	(5.3)	7.5YR4/1褐灰	密	良好		16世紀 第3四半期
	38	17	3-2層	A13-c-d1	白磁碗玉縁IV-2	(14.0)	(3.9)	7.5Y7/1灰白	密	良好	太宰府編年白磁碗IV 1a	12世紀後半
図20	39	17	3-2層	A12-c9	緑釉陶器	(10.0)	(1.58)	5Y7/1灰白	密	良好	比較的硬質	9世紀
	40	18	3-2層	A12-c6-7	緑釉陶器	(6.4)	(1.55)	釉:2.5GY7/1明 オリブ灰・5Y6/3 オリブ黄・2.5Y 6/2灰黄、露:N8/ 灰白・10YR8/3 浅黄橙	密	良好	平尾分類I Bb(軟質)	9世紀
	41		3-2層	A12-d10	黒色土器A類坏	(12.6)	(2.7)	2.5Y7/1灰白・7.5 YR6/4にぶい橙・ 2.5Y3/1黒褐	密(白色砂粒含む)	良好		9~10世紀
	42		3-2層	A12-d10	土師器皿	(9.8)	(1.8)	7.5YR7/3にぶい 橙・10YR6/2灰黄褐	密(白色砂粒含む)	良好	伊野Abタイプ	12世紀中頃
	43		3-2層	A12-c8	瓦器皿	(7.6)	1.6	10YR8/1灰白	密	軟		13世紀

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径・長・ 幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
44			3-2層	A12-c9	黒色土器B類環	(8.8)	(1.6)	2.5Y3/1黒褐	密(0.5mm以下の白色粒含む)	軟		10~11世紀
45			3-2層	A12-c10	瓦器碗	(6.0)	(1.0)	N6/灰	密	良好	尾上II-2期頃	12世紀前半
46			3-2層	A12-c10	瓦器碗	(5.4)	(1.0)	N6/灰	密	良好	尾上II-2期頃	12世紀前半
47			3-2層	A12-c9	土師器台付皿	7.0	(1.8)	7.5YR8/4浅黄橙	密(1mm以下の灰色粒・2mm以下の白色粒を含む)	良好		11世紀?
48			3-2層	A12-c9	土師器碗?	6.8	(0.9)	7.5YR5/3にぶい褐	密(2mm以下の白色粒及び2mm以下の灰色粒やや多く含む)	良好		11世紀?
49			3-2層	A12-c9	須恵器環B蓋	2.75	(1.8)	N7/灰白	密(3mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀後半
50			3-2層	A12-c8	瓦器碗	3.2	(1.35)	N2/黒	密(0.3~1mmの白・暗灰色の砂粒含む)	良好	尾上IV-1期頃	13世紀中頃
51			3-2層	A13-c-d1	瓦器碗	(5.0)	(0.8)	N7/灰白	やや密(0.3~1mm程度の暗灰色の砂粒含む)	やや軟	尾上II-3期頃	12世紀後半
52			3-2層	A12-d10	瓦器碗	6.0	(1.1)	N3/暗灰色	密(白色砂粒含む)	良好	尾上II-3期頃	12世紀後半
53			3-2層	A12-c8	土師器甕	(22.0)	(6.3)	5YR5/4にぶい赤褐	密(0.5~2mmの白・灰・褐色砂粒、雲母、くさり礫含む)	良好		9世紀
54			3-2層	A12-c6-7	土師器甕	(17.4)	(8.03)	10YR7/2にぶい黄橙	密(2.5mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀
55			3-2層	A12-c9	土師器甕	(14.8)	(1.9)	10YR7/3にぶい黄橙	密(2mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		9世紀
56			3-2層	A12-d9	土師器環B	(9.7)	(4.9)	7.5YR8/4浅黄橙	密(2mmくらいの砂粒少し含む)	良好		9世紀
57			3-2層	A12-c10	土師器甕B把手	—	(4.3)	5YR7/6橙	密	良好		9世紀
58			3-2層	A12-c10	土師器甕B把手	—	(7.0)	10YR8/3浅黄橙	密(1mmくらいの砂粒含む)	良好		9世紀
59			3-2層	A12-c9	土師器鉢?	—	(3.6)	7.5YR6/3にぶい褐	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀?
60	21		3-2層	A12-c10	須恵器平瓶	—	(3.5)	N7/灰白	密	良好		9世紀
61			3-2層	A12-d10	東播系須恵器捏鉢	(30.0)	(3.35)	N6/灰	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		13世紀頃
62			3-2層	A12-c6-7	須恵器環B蓋	(18.8)	(1.9)	N6/灰	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀
63	21		3-2層	A12-d7	須恵器環B蓋	(18.6)	(0.8)	5B7/1明青灰	密(0.5~0.3mm程度の白・黒色砂粒含む)	良好 堅緻		8世紀
64			3-2層	A12-d7	須恵器環B蓋	13.7	(0.8)	N6/灰	密(0.3~1mm程度の灰・黒・白色砂粒含む)	良好 堅緻		8世紀
65			3-2層	A12-c6-7	須恵器環B蓋	(14.0)	(1.9)	N7/灰白	密(白色砂粒含む)	良好		8世紀
66			3-2層	A12-c10	須恵器壺	(10.7)	(3.2)	N8/灰白	密(1mm程度の砂粒含む)	良好		8~9世紀?
67			3-2層	A12-c9	須恵器壺	(8.4)	(4.35)	N6/灰	密(2mm以下の白色粒含む)	良好		8~9世紀?
68			3-2層	A12-d10	須恵器環B	(8.6)	(3.2)	N7/灰白	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀後半
69			3-2層	A12-c9	須恵器環B	(11.8)	5.1	5Y6/1灰	密(白色砂粒含む)	良好		8世紀後半
70			3-2層	A12-c6-7	須恵器環	(13.4)	(4.1)	N7/灰白	密(白色砂粒含む)	良好		8世紀後半
71			3-2層	A12-c8	須恵器環	13.6	(2.4)	10Y8/灰白	密(1~0.5mm程度の灰・白色砂粒含む)	やや 良好		8世紀後半
72			3-2層	A12-d10	須恵器環B	12.4	(2.0)	5Y8/1灰白	密(白色砂粒含む)	やや軟		8世紀後半
73			3-2層	A12-c9	須恵器壺	(9.0)	(2.25)	N4/灰	密(0.2mm以下の白色礫含む)	良好		8~9世紀?
74	21		3-2層	A12-c8	須恵器圈脚 円面碗	(16.6)	(1.5)	N6/灰	密(0.5~1mm程度の灰・白色砂粒、くさり礫含む)	良好 堅緻		8~9世紀?
75			3-2層	A12-c8	須恵器環B or 壺	(7.2)	(1.7)	N8/灰白	密(0.5~1.5mm程度の暗灰・白色砂粒、くさり礫含む)	良好 堅緻		8世紀後半
76			3-2層	A12-c8	須恵器環B or 壺	7.6	(1.9)	10B6G/1青灰	密(0.5~1.5mm程度の暗灰・白色砂粒含む)	良好 堅緻		8世紀後半
77	21		3-2層	A12-c10	須恵器環A	(7.8)	(2.6)	N6/灰	密	良好		8世紀
78			3-2層	A12-c9	須恵器壺M	(3.8)	(5.05)	N7/灰白	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀後半?
79	21		3-2層	A12-c8	須恵器壺L?	(5.3)	(3.5)	5PB7/1明青灰	密(0.5~1mm程度の白・暗灰色砂粒含む)	良好 堅緻		8世紀後半?
80			3-2層	A12-c6-7	須恵器壺M	3.8	(2.3)	N7/灰白	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀後半
81	18		3-2層	A13-c-d1	製塩土器	(7.6)	(3.05)	10YR8/3浅黄橙	密(白色砂粒含む)	良好		8世紀
82	18		3-2層	A12-c9	製塩土器	(7.0)	(3.15)	10YR7/2にぶい黄橙・2.5Y7/1灰白	粗(2.5mm以下の白色粒・1.5mm以下の黒色粒やや多く含む。くさり礫含む)	良好		8世紀
83	18		3-2層	A12-c10	製塩土器	—	(4.0)	10YR8/3浅黄橙	やや密(1~3mm程度の砂粒多く含む)	良好		8世紀
84	18		3-2層	A12-c10	製塩土器	—	(3.7)	10YR6/3にぶい黄橙	密(1~4mmくらいの砂粒多く含む)	良好		8世紀
85			3-2層	A12-d9	唐津焼碗	—	(2.65)	5Y6/2灰オーリーブ	密	良好		17世紀

図20

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長、 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図20	86		3-2層	A12-d9	施釉陶器	—	(3.2)	橙	密	良好		近世	
	87		3-2層	A12-c9	須恵器転用土製 円板	3.1	1.2	N4/灰	密	良好		近世	
	88		3-2層	A13-c-d1	つぼつぼ	(3.3)	0.25	2.5Y8/2灰白	密	良好		16~17世紀	
	89		3-2層	A13-e3	波佐見焼碗	—	(2.1)	乳白色の地にやや 黄味をおびた透明 の釉	密(0.3mm程度の暗 色の微細粒砂)	良好		18世紀	
	90		3-2層	A12-c6-7	瓦質土器三足足 鍋	(9.2)	2.75	2.5Y8/1灰白	密(1mm以下の白色 粒やや多く含む)	良好		14世紀	
	91		3-2層	A12-c8	瓦質土器三足足 鍋	(10.4)・ 2.4	2.55	N5/灰	やや密(0.5~2mmの 灰・褐・白色砂粒含 む)	良好		14世紀	
	92		3-2層	A12-c10	平瓦	(7.6)	2.1	10YR7/1灰白	密(1~2mmくらいの 砂粒を含む)	やや軟		13世紀頃?	
	93		3-2層	A12-c6-7	平瓦	(5.75)	2.8	2.5Y7/1灰白	密(5mm以下の白色 粒やや多く含む)	やや軟		古代	
図21	94		3-2層	A12-c8	平瓦	(13.2・ 11.95)	2.1	10YR8/2灰白・7.5 Y4/3褐・7.5Y R3/1黒褐	密(3mm以下の白・ 褐・灰色砂粒、雲母、 くさり礫含む)	良好		古代	
	95		3-2層	A12-c8	平瓦	(11.8・ 9.5)	2.55	N8/灰白・N4/灰	密(3mm以下の白・ 黒・褐色砂粒含む)	やや 良好		古代	
	100	33	3-2層	A13-e2	目貫	1.4・2.1	1~2	—	—	—	銅合金(おそらく赤銅)製	江戸後期	
図23	101	17	3-3 精査	(3-3層)	A13-f-g4	龍泉窯系青磁碗	—	(3.6)	7.5Y6/2灰オリーブ	密	良好	15世紀後半	
	102	17		3-3層	A13-d-e 1-2	輸入白磁碗Ⅲ3	15.1	(1.8)	N7/灰白	密	良好	12世紀後半~ 13世紀前半	
	103			3-3層	不明	須恵器坏	15.6	(2.6)	5PB6/1青灰	密(0.5~2mmの白・ 灰・黒色砂粒含む)	良好 堅緻		8~9世紀前半
	104			3-3層	A13-c-d2	土師器碗	(13.4)	(3.1)	7.5YR6/2灰褐	やや密(1~2mm程度 の砂粒多く含む)	良好		9世紀後半
	105			3-3層	A13-d-e 1-2	瓦器碗	11.8	(2.8)	2.5Y7/1灰白	密(0.5mm以下の白 色粒含む)	軟		13世紀後半
	106			3-3層	A12-d7	須恵器坏B	(10.2)	(1.0)	5Y8/1灰白	密	軟		9世紀前半?
	107			3-3層	A12-d7	土師器碗	(8.0)	(1.2)	10YR6/3にぶい 黄橙	密(白色粒含む)	良好	佐藤平安Ⅲ古	9世紀前半?
	108			3-3層	不明	須恵器鉢	30.4	(3.7)	N7/灰白	密(0.5~3mm程度の 暗灰・灰・褐・白色砂 粒含む)	良好 堅緻		11世紀頃?
	109			3-3層	A12-d10	土師器鉢	21.1	(3.55)	5YR4/6赤褐	密(0.3~1mm程度の 白・灰・褐色砂粒、雲 母含む)	良好		8世紀
	110			3-3層	A13-d1	須恵器鉢	(10.2)	(6.4)	N8/灰白	密(1~3mm程度の 砂粒含む)	良好		
	111			3-3層	A13-c-d2	土師器坏B	(10.0)	(3.0)	7.5YR8/4浅黄橙	やや密(1~6mm程度 の砂粒含む)	良好		8世紀
	112	19		3-3層	A13-c-d2	土師器坏B	(10.6)	(1.9)	7.5YR8/4浅黄橙	やや密(1~3mm程度 の砂粒含む)	良好		8世紀
	113			3-3層	A12-d8	須恵器壺M	3.6	(1.9)	N6/灰	密(2mm以下の白色 粒含む)	良好		8世紀後半~ 9世紀
	114	18		3-3層	A12-d10	製塩土器	(6.2)	(3.35)	7.5YR8/4浅黄橙	密(0.5~3mmの白・ 灰・黒色砂粒含む)	良好		8世紀
	115			3-3層	A13-c3	土師器甕	—	(3.3)	2.5Y8/1灰白	密	良好		
	116			3-3層	A12-d10	灰釉陶器	—	(1.55)	灰白	密(0.3~1mm程度の 黒色砂粒含む)	良好		
	117			3-3層	A13-d-e 1-2	平瓦	(10.4・ 6.9)	2.1	10YR7/2にぶい 黄橙	密(1.5mm以下の白 色粒及び2.5mm以下 の褐色粒やや多く 含む)	良好		
	118			3-3層	A12-d10	平瓦	(10.5・ 8.4)	2.2	N8/灰白・N3/暗灰	密(3mm以下の白・褐 ・黒色の砂粒、5mm程 度の白・褐・黒色の 小石含む)	良好		
	119			3-3層	A13-c-d2	平瓦	(4.5)	1.6	N7/灰白	密	良好		
	120			3-3層	A13-c-d2	平瓦	(6.6)	(2.0)	5Y7/1灰白	密(1~3mm程度の 砂粒含む)	軟		
121		3-3 精査	(3-3層)	A13-f-g4	平瓦	(5.25・ 5.3)	1.75	N4/灰	密(3mm以下の灰色 粒含む)	良好			
122			3-3層	A12-d7	平瓦	(5.55・ 4.4)	2.3	5Y5/1灰	粗(3mm以下の白色 粒多く含む)	良好			
図27	124		3-4層	A13-e3-4	土師器皿	(17.2)	(2.4)	5Y8/1灰白	密	良好			
	125		3-4層	A13-d2・ e3	須恵器坏B	(14.0)	(5.7)	N8/灰白	密(0.5~2mmの黒色 砂粒、0.5~3mm程度 の白色砂粒を含む)	良好 堅緻	平城Ⅳ?	8世紀後半	
	126		3-4層	A13-c-d 1-2	須恵器壺	(13.0)	(2.1)	N6/灰・N7/灰白	密	良好			
	127		3-4層	A13-d2・ e3	須恵器壺	(10.0)	(3.1)	N8/灰白	密(0.5~2mm程度の 黒色の砂粒含む)	良好 堅緻			
	128		3-4層	A13-c-d1	瓦器碗	(6.4)	(1.45)	N4/灰	密(白色砂粒含む)	良好	尾上Ⅱ-1期	12世紀前半	

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径・長・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
図27	129		3-4層	A13-c-d1・2	瓦器碗	4.8	(1.2)	N3/暗灰	密	良好	尾上II-3期	12世紀後半
	131		3-4層	A13-e3-4	平瓦	(6.3)	1.8	10YR7/3にぶい黄橙	密	良好		
	132		3-4層	A13-c-d1	平瓦	(11.4・11.25)	2.0	2.5Y7/1灰白	やや粗(4mm以下の灰色粒・4.5mm以下の白色粒やや多く含む1.1cm大の小石1つ含む)	良好		
	133		3-4層	A13-d2-e3	土師器把手	(10.15・1.25)	2.3	10YR8/3浅黄橙	密(0.5~2mm程度の白・灰・褐色砂粒・雲母・くさり礫含む)	良好		
図31	134	4	土坑168	A12-d10	土師器羽釜	(33.6)	(7.3)	7.5YR4/2灰褐	密(5mm以下の白色粒多く含む)	良好		8世紀~9世紀前半
	135	4	ピット137	A12-d7	土師器甕	17.9	(2.5)	10YR8/2灰白	密(0.5mm程度の灰色砂粒含む)	やや軟		8世紀?
	136	4	溝78	A12-c-d8	土師器甕	(18.5)	(2.25)	7.5YR6/4にぶい橙	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀?
	137	4	溝80	A12-d9	土師器坏A	19.8	(3.05)	10YR3/1黒褐	密(白色粒含む)	良好	平安京I中頃	8世紀後半
	138	20	溝108	A12-d10	土師器坏C?	(18.3)	(2.9)	7.5YR8/4浅黄橙	密	良好		8世紀前半
	139	4	ピット151	A12-e8	土師器坏C?	17.1	(2.7)	5YR7/6~6/8橙	密(0.3~1mmの白色砂粒・雲母・くさり礫含む)	良好		8世紀後半?
	140	4	溝80	A12-d9	土師器碗	(15.0)	(2.45)	7.5YR6/4にぶい橙	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好	佐藤平安II古	
	141	4	溝114	A12-c-d8	土師器皿	(15.0)	(1.65)	5YR6/4にぶい橙	密(3mm以下の白色粒含む)	良好	佐藤平安II新?	10世紀?
	142	4	溝97	A12-d9	土師器碗	(11.8)	(2.6)	5YR6/6橙	密(白色砂粒含む)	良好		10世紀後半?
	143	4	溝97	A12-d9	土師器碗C?	(11.9)	(1.93)	5YR6/4にぶい橙	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀後半
	144	4	溝86	A12-c-d10	土師器碗?	(13.2)	2.3	5YR6/6橙	密(3mm以下の白色粒含む)	良好		10世紀前半?
	145	4	溝86	A12-c-d10	土師器碗	(12.4)	(2.6)	7.5YR6/4にぶい橙	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好		10世紀前半
	146	4	土坑132	A12-e9	土師器碗A	(11.2)	(3.6)	5YR6/6橙	密	良好		8世紀後半
	147	4	溝86	A12-c-d10	土師器皿C	(10.4)	1.55	7.5YR7/3にぶい橙	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀後半?
	148	4	ピット164	A12-d9	土師器羽釜?	(19.2)	(3.6)	7.5YR3/1黒褐	密(0.5~3mm程度の白・褐色・黒・灰色砂粒・雲母・くさり礫含む)	良好		12世紀?
	149	4	土坑124	A12-d7	土師器鉢	22.6	(4.2)	10YR8/3浅黄橙	密(0.5~3mm程度の白・灰色砂粒含む)	良好		8世紀後半?
	150	4	溝86	A12-c-d10	須恵器坏B蓋	(19.0)	(1.5)	N7/灰白	密(白色粒含む)	良好		8世紀
	151	4	溝85	A12-c-d10	須恵器坏B蓋	(15.8)	0.9	N7/灰白	密(0.3~3mm程度の白・黒色砂粒含む)	良好		8世紀
	152	4	溝98	A12-d9	須恵器坏A	(14.5)	(3.1)	5GY7/1明オリブ灰	密(0.3~1mm程度の白・黒色砂粒・4mm程度の白色の小石含む)	良好堅緻		8世紀
	153	4	土坑132	A12-e9	須恵器壺	(10.8)	(3.6)	N8/灰白	密	良好		
	154	4	溝121	A12-c10	須恵器壺	(8.0)	(2.1)	N7/灰白	密	良好		
	155	4	溝103	A12-d8	黒色土器A類坏	(6.0)	(1.35)	2.5Y3/1黒褐	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀頃
	156	4	溝98	A12-d9	土師器坏B	(6.1)	(0.85)	5YR6/6橙	密(0.3~1mm程度の白・灰色砂粒・雲母・含む)	良好		9世紀後半?
	157	4	溝97	A12-d9	土師器坏B	(5.8)	(1.3)	10YR6/2灰黄褐	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀後半?
	158	4	溝99	A12-d8	土師器台付皿?	(9.0)	(2.2)	5YR6/6橙	やや密(1~2mm程度の砂粒含む)	やや良好		11世紀
	159	4	溝100	A12-d8	土師器坏B	(6.0)	(1.0)	10YR3/1黒褐	密(1cm大の小石1つ・白色砂粒含む)	良好		9世紀?
	160	4	溝85	A12-c-d10	須恵器壺M	(3.6)	(1.3)	N7/灰白	密(0.3~2mm程度の白・灰色砂粒含む)	良好堅緻		8世紀
	161	4	土坑129	A12-d8	須恵器坏	—	(1.4)	N7/灰白	密(1.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		10世紀
	162	4	溝80	A12-d9	黒色土器A類碗	(7.4)	(0.9)	7.5YR6/4にぶい橙	密(砂粒を含む)	良好		9~10世紀
	163	20	溝86	A12-c-d10	土師器高坏	6.0	(4.1)	5YR7/4にぶい橙	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		10世紀?
	164	4	溝85	A12-c-d10	土師器把手	—	—	5YR5/6明赤褐	密(0.3~1mm程度の白色砂粒・くさり礫含む)	やや良好		
	165	18	4	溝108	A12-d10	製塩土器	—	(3.3)	10YR8/3浅黄橙	やや密(1~2mm程度の砂粒多く含む)	良好	積山4類?
166	18	4	溝86	A12-d10	製塩土器	(7.0)	(3.45)	7.5YR8/1灰白	密(砂粒含む)	軟	積山5a類?	8世紀前半
167	18	4	土坑124	A12-d7	製塩土器	5.8	(3.95)	5Y8/1灰白	密(0.5~2mmの灰・白・暗褐色砂粒含む)	良好	積山5類?	8世紀
168	18	4	溝114	A12-c-d8	製塩土器	(2.45)	(4.3)	7.5YR6/4にぶい橙	密(4.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好	積山6類	8世紀
169	4	土坑133	A12-c10	平瓦	(9.5・10.45)	2.4	N7/灰白・N3/暗灰	密(3mm以下の白・灰・黒色砂粒・5mm程度の灰色の小石含む)	良好			
170	4	溝99	A12-d8	平瓦	(5.2・7.0)	2.1	10YR7/2にぶい黄橙	やや密(1~3mmの砂粒多く含む)	良好			

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径・長・ 幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
172	20		4層	A12-c9	土師器甕	29.0	6.4	7.5Y6/3にぶい褐	密(2mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀
173			4層	A12-c8	土師器羽釜	31.2	4.4	7.5YR5/4にぶい褐	密(3mm以下の白色粒多く含む)	良好		8世紀～ 9世紀前半
174			4層	A12-c6・7	土師器羽釜	(30.2)	(2.9)	7.5YR6/4にぶい橙	密(1～3mm程度の砂粒含む)	良好		8世紀～ 9世紀前半
175			4層	A12-c8	土師器坏A	16.2	3.2	外10YR6/2灰黄褐 内10YR3/1黒褐 (スス)	密(1mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		9世紀
176			4層	A13-c・d1	土師器碗	(15.4)	(4.7)	7.5YR8/4浅黄橙	密	良好	佐藤平安Ⅱ古	9世紀
177			4層	A12-c9	土師器皿	(16.6)	2.3	7.5YR6/4にぶい橙	密(白色粒含む)	良好	佐藤平安Ⅰ～Ⅱ古	8世紀後半～ 9世紀前半
178			4層	A12-c9	土師器碗	(14.4)	(2.55)	2.5YR6/6橙	密(白色砂粒含む)	良好	佐藤平安Ⅱ古	9世紀
179			4層	A12-c6・7	土師器皿	(14)	(2.1)	10YR6/3にぶい 黄橙	密	良好	佐藤平安Ⅱ古	9世紀後半
180			4層	A12-c9	土師器皿	(12.2)	(2)	7.5YR5/3にぶい褐	密(白色粒含む)	良好	佐藤平安Ⅱ新	10世紀
181			4層	A12-c10	土師器皿	(8.7)	1.6	7.5YR5/3にぶい橙	密(0.3mm程度の黒色砂粒)	良好	佐藤平安Ⅲ古	11世紀?
182			4層	A13-c・d1	土師器坏A	—	(3.1)	10YR7/3にぶい 黄橙	密	やや 良好		8世紀後半
183			4層	A13-d1	土師器大皿	—	2.8	5YR5/6明赤褐	密	良好		古代
184	20		4層	A12-c6・7	土師器坏B	(10.3)	(2.2)	7.5YR7/4にぶい橙	密	良好		8世紀後半
185			4層	A12-c9	土師器碗	(6.8)	(1.65)	5YR6/6橙	密(2mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		8世紀?
186			4層	A13-c1・2	土師器碗	(7.4)	1.35	5YR6/4にぶい橙	密(白色砂粒含む)	良好		8世紀?
187			4層	A13-c・d1	土師器碗	(4.4)	(1.7)	7.5YR8/4浅黄橙	密	やや 良好		8世紀?
188			4層	A12-d6・7	土師器碗	(5.4)	(1.2)	10YR4/1褐灰	密	良好	内面黒っぽいが黒色土器 A類の様ではない	
189			4層	A13-d1	黒色土器碗	(8.2)	(0.95)	10YR7/3にぶい 黄橙	密	良好		10世紀?
190			4層	A13-d1	黒色土器碗	(7.4)	(1)	7.5YR5/1褐灰	密(1～2mm程度の砂粒含む)	良好		10世紀?
191			4層	A13-d1	瓦器碗	(5.2)	(1.3)	N4/灰	密	良好	和泉型Ⅱ期 内面に暗紋	12世紀前半
192	18		4層	A13-c1・2	緑釉陶器	(6.2)	(2.15)	2.5Y8/1灰白	密	良好	平尾分類ⅠA	9世紀
193			4層(島 島部分)	A12-c8	土師器甕	20	6.7	2.5YR6/8にぶい橙	密(0.3～0.5mm程度の白・褐・灰色砂粒、雲母、くさり礫含む)	良好		8世紀
194			4層	A12-c10	土師器甕	(19.8)	7.4	10YR8/3浅黄橙・ 2.5YR5/3にぶい 赤褐	密(0.5～3mm程度の白・褐・灰色砂粒、雲母、くさり礫多く含む)	良好	南河内型	8世紀
195			4層	A13-d1	土師器甕	(17.8)	(1.9)	10YR7/3にぶい 黄橙	密	良好		8世紀
196	20		4層	A13-e1	須恵器甕	17.2	4.9	N7/灰白	密(0.5～1mm程度の白・黒色砂粒多く含む)	良好 堅緻	口縁内面線刻?	
197	20		4層	A13-d1	須恵器皿	(18)	(2.2)	N7/灰白	密	良好		9世紀後半
198			4層	A12-c8	須恵器壺	(12.9)	(4)	N5/灰	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		
199			4層	A12-c10	須恵器坏B	14.7	3.3	N8/灰色	密(0.3～0.5mm程度の白・黒・灰色砂粒含む)	軟		8世紀後半
200			4層	A13-e2	須恵器坏B	(11.3)	(3.5)	2.5Y8/1灰白	密	軟		8世紀後半
201			4層	A13-c・d1	須恵器坏B	(10.8・ 10)	(4.2)	N7/灰白	密(1mm程度の砂粒含む)	良好		8世紀後半
202	21	4 精査		A12-d8	須恵器壺	7.8	5.35	N7/灰白	密(0.5～2mm程度の白色砂粒、0.5mm程度の雲母含む)	良好 堅緻		
203			4層	A12-c8	須恵器坏	(11.4)	2.85	7.5Y4/1灰	密(3.5mm以下の白色粒含む)	良好		
204			4層	A12-c10	須恵器碗?	10.1	3.45	N7/灰白	密(0.3～0.5mm程度の白色砂粒、くさり礫含む)	良好 堅緻		
205			4層	A12-c6・7	須恵器壺	(10.9)	(1.5)	N6/灰	密(1mm程度の砂粒少し含む)	良好		
206			4層	A13-d・e2	須恵器壺	9	1.4・0.4	5Y8/1灰白	密(白色砂粒含む)	軟	摩滅している	
207			4層	A13-c・d1	須恵器坏B	7	(2.4)	N7/灰白	密	良好		8世紀後半?
208			4層	A13-c1・2	須恵器鉢	6.05	2.8	N6/灰	密(1mm以下の白色砂粒含む)	良好		12世紀後半
209			4層	A13-c1・2	須恵器蓋	(16.4)	0.9	5YR6/2灰褐	密(0.5mm以下の白色粒含む)	軟	歪みあり	
210	21		4層	A12-c6・7	須恵器坏B蓋	13.6	(1.4)	N7/灰白	密	良好		8世紀
211			4層	A12-c8	須恵器坏B蓋	(13.2)	1.98	5Y8/1灰白	密(白色砂粒含む)	やや軟		8世紀
212	21		4層	A12-c8	須恵器壺A蓋	(12.2)	2.4	N7/灰白	密(0.5mm以下の白色砂粒含む)	良好		8世紀前半
213	21		4層	A12-c9	須恵器平瓶	(7.1)	5.35	N6/灰	密(3mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		9世紀前半
214			4層	A13-c・d1	須恵器壺K	(3.2)	(4.8)	N7/灰白	密(1～2mm程度の砂粒含む)	良好		
215			4層	A13-c・d1	須恵器壺K	(15.8)	(4)	N7/灰白	密	良好		
216			4層	A13-e1	須恵器鉢	14	4.8	5B5/1青灰	密(0.3～0.5mmの黒・白色砂粒微量含む)	良好 堅緻		9世紀

図
32

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長・ 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図32	217	18	4層	A12-c8	製塩土器	2.45	(3.25)	10YR8/2灰白	密(1.5mm以下の白色粒、2mm以下の灰色粒を多く含む)	良好	積山5類?	8世紀	
	218	18	4層	A12-c8	製塩土器	—	(2.55)	7.5YR5/4にぶい・褐色	密(4mm以下の白色粒を多く含む)	良好			
	219	18	4層	A13-d・e2	製塩土器	3.65・ 2.95	1.3	2.5Y8/1灰白	密(2mm以下の白色砂粒)	良好	積山3類	8世紀	
	220	18	4層	A12-c9	製塩土器	4.95・ 8.7	0.9	7.5YR6/4にぶい・褐色	密(2mm以下の褐色粒及び2.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好	積山6類	8世紀	
	221		4 精査	A12-d8	瓦転用土製円板	(3.9・ 3.6)	(3.6)	N6/灰	密(2mm程度の砂粒含む)	やや 良好			
図33	222	33	4層 (島晶 部分)	A12-c8	複弁七弁蓮華文 軒丸瓦	(12.6)	3.1	N7/灰白・ 2.5YR7/4淡赤橙	密(3mm以下の白色の砂粒含む)	やや 良好	平城宮6284型式を祖型とする青谷式(河内国分寺式)	8世紀中頃 以降	
	223		4層	A12-d6・7	丸瓦	(11.5・ 5.8)	(1.8~ 2.4)	5YR6/4にぶい・褐色	やや密(1~4mm程度の砂粒多く含む)	良好			
	224		4層	A12-c6・7	平瓦	(4.8・3.7)	2.2	5Y7/1灰白	密	良好	縄目あり		
	225		4層	A13-d・e2	平瓦	9.3・ 11.1	2.35	2.5Y6/1黄灰・ 10YR8/2灰白	密(2.5mm以下の白色粒及び3mm以下の灰色粒、7.5mm大の小石一つを含む)	良好	布目痕あり		
	226		4層	A12-c6・7	平瓦	9.5・ 13.7	2.0	N6/灰	密(1~9mm程度の砂粒、石含む)	良好	縄目と布目あり		
	227		4層	A12-c9	平瓦	10.8・ 10.6	2.7	7.5YR6/4にぶい・褐色	密(0.6cm、1.05cm及び1.2cm大の小石3つ・4mm以下の白色粒多く含む)	良好	縄目と布目あり		
	228		4層	A13-d1	平瓦	(5.9・8)	2.2	N6/灰	やや密(1~11mm程度の砂粒や石多く含む)	良好	縄目と布目あり		
	229		4層	A13-d・e2	平瓦	8.25・7	2.35	2.5Y7/1灰白	密(1.5mm以下の灰色白色粒やや多く含む)	良好	縄目と布目		
	230	33	4層	A12-c8	軒瓦	5.75・ 7.05	2.35	2.5Y7/1灰白	密(白色粒含む)	良好	布目痕あり		
	231	33	4層	A12-c9	土師質埴	9.9・6.7	6.5	7.5Y6/6橙・10YR 7/3にぶい・黄橙	やや粗	やや軟			
図39	236	20	4b	土坑288	A12-c10	土師器羽釜	28.8・ 33.9	6.3	5YR6/6橙	密(0.3~1.5mmの白・黒・灰色砂粒、雲母、くさり礫、3mm程度の白色の小石含む)	良好		8~9世紀前半
	237		4b	土坑288	A12-d10	土師器羽釜	(31.6)	(5.6)	7.5YR6/4にぶい・褐色	やや密(1~4mm程度の砂粒多く含む)	良好	内・外面とも砂粒や鉄分が多く付着	8~9世紀前半
	238		4b	土坑254	A12-d7	土師器羽釜	(26.6・ 31.6)	5.2	7.5YR6/4にぶい・褐色	密(1.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		10世紀頃?
	239	19	4b	溝207	A12-c・ d7	土師器坏A	(18)	31.5	7.5Y8/4浅黄橙	密(0.3~1mmの白・黒色砂粒、2~3mmの白色の小石含む)	やや 良好	平城Ⅳ~Ⅴ?	8世紀後半
	240	20	4b	溝232	A12-c8	土師器坏A	(17.3)	2.7	5YR6/6橙・10YR 8/3浅黄橙	密(0.3mm程度の白・褐色砂粒含む)	良好	平城Ⅲ? 内面に暗文	8世紀中頃
	241		4b	溝212	A12-c8	土師器埴	(4.3)	(17.1)	2.5Y7/1灰白・7.5 YR7/4にぶい・褐色	密	良好		8~9世紀
	242		4b	土坑252	A12-c・d7	土師器坏	(17.2)	2.5	10YR8/2灰白	密(0.3~0.5mmの白・褐色砂粒含む)	良好		8世紀後半~ 9世紀初頭
	243	20	4b	土坑301	A12-c10	土師器坏A	(3.1)	(15.9)	2.5Y8/2灰白	やや密	良好	平城Ⅲ? 内面連弧文	8世紀前半
	244		4b	溝199	A12-c7	土師器ⅢA	(18)	1.9	5YR6/6橙・ 5YR8/2灰白	密(0.3~1mm程度の白・褐色砂粒含む)	良好		8世紀後半
	245		4b	土坑291	A12-c10	土師器ⅢA	(16.4・ 14.4)	1.6	10YR7/3 にぶい・黄橙	密(白色粒含む)	軟	佐藤平安Ⅱ古	9世紀?
	246	19	4b	土坑287	A12-d9	土師器坏A	(13.8)	(3.5)	2.5YR8/2灰白	やや密(1~3mm程度の砂粒多く含む)	良好		9世紀前半?
	247		4b	土坑307	A12-c・ d10	瓦器	(17.9)	4.1	N8/灰白~N1.5/黒	密(0.5~1mm程度の白・灰色砂粒含む)	やや 軟	和泉型Ⅱ期	12世紀後半
	248		4b	土坑298	A12-c・d10	瓦器埴	15.8	2.45	N5/灰	密	良好	和泉型Ⅲ期	13世紀
	249		4b	土坑254	A12-d7	黒色土器B類	(13.6)	3.65	5Y2/1黒	密(2mm以下の白色粒含む)	良好		11世紀後半頃
	250	19	4b	土坑252	A12-c7	土師器埴	14.1	4	2.5Y7/2灰黄~ 7/3浅黄	密	やや 良好	墨書 村主(スグリ)	9世紀前半
	251		4b	土坑289	A12-c10	土師器埴A	14	3.8	5YR6/6橙	密(0.3~0.5mm程度の白・灰・褐色砂粒、雲母、くさり礫、3mm程度の白色の小石含む)	やや 良好	佐藤平安Ⅱ古?	9世紀前半
	252		4b	土坑254	A12-d7	土師器埴A	(16.8)	3.55	5YR6/6橙	密(5mm以下の白色砂粒含む)	良好	佐藤平安Ⅱ古?	9世紀前半
	253	19	4b	土坑286	A12-c9・ 10	土師器埴A	(13.5・ 7.2)	4.1	5YR6/4にぶい・褐色	密(2mm以下の灰色粒、3mm以下の白色粒をやや多く含む)	良好	佐藤平安Ⅱ古?	9世紀前半
254		4b	土坑254	A12-d7	土師器埴	(13.4)	2.6	10YR6/2灰黄褐	密(0.5mmの褐色粒、1.5mm以下の黒色粒、3mm以下の白色粒を含む)	良好		8~9世紀?	

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径・長・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期		
図39	255		4b	溝186	A12-c7	土師器埴C	(15)	3.2	5YR6/4にぶい橙	密(1mm以下の白色粒含む)	良好	8世紀後半～9世紀初頭?		
	256		4b	土坑292	A12-c10	土師器埴	12.4	3.4	5YR6/6橙	密(0.3～0.5mm程度の褐・白色砂粒、雲母、くさり礫含む)	良好	9世紀頃?		
	257	20	4b	溝186	A12-c7	土師器甕	5.9・7	—	5YR6/4にぶい橙	密(1mm以下の灰色・白色砂粒含む)	良好	線刻あり	8世紀頃?	
	258	19	4b	溝185	A12-c7	土師器把手付短頸壺(壺A)	(12・20・75)	10.6	5YR7/6橙	密(0.3～0.5mmの白色砂粒、くさり礫、雲母含む)	良好		8世紀	
	259		4b	土坑254	A12-d7	土師器甕	(16.2・15.9)	4.55	5YR6/4にぶい橙	密(1mm以下の灰色粒・2mm以下の白色粒含む)	良好		10世紀頃	
	260		4b	土坑291	A12-c10	土師器甕	(10.1)	(3.5)	7.5YR5/1褐灰	密	良好		8世紀末～9世紀代	
	261		4b	溝201	A12-c7	土師器	(12.6)	(5.7)	10YR6/1褐灰	密(1mm程度の砂粒含む)	良好	器種不明		
	262		4b	土坑252	A12-c・d7	土師器埴	11.3	2.6	10YR8/2灰白	密(0.3mm程度の白・褐色砂粒含む)	良好		8世紀後半～9世紀初頭	
	263		4b	土坑254	A12-d7	土師器埴	(7)	1.3・0.3	7.5YR6/4にぶい橙	密(0.5mm以下の白色粒含む)	良好		9世紀頃?	
	264		4b	溝186	A12-c7	製塩土器	(8.2)	(5.2)	7.5YR7/4にぶい橙	密(4mm以下の灰色粒多く含む)	良好	積山6類 布目痕あり	8世紀	
	265		4b	土坑307	A12-c・d10	土師器皿	(11.2)	1.7	10YR8/2灰白	密(灰色砂粒・くさり礫含む)	やや良好		12世紀	
	266		4b	土坑307	A12-c・d10	土師器皿	(9)	1.55	2.5Y8/1灰白・2.5Y5/1黄灰	密(0.3mm程度の微量の雲母、0.5～1mm程度のくさり礫含む)	良好		12世紀	
	267	18	4b	溝201	A12-c7	製塩土器	—	(2.2)	7.5YR8/4浅黄橙	やや密(1～4mm程度の砂や石含む)	やや良好	積山3類	8世紀	
	268	20	4b	溝197	A12-c・d7	須恵器壺?	—	(1.8)	N7/灰白	密	良好	把手部分		
	269		4b	溝204	A12-c・d7	須恵器坏B蓋	(20)	0.9	N7/灰白・N6/灰	密	良好		8世紀後半	
	270		4b	溝203	A12-c・d7	須恵器坏B蓋	(14.6)	1.35	5Y7/1灰白	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀中頃	
	271		4b	溝231	A12-c8	須恵器坏B蓋	(14)	1.3	N7/灰白	密(0.3mm以下の黒・白色砂粒含む)	良好堅緻		8世紀中頃	
	272	21	4b	溝199	A12-c7	須恵器坏B	(17.3)	6.1	5B6/1青灰	密(0.3～1.5mm程度の白、褐色砂粒含む)	良好堅緻	平城VI	8世紀後半	
	273		4b	溝184	A12-c7	須恵器坏B	(16.4)	4.7	N6/灰	密(1mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		9世紀	
	274		4b	溝442	A12-c7	須恵器坏A?	(14.4)	2.8	2.5Y8/1灰白・2.5Y5/1黄灰	密(0.5mm以下の白色粒含む)	やや良好			
	275		4b	土坑298	A12-c・d10	須恵器壺	(11)	(2.1)	N7/灰白	密(1～3mm程度の砂粒含む)	良好			
	276		4b	溝225	A13-c・d1	須恵器壺	(8)	(1.45・0.45)	N7/灰白	密(0.5mm以下の灰色粒、4mm以下の白色粒含む)	やや良好			
	277		4b	溝206	A12-c・d7	須恵器壺	6.75	1.25・0.4	N5/灰	密(4mm以下の白色粒やや多く含む)	良好			
	278		4b	溝189	A12-c7・8	須恵器壺	(8.4)	2.75	N6/灰・5YR6/1褐灰	密	良好			
	図40	279		4b	土坑298	A12-c・d10	須恵器壺	(20.7)	(3.6)	N6/灰	密	良好		
		280		4b	土坑301	A12-c10	須恵器壺	(17.9)	(2.3)	N6/灰	密(1～2mm程度の砂粒少し含む)	良好		
		281	20	4b	土坑254	A12-d7	須恵器壺	(14・11.8)	7	N6/灰・10YR6/1褐灰	密(4mm以下の白色粒含む)	良好		
282		21	4b	溝204	A12-c・d7	須恵器長頸壺	(5.6)	(6.1)	5Y7/1灰白・7.5Y5/3灰オリーブ	密(1mm程度の砂粒含む)	良好		8世紀?	
283			4b	溝225	A13-c・d1	丸瓦	(9.15)	1.5	5YR6/4にぶい橙・10YR6/2灰黄褐	密(2mm以下の黒色粒、4mm以下の白色粒、4.5mm以下の灰色粒多く含む)	良好			
284			4b	土坑325	A13-d1	平瓦	(9.4・8.6)	(2.2)	10YR6/4にぶい黄橙	やや密(5mm以下程度の砂粒多く含む)	やや良好			
285			4b	土坑254	A12-d7	平瓦	9・5.7	1.7	10YR6/2灰黄褐	密(4mm以下の白色粒多く含む)	良好			
図41	292	18	4b 精査	(4b層)	A12-d8	緑釉陶器埴	7.2	(2.45)	10YR7/1灰白	密(白色粒含む)	良好	平尾分類4段階(平安Ⅱ新～Ⅲ新) 近江系	930年頃～1010年頃	
	293	17		4b層	A12-d7	緑釉陶器碗or皿	9.2	(1.65)	7.5Y7/2灰白	密(0.3mm程度の白・暗灰色砂粒、雲母含む)	良好堅緻		10世紀前半?	
	294	19		4b層	A13-c2	土師器坏C	12.85	3.75	10YR7/3にぶい黄橙	密(細粒砂)	良好	飛鳥Ⅳ?	7世紀後半?	
	295		4b 精査	(4b層)	A12-d10	土師器埴A	(14.0)	3.3	7.5YR7/4にぶい橙	密(白色粒含む)	良好		8～9世紀前半?	
	296		4b 精査	(4b層)	A12-d9	土師器坏	(14.2)	(2.8)	7.5YR8/4浅黄橙	密(1mm大の礫をわずかに含む)	良好		8～9世紀前半?	
	297		4b 精査	(4b層)	A12-d10	土師器埴	(14.4)	(2.15)	5YR6/6橙	密(白色粒含む)	良好		9世紀前半～中頃	
	298		4b 精査	(4b層)	A12-d9	土師器埴	(13.0)	(4.0)	5YR6/6橙	粗	やや軟		9世紀前半頃	
299			4b層	A12-d7	土師器甕	(27.4)	(7.6)	10YR8/2灰白	密(1mm以下の白色粒含む)	良好		8世紀		

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径・長・ 幅(cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
図 41	300		4~4b層	A12-c・ d10・A13 -c・d1	土師器甕	(25.8)	(7.5)	7.5YR7/4にぶい・橙	やや密(1~2mm程度 の砂粒含む)	やや 良好		8世紀
	301		4b層	A12-c8	土師器羽釜	(29.0)	(4.8)	7.5YR5/3にぶい・褐・ 10YR6/3にぶい・黄橙	やや密(1~4mm程度 の石粒含む)	良好		8~9世紀前半
	302		4b層	A12-d8	土師器甕	(15.6)	(8.8)	2.5YR4/6明赤褐 ~10YR4/2灰黄褐	やや密(0.5~3mm程 度の白・褐・灰色砂 粒、くさり礫、雲母含 む)	やや軟		10世紀後半?
	303		4b層	A12-d7	土師器甕	18.4	(4.6)	5YR7/6橙	密(0.5~2mmの白・ 灰、黒色砂粒、雲母、 くさり礫含む)	良好		8世紀後半
	304	19	4b層	A12-c8	土師器坏A	(18.6)	3.3	10YR8/2灰白~ 8/3浅黄橙	密	良好		8世紀後半
	305		4b層	A12-c・d8	土師器高坏	(12.6)	(9.7)	10YR7/3にぶい 黄橙	密	良好		布留式前半新 相~後半古相
	306		4b層	A12-c8	土師器高坏	2.3	(8.3)	2.5YR7/4淡赤橙	密(0.3mm程度の白・ 褐・灰色砂粒、くさり 礫、雲母含む)	やや 良好		布留式前半 新相~後半 古相頃
	307		4b層	A12-d10	土師器高坏	(4.1)	(4.15)	10YR7/2にぶい 黄橙	密(2mm以下の白色 粒含む)	良好		布留式前半
	308		4b層	A12-d8	土師器把手	(5.45)	(5.05)	5YR6/4にぶい・橙	密(白色粒含む)	良好		
	309		4b層	A12-c9	須恵器坏蓋	(16.1)	(3.15)	N6/灰	密	良好	MT85	6世紀後半
	310		4b層	A12-c・d8	須恵器坏蓋	(15.4)	(3.7)	10YR5/2灰黄褐	やや密(1~2mm程度 の砂粒含む)	やや軟	MT85	6世紀後半
	311	22	4b層 (青灰シ ルト中)	A13-g3	須恵器坏蓋	14.6	4.2	5B6/1青灰	密(中(極粗砂を少 量含む)~細粒砂)	良好	MT85	6世紀後半
	312	22	4b層	A12-d10	須恵器坏蓋	12.8	38.5	10BG6/1青灰~ 2.5GY8/1灰白	密(中~細粒砂)	良好	MT85	6世紀後半
	313		4b層	A12-c8	須恵器坏蓋	(12.4)	3.1	N6/灰	密	良好	TK47	6世紀初頭
	314		4b層	A12-d7	須恵器坏身	(10.6)	(2.4)	5Y8/1灰白	密(白色粒含む)	やや軟	TK43?	6世紀後半?
	315		4b層	A12-d9	須恵器坏AorB	(18.2)	(3.6)	N7/灰白	密(0.3~1mmの白・ 灰・暗灰色砂粒含む)	良好 堅緻		8世紀後半?
	316		4b層	A12-d9	須恵器坏A	(14.8)	3.4	N6/灰	密(2mm以下の白色 粒含む)	良好	平城IV?	8世紀後半?
	317		4b層	A12-c8	須恵器坏B	(15.1)	4.7	N6/灰	密	良好 堅緻	平城IV?	8世紀後半?
	318		4b層	A13-e1	須恵器坏B	(13.0)	4.1	N7/灰白	密(0.3~1mmの白・ 黒色砂粒含む)	良好 堅緻	平城IV?	8世紀後半?
	319		4b層(3 ~2島島 38部分)	A12-d8	須恵器坏B	(10.4)	(2.8)	N6/灰	密(2mm以下の白色 粒含む)	良好	平城IV?	8世紀後半?
	320		4b層	A12-c9	須恵器坏B蓋	(16.0)	2.05	N6/灰	密(白色粒含む)	良好	歪み大きい	8世紀後半~ 9世紀前半
	321		4b層	A12-d9	須恵器坏B蓋	2.4	(1.7)	N6/灰	密	良好		8世紀後半~ 9世紀前半
	322		4b層	A12-d8	須恵器壺	(10.8)	(3.2)	N5/灰	密(1mm以下の白色 粒含む)	良好		8~9世紀?
	323		4b層	A12-d9	須恵器壺	(9.0)	(3.3)	N3/暗灰	密(3mm次の礫混じ る)	堅緻		8~9世紀?
	324		4~4b層	A12-d9 ・10	須恵器壺	(9.4)	(5.2)	N6/灰	密(0.5~1mmの白・ 黒、灰色砂粒含む)	良好 堅緻		8~9世紀?
	325		4b層	A12-d9	須恵器壺?	9.3	(2.7)	7.5Y7/1灰白	密(0.3~0.5mm程 度の白・暗灰色砂粒、 くさり礫、5mm程度 の白色の小石含む)	やや 良好		8~9世紀?
	326		4b層	A12-c8	須恵器壺or鉢	(8.2)	(1.4)	N6/灰	密	良好		8~9世紀?
	327		4b層	A12-c8	須恵器壺	(13.7)	(3.15)	N6/灰	密	良好		8~9世紀?
	328		4b層	A12-c8	須恵器壺M?	(6.2)	(3.6)	N5/灰	密(1mm程度の砂粒 少し含む)	良好		8世紀後半?
	329		4b層	A13-d2	須恵器壺M?	(3.8)	(5.05)	N5/灰	密	良好		8世紀後半?
	330		4b層	A12-c8	製塩土器	(3.85)	(2.8)、1.1	10YR6/4にぶい 黄橙	密(2mm以下の白色 粒やや多く含む)	良好	積山分類6類	8世紀
	331	18	4b層	A12-c7	製塩土器	(2.4)	(4.3)、1.3	7.5YR5/4にぶい・褐	密(1.5mm以下の白 色粒やや多く含む)	良好	積山分類6類	8世紀
	332		4b層	A12-c8	製塩土器	(3.6)	0.8	10YR7/2にぶい 黄橙	密(1mm以下の白色 粒、灰色粒多く含む)	やや 良好		8世紀
333		4~4b層	A12-d9・ 10	製塩土器	6.2	(3.35)	5YR8/4淡橙	密(1~2mm程度 の白・灰色砂粒、くさり 礫多く含む)	良好	積山分類5類	8世紀	
図 42	336		4b層	A12-d10	平瓦	(12.4)	(8.5)、 1.75	2.5Y7/1灰白	密(3mm以下の白色 粒やや多く含む)	良好		
	337		4b層	A12-c8	竈?	(5.6)	(4.7)、2.1	7.5YR6/4にぶい・橙	密	良好		
	338		4b層	A12-d7	平瓦	(9.3)	6.5、1.6	7.5YR6/4にぶい・橙 ・7.5YR6/6橙	密(0.3~0.5mm程 度の白・褐・灰色砂粒、 雲母、くさり礫、5mm 程度の白色の小石含む)	良好		
	339		4b層	A12-d9	平瓦	(8.2)	(5.8)、1.8	7.5YR7/4にぶい・橙	やや密(6mm以下程 度の砂粒、石を含む)	良好		
	340		4b層	A12-d7	平瓦	(9.85)	7.5、1.7	10YR8/2灰白・ 10YR4/1褐灰	密(1~3mm程度 の白・褐色の砂粒含む)	良好		
341		4b層	A12-d9	平瓦	(7.9)	(4.8)、2.2	2.5Y8/1灰白	やや密(2mm以下の 砂粒多く含む)	やや 良好			

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径・長・幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
図44	346	22	5-0層	A13-f3	須恵器坏蓋	(13.9)	3.75	N8/灰白	密(白色粒含む)	軟	TK209 少し歪みあり	7世紀前半
図47	348		5層	A12-d8	須恵器坏蓋	(15.8)	(3.5)	N6/灰	やや密(2mm以下の砂粒多く含む)	良好	MT15~TK10	6世紀前半
	349	22	5層	A12-d8	須恵器坏蓋	(14.0)	3.7	N5/~4/灰	やや密	良好	MT15~TK10	6世紀前半
	350		5層	A12-d8	須恵器坏蓋	(14.0)	(3.6)	N6/灰	密(2mm以下の砂粒少し含む)	良好	TK43頃	6世紀後半
	351		5層	A12-d8	須恵器坏蓋	(13.6)	(4.4)	N7/灰白	密	良好	TK209頃	7世紀前半
	352		5層	A12-c9	須恵器坏蓋	(10.6)	(3.3)	N6/~5/灰	密	良好	TK47頃	6世紀初頭
	353		5層	A12-d8	須恵器坏身	(10.4)	(4.0)	N6/~5/灰	密	良好	TK47頃	6世紀初頭
	354		5層	A12-d7	土師器甕	(14.6)	(4.9)	10YR5/1褐灰	やや密(2mm以下の砂粒含む)	良好		布留式後半
	355		5層	A13-d-e1	土師器甕	(16.6)	(4.8)	2.5Y7/2灰黄	密	良好		布留式後半
	356		5層	A12-d7	土師器甕	(14.2)	(3.3)	7.5YR7/3にぶい橙	密	良好		布留式前半
	357		5層	A12-d6-7	土師器甕	(13.6)	(3.8)	10YR8/2灰白	密(0.5mm以下の灰色粒、2.5mm以下の白色粒を多く含む)	良好	布留系(端部肥厚せず・削り頭まで及ぶ)	布留式後半
	358		5層	A12-c-d8	土師器複合口縁甕	16.6	(4.3)	10YR8/2灰白	密(0.3~1mmの白・黒・灰色砂粒、くさり礫含む)	やや良好		布留式後半
	359		5層	A12-c-d8	土師器複合口縁甕	(17.0)	(3.35)	10YR5/1褐灰	密(0.5~2mmの白・黒・灰・褐色砂粒、雲母、くさり礫、5mm程度の白色の小石含む)	良好	縦方向突帯	
	360		5層	A12-c8	土師器有段屈曲鉢	(12.8)	(3.3)	10YR7/2にぶい黄橙	密(0.5mm以下の白色粒、1mm以下の灰色粒を含む)	良好		布留式前半 新相
	361		5層	A12-d6-7	土師器小型丸底壺	(10.3)	(4.8)	10YR4/1褐灰	密(1mm以下の白色粒含む)	良好	粗製	布留式
	362		5層	A12-c-d8	弥生土器壺	4.7	(4.7)	10YR7/3にぶい黄橙	密(0.3~1mmの灰・白・黒色砂粒、雲母、くさり礫含む)	良好	V様式	弥生後期
	363		5層	A13-e3-4	弥生土器壺	(4.4)	(3.5)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	V様式	弥生後期
	364		5層	A12-d8	土師器台付き鉢	5.4	(4.4)	10YR6/3にぶい黄橙	やや密(5mm以下の砂粒、石多く含む)	軟		
	365		5層	A13-e3-4	弥生土器壺	6.8	(3.6)	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好		弥生中期
	366		5層(高坏集中部付近)	A12-c8	土師器無稜直口高坏	(17.4)	(4.15)	2.5Y7/1灰白	密(2.5mm以下の白色粒、1.5mm以下の灰色粒を多く含む)	良好	辻編年2段階	布留式後半 新相
	367		5層(高坏集中部付近)	A12-c8	土師器無稜直口高坏	(16.8)	(3.5)	2.5Y6/2灰黄	密(2mm以下の白色粒含む)	良好	辻編年2段階 粗製	布留式後半 新相
	368		5層(高坏集中部付近)	A12-c8	土師器無稜外反高坏	(15.2)	(3.1)	10YR5/1褐灰	密(3.0mm以下の灰色粒、3.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好	辻編年1or2段階	布留式後半
	369		5層(5b面ピット461の北東より出土)	A12-c8	土師器無稜外反高坏	(15.8)	(8.7)	10YR8/3浅黄橙	やや密(3mm以下の砂粒含む)	良好	辻編年1or2段階	布留式後半
	370		5層	A12-d8	土師器高坏	(11.0)	(7.8)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	辻編年3段階	布留式後半
	371		5層	A12-c-d8	土師器高坏	(10.4)	(6.2)	7.5YR7/6橙	密(0.5~3mmの白・褐・灰・黒色砂粒、くさり礫含む)	良好	辻編年3段階	布留式後半
	372		5層(5面盛土部分)	A12-d7	土師器高坏	(12.6)	(7.2)	10YR7/2にぶい黄橙	やや密(6mm以下の砂粒、石含む)	良好	辻編年4段階?	布留式後半
	373		5層	A12-d8	土師器高坏	(11.8)	(5.8)	7.5YR8/4浅黄橙	やや密	良好	辻編年2~3段階?	布留式後半
	374		5層(高坏集中部付近)	A12-c8	土師器高坏	(11.15)	(7.0)	7.5YR7/3にぶい橙	密(1.5mm以下の白色粒含む)	良好	辻編年2~3段階?	布留式後半
	375		5層(高坏集中部付近)	A12-c8	土師器高坏	10.25	(6.4)	2.5Y8/2灰白	密(2mm以下の白・茶・褐・灰色粒、5mm以下の灰色粒多く含む)	良好	辻編年2~3段階?	布留式後半
	376		5層	A12-d6-7	土師器高坏	2.4	(8.15)	2.5Y7/2灰黄	密(白色粒含む)	良好		布留式前半
	377		5層	A12-c9	土師器高坏	—	(7.6)	7.5YR6/4にぶい橙	密	良好		布留式前半
378		5層	A12-d8	土師器高坏	—	(7.9)	10YR6/3にぶい黄橙	やや密(3mm以下の砂粒含む)	良好	辻編年3段階?	布留式後半	
379		5層	A12-c-d8	土師器高坏	(6.0)	(4.25)	10YR7/2にぶい黄橙	密(0.3~1mmの白・黒・灰・褐色砂粒、くさり礫、雲母含む)	やや良好	辻編年4段階?	布留式後半	
380		5層	A12-c-d8	製塩土器?	2.2	(3.65)	10YR8/3浅黄橙	密(0.3~0.5mmの灰・褐・白色砂粒、雲母、くさり礫含む)	やや良好	脚台IV式?		
図49	381	5b	溝382	A13-d2	弥生土器甕	(16.2)	(4.2)	2.5Y6/1黄灰~6/2灰黄	密	良好	V様式	弥生後期
図54	382	23	5b	溝367・368	A12-c7	(34.4)	(14.1)	7.5YR7/4にぶい橙	密(2mm以下の砂粒含む)	良好		布留式後半
	383	5b	溝367・368	A12-c7	土師器甕	(15.0)	(9.0)	2.5Y6/3にぶい黄	密	良好	布留系	布留式前半?

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径、長・幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図54	384	23	5b	溝368	A12-c7	土師器甕	13.6	(7.4)	2.5Y7/3灰黄	密(0.3~1mmの白・灰・褐色砂粒、くさり礫含む)	良好	布留式前半古相	
	385		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器甕	(15.4)	(6.4)	10YR6/4にぶい黄橙	密	やや軟	布留式前半古相	
	386		5b	溝368	A12-c7	土師器甕	(13.0)	(6.6)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	布留式前半古相	
	387		5b	溝368	A12-c-d7	土師器甕	(14.0)	(2.9)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	庄内系 布留式前半?	
	388	23	5b	落ち込み409上層	A12-c7	土師器小型器台	(14.2)	(5.8)	10YR7/3にぶい黄橙	密	やや良好	布留式前半	
	389		5b	溝368	A12-c-d7	土師器小型丸底壺	(10.8)	(5.0)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	布留式前半	
	390	23	5b	溝367・368	A12-c7	土師器小型丸底壺	10.3	(8.9)	5YR7/6橙	やや密	良好	布留式前半	
	391		5b	溝368南セクション	A12-d7	土師器小型丸底壺	(10.5)	(6.0)	7.5YR8/2灰白~7/3にぶい橙	やや密	良好	布留式前半	
	392		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器小型丸底壺	8.0	(4.5)	10YR6/3にぶい黄橙	やや密	やや軟	粗製 布留式前半	
	393	23	5b	溝367・368	A12-c7	土師器有稜直口高坏	(18.0)	(5.0)	2.5Y7/2灰黄~7/3浅黄	密	良好	辻編年2段階 布留式後半	
	394		5b	溝368	A12-c-d7	土師器有稜直口高坏	(14.8)	(4.6)	10YR7/2にぶい黄橙	密	良好	布留式前半	
	395		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器有稜外反高坏	(14.4)	(3.6)	7.5YR7/4にぶい橙	密	良好	布留式前半新相	
	396	23	5b	落ち込み409・溝369東側の低まり・溝367・368	A12-c-d7	土師器長頸直口壺	15.4	(12.6)	10YR4/2灰黄褐	密(1.4cm以下の白色礫を多く含む)	良好		庄内式?
	397		5b	溝368南セクション	A12-d7	土師器無頸壺?	(15.2)	(7.8)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	東海系ワイングラス形高坏? 庄内式併行	
	398		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器広口壺	(12.2)	(7.0)	2.5Y6/2灰黄	やや密	良好	庄内式後半	
	399	23	5b	溝367・368	A12-c7	土師器広口壺	14.0	(6.9)	10YR6/2灰黄褐	密	良好	庄内~布留式	
	400		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器	(14.0)	(2.0)	7.5YR7/3にぶい橙	密	良好	口縁部外面に貼り付け突帯 庄内~布留式	
	401		5b	落ち込み409	A12-c7	土師器高坏	—	(7.8)	10YR7/3にぶい黄橙	密	良好	布留式前半	
	402		5b	落ち込み409上層	A12-c7	土師器高坏	(11.6)	(7.8)	2.5Y7/2~6/2灰黄	密	良好	辻編年2段階 布留式後半新相	
	403		5b	溝367・368	A12-c7	土師器高坏	—	(7.7)	7.5YR6/6橙	密	やや良好	布留式前半新相	
404		5b	溝368	A12-c7	土師器高坏	(2.7)	(6.8)	10YR7/2にぶい黄橙	密(0.5~1mmの白色砂粒、くさり礫含む)	良好		布留式前半	
405	23	5b	溝368	A12-c7	土師器高坏	—	(2.1)	10YR8/2灰白	密(灰色砂粒、くさり礫含む)	良好	辻編年1段階 脚部内面布目痕	布留式後半古相	
図56	406	23	5b	溝376	A12-d8	土師器直口高坏	(18.5)	(4.4)	10YR7/2にぶい黄橙	粗(5mm以下の砂粒、石を多く含む)	良好		布留式前半新相
	407	22	5b	溝376	A12-c8	土師器外反高坏	(15.6)	(4.6)	5YR6/1褐灰	やや密(6mm以下の砂粒、石含む)	良好	408と同一個体	布留式前半新相
	408	23	5b	溝376	A12-c8	土師器高坏	11.5	(7.9)	7.5YR7/4にぶい橙	やや密(5mm以下の砂粒含む)	良好	408と同一個体	布留式前半新相
図57	409	22	5b	溝373	A12-d7	土師器小型丸底壺	8.7	9.7	N1.5/黒~2.5Y7/3浅黄	密(細~粗砂)	良好	粗製	布留式後半
	410		5b	溝373	A12-d7	土師器高坏	2.8	(2.5)	10YR6/2灰黄褐	密(0.5~3mm程度の白・褐・灰色砂粒、雲母含む)	良好		布留式後半
	411		5b	土坑396	A12-c7	土師器直口壺	(15.8)	(4.5)	2.5Y7/2灰黄	密	良好		布留式前半
	412		5b	土坑513	A12-c9	須恵器坏身	(9.8)	(3.3)	N6.5/灰	やや密	良好	MT15頃	6世紀前半
	413		5b	土坑456	A12-c7	土師器甕	(13.4)	(5.1)	10YR7/3にぶい黄橙	密	やや良好	布留系	布留式前半
414		5b	土坑437	A12-d7・8	土師器高坏	(12.8)	(3.1)	7.5YR6/4にぶい橙	密	やや良好		布留式前半新相~後半古相頃	
図58	415	22	5b	土坑412	A12-d7	土師器甕	14.1	22.6	10YR5/4にぶい黄橙	密(1~5mm程度の白色の粗~極粗砂含む)	良好	布留系	布留式前半新相
	416	22	5b	土坑412	A12-d7	土師器甕	13.45	21.9	10YR1.7/黒	密(0.5mm程度の白色砂粒、雲母含む)	良好	布留系	
	417	24	5b	土坑406	A12-c8	土師器甕	13.4	(19.7)	10YR5/2灰黄褐	密(3mm以下の白色粒、3.5mm以下の褐色粒やや多く含む)	良好	布留系	布留式前半
	418	24	5b	土坑406	A12-c8	土師器甕	(13.3)	(13.4)	10YR6/2灰黄褐	やや密(2mm以下の砂粒含む)	良好	布留系	布留式前半
	419		5b	土坑406	A12-c8	土師器甕	(15.0)	(8.7)	2.5Y6/2灰黄	密	良好		布留式前半新相
	420	23	5b	ピット400	A12-c7	土師器高坏	—	(7.5)	5YR7/6橙	やや密(4mm以下の砂粒含む)	良好	内面煤化	布留式前半
図64	421		5b	土坑497	A12-c8	弥生土器甕	(16.0)	(5.5)	10YR5/4にぶい黄橙	やや粗	やや軟	伝統的V様式	弥生後期~庄内式
	422		5b	土坑497	A12-c8	弥生土器甕	5.4	(4.0)	10YR5/4にぶい黄橙	やや密	やや軟	伝統的V様式	弥生後期~庄内式

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長・ 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図 68	424	22	5b	土坑415 (南半)	A12-d7	土師器有段屈曲 鉢	(16.0)	(7.5)	10YR7/3~6/3 にぶい黄橙	密	良好	布留式前半 古相	
	425		5b	土坑415	A12-d7	土師器小型器台	(10.0)	(2.9)	10YR7/2にぶい 黄橙	密	良好	布留式前半 古相	
	426		5b	土坑415	A12-d7	土師器小型器台	(11.0)	(1.9)	7.5YR6/4にぶい橙	密・精良	良好	布留式前半 古相	
	427		5b	土坑415	A12-d7	土師器甕	(14.2)	(3.1)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	布留式前半 古相	
	428		5b	土坑415 (北半)	A12-d7	土師器小型丸底 壺	—	(4.5)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	布留式前半 古相	
	429		5b	ピット433	A12-c7	須恵器坏蓋	(13.0)	(4.7)	N6.5/灰	やや粗	良好	MT85~TK43頃	6世紀後半
	430		5b	ピット433	A12-c7	須恵器坏蓋	(13.0)	(3.0)	2.5Y5.5/2暗灰黄	密	やや軟	MT85~TK43頃	6世紀後半
図 71	431	22	5b	土坑466	A12-e8	土師器甕	21.75	23.1	2.5Y4/1黄灰	密(2mm以下の灰色 粒、2.5mm以下の 白色粒やや多く含む)	良好	布留系	布留式後半?
	432	24		5b層~ 6層	A13-d2- e1-e2	弥生土器大口壺	(17.6)	(31.0)	2.5Y7/2~6/2灰黄	密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期
	433	24		5b層洪 水砂	A12-c- d6~8	弥生土器大口壺	(18.3)	(16.1)	2.5Y6/1~5/1黄灰	密	良好	Ⅲ-2様式	弥生中期
	434	24		5b~6層 内、6層以 下(北側 側溝)	A13-f4, e4/A13- d3,e3-4	弥生土器長頸大口 壺	—	(10.75)	10YR6/3にぶい 黄橙	密(5mm以下の白色 粒多く含む)	良好	Ⅲ-1様式?	弥生中期
	435	24		5b層(南 側側溝)	A12-d9	弥生土器甕	16.4	(23.7)	5YR7/2明褐	密(1~2mmの石英を 含む)	良好	Ⅱ-2様式?	弥生中期
	436			5b層	A12-c10/ A12-c- d9-10	弥生土器甕	(18.2)	(7.2)	2.5Y4/1黄灰	密	良好	摂津Ⅱ-2様式?	弥生中期
	437			5b層	A13-e2	弥生土器壺	(9.8)	(9.3)	10YR6/2灰黄褐	密(1~5mm程度の長 石、石英などを含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	438			5b層以 下(側溝)	A13-e1	弥生土器壺	—	—	2.5Y4/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式 赤彩あり	弥生中期
	439			5b層(微 高地上)	A12-d8	土師器甕	(13.8)	(2.4)	2.5Y3/2黒褐	密	良好	生駒西麓産	庄内式
	440			5b層(微 高地上)	A12-d8	土師器小型器台	—	(5.1)	2.5Y6/3にぶい黄	密	良好		庄内式後半
	441			5b層(微 高地上)	A12-d8	弥生土器甕	4.0	(3.0)	10YR6/3にぶい 黄橙	密	良好	V様式	弥生後期
	442			5b層 (側溝)	A13-d-e3	弥生土器壺	6.6	(5.1)	2.5Y7/2灰黄	密(1~3mmほどの白 小石、1mmほどの石英 を含む)	良好		
	443			5b層 (側溝)	A13-d-e3	弥生土器壺	8.6	(5.4)	5YR4/2灰褐	密(1~5mmほどの長 石、1~2mmほどの石 英、1mmほどの角閃石 含む)	良好		
	444			5b層	A13-d1	弥生土器壺	6.2	(5.6)	7.5YR5/3にぶい褐	密(1~5mmほどの長 石、1~5mmほどの石 英含む)	良好		
	445			5b層	A12-c- d9-10	弥生土器甕	6.8	(4.5)	2.5Y8/1灰白	密(3mm以下の長石、 石英、雲母などの石 を含む)	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期
	446			5b層	A13-d2	弥生土器甕	6.8	(3.9)	2.5Y7/2灰黄	密(3mm以下の長石、 石英、雲母などの石 を含む)	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期
	447			5b層	A13-d1	弥生土器甕	6.2	(2.4)	2.5Y2/1黒	密(1~5mmほどの 長石、1mmほどの角 閃石含む)	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期
図 75	452	25	6~7b	溝537- 563- 629	A13-e3-4	弥生土器大型鉢	34.6	(27.3)	7.5YR8/3浅黄橙 ~7.5YR1.7/1黒	密(1~1.5mmの乳白 色の細砂含む)	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期
	453		6	溝537	A13-e3-4	弥生土器甕	(30.0)	(5.0)	5Y6/1灰	密	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	454		6	溝537	A13-e3-4	弥生土器甕	(26.8)	(10.5)	10YR6/3にぶい黄橙	密	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	455		6	溝537	A13-e3-4	弥生土器大口壺	(21.0)	(10.3)	5Y7/2灰白	密	良好	Ⅱ様式後半?	弥生中期
	456	26	6	溝537	A13-e3-4	弥生土器大口壺	(17.0)	(11.0)	10YR6/2灰黄褐	密	良好	Ⅲ様式前半?	弥生中期
	457	26	6-7	溝537- 溝563	A13-e3-4	弥生土器甕	(18.0)	(14.4)	2.5Y6/2灰黄~5/2 暗灰黄	やや密	良好	Ⅱ様式前半? 河内形	弥生中期
	458		6	溝537	A13-f3	弥生土器壺	7.2	(5.6)	10YR7/2にぶい 黄橙	密(3mm以下の長石、 石英、雲母などの石 を含む)	良好		
459		6	溝537	A13-e3-4	弥生土器壺?	(8.2)	(4.2)	10YR8/3浅黄橙	密(2.5mm以下の長 石、石英、雲母など の石を含む)	良好			弥生中期
図 76	461	25	6	溝539- 540	A13-f4	弥生土器大型甕	37.5	(52.0)	7.5YR6/4にぶい橙 ~7.5YR5/4にぶい 褐	密(0.5mm程度の白・ 黒色砂粒、くざり礫、 雲母、1~3mm程度 の白・乳白色の極 粗砂含む)	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	462		6	溝539- 540	A13-f-g4	弥生土器甕	(35.6)	(5.3)	2.5Y6/1黄灰~6/2 灰黄	密	良好	Ⅲ様式前半	弥生中期
	463		6	溝540	A13-f4	弥生土器細頸壺	(11.8)	(9.8)	2.5Y5/2暗灰黄	やや密	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径、長・幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図76	464		6	溝536	A13-e2	弥生土器甕	5.4	(4.5)	7.5YR6/2灰褐	密(3mm以下の長石、雲母などの石を含む)	良好	Ⅱ様式前半河内形?	弥生中期
	465		6	溝540	A13-f4	弥生土器甕	6.8	(3.1)	5YR4/2灰褐	密(1~2mmほどの石英、1~4mmほどの白小石を含む)	良好		弥生中期
	466		6	溝536	A13-e2	土器転用土製円板	3.5・3.3	0.7	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期
図80	467		6~7	高まり523・547・553	A13-e2	弥生土器甕	(17.0)	(13.4)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式末~Ⅲ様式初頭?	弥生中期
	468		6~7	高まり523・547・553	A13-d・e3	弥生土器壺	6.2	(10.5)	10YR7/2にぶい黄橙	密(1~4mmの長石、石英などの石を含む)	良好	Ⅱ様式?	弥生中期
	469		6~7	高まり523・547・553	A13-e2	弥生土器甕	(6.8)	(3.8)	10YR5/3にぶい黄褐	やや密	良好	穿孔あり	弥生中期
図81	473		6層	A12-c7	弥生土器大型鉢	(38.8)	(7.1)	7.5YR7/6~6/6橙	密	良好	Ⅲ-1様式?	弥生中期	
	474	26	6層	A12-c7	弥生土器壺	(14.0)	(9.5)	2.5Y7/1灰白	密	良好	Ⅱ様式 淀川水系からの搬入品	弥生中期	
	475		6層	A13-e2	弥生土器壺	(16.4)	(5.0)	10YR6/3にぶい黄橙~5/3にぶい黄褐	やや密	良好		弥生中期	
	476		6層	A13-f・g3	弥生土器高坏	2.0	(6.2)	10YR6/2灰黄褐	密(1~2mmほどの長石、石英含む)	普通	Ⅱ~Ⅲ-1様式	弥生中期	
	477		6層	A13-f・g4	弥生土器壺	9.4	(3.85)	5YR8/2灰白	やや粗(1~2mmほどの長石、1~4mmほどの長石含む)	普通		弥生中期	
	478		6層	A13-f・g3	弥生土器壺	7.6	(3.8)	2.5Y4/1黄灰	密(1~2mmほどの長石、石英を含む)	良好		弥生中期	
	479		6層	A13-e4	弥生土器甕	5.2	(3.4)	2.5Y6/1黄灰	密(1mmほどの長石、1~2mmほどの石英含む)	良好		弥生中期	
	480		6層	A13-d・e1・2	弥生土器甕	4.8	(3.5)	5YR5/2灰褐	やや粗(1~3mmの長石、石英などを含む)	良好		弥生中期	
図83	484		6b	高まり546	A12-d8	弥生土器甕	(16.4)	(9.6)	10YR3/1黒褐	密(0.5~2mm程度の白・褐・灰色砂粒、くさり礫、雲母含む)	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	485		6b	高まり546	A12-d8	弥生土器甕	15.9	(9.3)	10YR4/2灰黄褐	密(0.5~3mm程度の白・褐・暗灰色砂粒、雲母含む)	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	486		6b	高まり546	A12-e9	弥生土器壺	5.45	(9.0)	2.5Y6/2灰黄	密(3mm以下の褐色粒、5mm以下の白色粒多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	487		6b	高まり546	A12-d8	弥生土器甕	6.7	(4.9)	10YR3/2黒褐	密(0.5~2mm程度の白・灰・黒色砂粒、雲母、くさり礫含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	488		6b	高まり546	A12-c・d8	弥生土器甕	4.65	(4.85)	N2/黒	密(2mm以下の白色粒多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	489		6b	溝549	A12-c・d9	弥生土器甕	6.4	(4.6)	10YR3/1黒褐	密(1mmほどの長石、角閃石含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	490		6b	高まり546	A12-d8	土器転用土製円板	3.0・2.8	0.6	5YR2/1黒褐・10YR4/2灰黄褐	やや粗	良好		弥生中期
図84	491		6b	高まり547	A13-e2	弥生土器細頸壺	11.9	—	2.5Y5/2暗灰黄	密(4.5mm以下の白色粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	492		6b	高まり547	A13-e2	弥生土器細頸壺	—	(6.15)	5Y5/1灰	密(2mm以下の白色粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	493		6b・7	高まり547・553	A13	弥生土器壺	9.85	(9.8)	10YR4/1褐灰	密(4mm以下の白色粒、6.5mm以下の茶色粒、1.3cm大の小石一つを含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	494		6b	高まり547	A13-e2	弥生土器壺	(5.85)	(7.05)	10YR5/2灰黄褐	密(3mm以下の白色粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	495		6b	高まり547	A13-f3	弥生土器壺	(8.0)	(3.6)	7.5Y7/1灰白~6/1灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	496		6b・7	高まり547・553	A13	弥生土器甕	5.4	(6.4)	2.5Y6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	497		6b	高まり547	A13-f3	弥生土器甕	6.6	(3.3)	2.5Y6/2灰黄	やや密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	498		6b・7	高まり547・553	A13	弥生土器甕	5.65	(11.45)	10YR3/1黒褐	密(白色粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	499		6b	高まり547	A13-e2	弥生土器甕	5.6	(4.75)	2.5Y6/1黄灰	密(5mm以下の黒色粒、3mm以下の白色粒をやや多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	500		6b	高まり547	A13-f3	弥生土器甕	7.2	(2.5)	10YR4/2灰黄褐	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
図85	505	26	6b層(植物遺体層)	A13-c2	弥生土器短頸広口壺	(16.8)	35.1	2.5Y5/1黄灰~5/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期	
	506		6b層(植物遺体層)	A13-c・d1・2	弥生土器壺	8.3	(9.5)	2.5Y7/2灰黄	やや密	良好		弥生中期	
	507		6b層(植物遺体層)	A13-c・d1・2	弥生土器高坏	(26.8)	(8.7)	2.5Y5/2暗灰黄	やや密	良好	Ⅱ様式末~Ⅲ様式初頭	弥生中期	
	508		6b層(植物遺体層)	A13-c1・2	弥生土器甕	(25.0)	(7.3)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式初頭	弥生中期	

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長・ 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図 85	509		6b層(洪水砂中)	A13-e2	弥生土器細頸壺	(15.0)	(6.7)	2.5Y6/2~7/2灰黄	やや密	良好	Ⅱ 様式前半	弥生中期	
	510	6b 精査	6b層	A13-d1	弥生土器無頸壺	(12.0)	(4.8)	2.5Y6/1~5/1黄灰	密	良好	Ⅱ 様式後半?	弥生中期	
	511		6b層	A13-e4	土器転用土製円板	5.15・ 4.85	0.75	2.5Y5/1黄灰	密	良好	河内形甕の転用	弥生中期	
	512		6b層	A13-f4	弥生土器壺蓋	9.6	1.4	5YR6/4にぶい橙	密(1~2mmほどの長石、石英などの石を含む)	良好	1対2個の紐孔	弥生中期	
	513		6b層(洪水砂中)	A13-e2	弥生土器壺蓋	4.1	(4.9)	2.5Y6/2灰黄~5/2 暗灰黄	密	良好		弥生中期	
	514		6b層	A13-f3	弥生土器壺	—	—	5Y5/1灰	密	やや 良好	Ⅲ 様式前半?	弥生中期	
	515		6b層	A13-c・ d1・2	弥生土器壺	7.2	(4.75)	10YR5/2灰黄褐	密(7~2mmほどの長石、1~2mmほどの石英を含む)	良好		弥生中期	
	516		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	7.0	(4.1)	10YR7/2にぶい 黄橙	やや粗(1~3mmほどの長石、1~5mmほどの石英多く含む)	良好		弥生中期	
	517		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	6.8	(3.4)	10YR3/2黒褐	密(1~2mmほどの長石、7mmほどの石英を含む)	良好		弥生中期	
	518		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	6.4	(3.0)	7.5YR4/3黒褐	密(1~3mmほどの長石、1~2mmほどの石英を含む)	良好		弥生中期	
	519		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	7.6	(2.5)	7.5Y6/1灰	やや粗(1~4mmほどの長石、5~8mmほどの小礫、1~4mmほどの石英を含む)	良好		弥生中期	
	520		6b層 (7面検 出中)	A13-f4	弥生土器壺	4.6	(4.3)	5YR5/6明赤褐	白色中細砂含む	良好	河内形	弥生中期	
	521		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	5.8	(3.6)	10YR5/2灰黄褐	密(1~3mmほどの長石、石英を含む)	良好	河内形	弥生中期	
	522		6b層 (7面検 出中)	A13-f4	弥生土器壺	6.6	(2.6)	5Y4/1灰	密	良好		弥生中期	
523		6b層 (植物遺 体層)	A13-c1・2	弥生土器壺	6.0	(9.2)	7.5YR5/3にぶい褐	密(1~2mmほどの長石、4~5mmほどの小礫を含む)	良好	河内形	弥生中期		
図 89	542	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺	27.0	(12.1)	7.5YR4/1褐灰	密(0.3~1mmの白・褐色砂粒、雲母含む)	良好	Ⅱ-3様式? 河内形	弥生中期	
	543	26	7	溝563	A13-e4	弥生土器壺	7.2	(30.9)	7.5YR8/4浅黄橙	密(0.3~1mmの黒・褐・灰色砂粒、3mm程度の黒・褐色の小石、雲母、くさり礫を含む)	良好		弥生中期
	544	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	9.25	(14.15)	10YR7/2にぶい 黄橙	密(3mm以下の灰色粒、5mm以下の白色粒、6mm以下の褐色粒を多く含む)	軟		弥生中期	
	545	27	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺	(15.6)	(18.6)	10YR4/1褐灰~ 3/1黒褐	密	良好	Ⅱ-3様式 河内形	弥生中期
	546	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺	19.2	(6.2)	10YR3/1黒褐	密(0.5~2mmの白・灰・褐色雲母含む)	良好	Ⅱ 様式	弥生中期	
	547	28	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	(19.0)	(18.9)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ-1様式	弥生中期
	548	7	溝563	A13-f3	弥生土器広口壺	28.0	(8.8)	7.5YR7/3にぶい橙	密(細~粗砂、極粗砂を多少含む)	良好	Ⅱ-3様式?	弥生中期	
	549	27	7	溝563	A13-f3	弥生土器広口壺	(24.2)	(12.2)	10YR6/4にぶい 黄橙	密	良好	Ⅱ 様式後半	弥生中期
	550	28	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器鉢	(24.8)	(7.7)	2.5Y6/1黄灰~6/2 灰黄	密	良好	Ⅱ 様式末?	弥生中期
	551	28	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺蓋	6.05	(10.5)	10YR5/2灰黄褐	密	良好		弥生中期
	552	27	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺	15.95	(16.8)	10YR3/1黒褐	密(2mm以下の灰色粒、3mm以下の茶色粒やや多く含む)	良好	Ⅱ 様式前半 河内形	弥生中期
553	27	7	溝563	A13-e4	弥生土器壺	(15.8)	(20.5)	2.5Y4/1黄灰~5/2 暗灰黄	密	良好	Ⅱ-3様式 摂津型?	弥生中期	
図 90	554	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器鉢	26.0	(5.2)	10YR5/3にぶい 黄褐	密(0.5~1mmの白・灰・褐色砂粒、雲母含む)	良好	Ⅲ 様式初頭?	弥生中期	
	555	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	6.75	(6.95)	2.5Y6/1黄灰	密(2mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		弥生中期	
	556	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	0.75	(3.7)	2.5Y3/1黒褐	密(細~粗砂、多少極粗砂を含む)	良好		弥生中期	
	557	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	4.25	(4.4)	7.5YR6/1褐灰~ 6/3にぶい褐	密(極細~中砂、多少粗砂を含む)	良好		弥生中期	
	558	7	溝563	A13-f3	弥生土器壺	6.25	(4.2)	7.5YR8/3浅黄橙・ 5Y6/1灰	密(細~粗砂)	やや軟		弥生中期	
	559	7	溝563	A13-e3・4	弥生土器壺	5.5	(4.2)	2.5Y3/1黒褐	密(0.3~1mm程度の白・褐・灰色砂粒含む)	良好		弥生中期	

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長・ 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図91	566	27	7	溝559	A12-c-d9	弥生土器大型鉢	(37.2)	27.3	7.5YR5/6明褐・10YR6/4にぶい黄橙	密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期
	567		7	溝559	A12-c-d9	弥生土器甕	(32.0)	(19.8)	10YR5/3にぶい黄褐	密(3mm以下の白色粒を含む)	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期
	568	26	7	溝559・558	A12-d9-10	弥生土器細頸壺	(16.2)	(12.1)	2.5Y6/1黄灰～6/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	569		7	溝559	A12-d9	弥生土器壺	7.9	(6.0)	2.5Y6/2灰黄	密(細～粗砂、4mm程度の石含む)	良好		弥生中期
	570		7	溝559	A12-c-d9	弥生土器甕	10.0	(6.9)	7.5YR7/2明褐灰	密(主に細砂、まばらに粗粒砂を含む)	良好		弥生中期
	571		7	溝559	A12-d10	弥生土器甕	5.8	(6.95)	10YR2/1黒	密(2mm以下の白色粒・褐色粒、6mmの石一つを含む)	良好		弥生中期
	572		7	溝559	A12-c-d9	弥生土器甕	6.15	(6.35)	2.5Y3/1黒褐	密(1mm以下の茶色粒・黒色粒含む。5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好		弥生中期
	575		7	落ち込み561	A12-c-d10	弥生土器鉢	34.4	12.6	10YR7/2にぶい黄橙	密(細～粗砂)	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期
	576		7	落ち込み561	A12-c-d10	弥生土器広口壺	22.4	(8.45)	10YR5/1褐灰	密(2.5mm以下の黒色粒含む。3.5mm以下の白色粒やや多く含む)	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
図92	577		7層	A13-c1-2	弥生土器大型鉢	(40.2)	(10.9)	7.5YR5/4にぶい褐	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	578		7層	A13-c-d1-2	弥生土器甕	(21.0)	(23.0)	2.5Y5/1黄灰～5/2暗黄灰	密	良好	Ⅱ様式後半 河内形	弥生中期	
	579		7層	A13-e-f1	弥生土器甕	(19.4)	(12.8)	2.5Y5/2～4/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期	
	580		7層	A13-c1-2	弥生土器甕	(16.0)	(13.4)	2.5Y5/1黄灰～6/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	581	29	7層	A13-d1	弥生土器広口壺	(21.6)	(13.2)	2.5Y4/1黄灰	密(7mm以下の白色礫多く含む)	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期	
	582		7層	A13-e-f1	弥生土器広口壺	(22.8)	(9.2)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期	
	583		7層	A13-e-f1	弥生土器広口壺	(19.0)	(9.2)	5Y6/2灰オリーブ	密	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期	
	584		7層	A13-e-f1	弥生土器壺	(13.4)	(13.5)	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好		弥生中期	
	585		7層	A13-c1-2	弥生土器甕	6.1	(15.2)	2.5Y3/1黒褐	密	良好		弥生中期	
	586		7層	A13-c1-2	弥生土器甕	6.6	(9.1)	2.5Y4/2暗灰黄	やや密	やや良好	焼成後穿孔あり	弥生中期	
	587		7層	A13-c-d1-2	弥生土器甕	8.2	(6.1)	10YR4/2灰黄褐	密	良好		弥生中期	
	588		7層	A13-d1-2	弥生土器甕	(6.0)	(4.9)	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期	
589		7層	A13-e-f1	弥生土器甕	5.4	(4.6)	2.5Y7/2灰黄	密	良好		弥生中期		
590		7層	A13-e-f1	弥生土器甕	6.0	(4.7)	2.5Y6/1黄灰	やや密	良好		弥生中期		
591		7層	A13-e-f1	弥生土器無頸壺	—	—	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式 焼成後穿孔あり	弥生中期		
図95	595		7	高まり553	A13-d3	弥生土器甕	(21.6)	(10.0)	7.5YR5/4にぶい褐	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	596		7	高まり553	A13-e2	弥生土器甕	(21.6)	(8.2)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ-2～3様式	弥生中期
	597		7	高まり553	A13-e3	弥生土器甕	(18.0)	(14.5)	10YR4/1褐灰	密	良好	Ⅱ-2様式 摂津型?	弥生中期
	598		7	高まり553	A13-e2	弥生土器壺	(21.6)	(2.3)	5Y6/2灰オリーブ	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	599		7	高まり553	A13-e2	弥生土器甕蓋	(21.0)	(2.4)	2.5Y5/2暗灰黄～6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	600		7	高まり553	A13-e2	弥生土器壺	(16.6)	(10.5)	10YR5/2灰黄褐	密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期
	601		7	高まり553	A13-e2	弥生土器壺	—	(14.7)	5Y6/2灰オリーブ	密	良好	Ⅱ様式 赤彩あり	弥生中期
	602		7	高まり553	A13-f2	弥生土器壺	—	—	5Y6/2灰オリーブ	やや密	やや良好	Ⅱ様式	弥生中期
	603		7	高まり553	A13-f2	弥生土器壺	—	12.0	10YR6/3～6/4にぶい黄橙	密	良好		弥生中期
	604		7	高まり553	A13-e3	弥生土器壺	8.4	(5.4)	7.5YR5/6明褐～7/4にぶい橙	やや密	やや良好		弥生中期
	605		7	高まり553	A13-e2	弥生土器甕	6.2	(6.4)	2.5Y6/1黄灰～6/2灰黄	密	良好		弥生中期
	606		7	高まり553	A13-e3	弥生土器甕	5.4	(7.8)	5Y6/1～5/1灰	やや密	良好		弥生中期
	607		7	高まり553	A13-e3	弥生土器甕	6.4	(8.0)	5Y5/1～6/1灰	密	良好		弥生中期
608		7	高まり553	A13-e2	弥生土器甕	—	(5.3)	5Y6/1灰	やや密	やや良好		弥生中期	
609		7	高まり553	A13-e2	弥生土器甕	5.0	(1.7)	5Y5/1灰	やや密	良好	穿孔あり	弥生中期	
図97	619		7層	A13-e4	弥生土器甕	(20.8)	(10.1)	5Y6/1灰	密	良好	Ⅱ様式前半?	弥生中期	
	620	29	7層	A13-f4	弥生土器甕	(17.0)	(10.4)	7.5YR5/4にぶい褐	密(1mm以下の灰色粒、3mm以下の白色粒を含む)	良好	Ⅱ様式中頃 河内形	弥生中期	
	621		7層	A13-f3-4	弥生土器甕	(16.6)	(14.2)	2.5Y5/1黄灰～5/2暗黄灰	密	良好	Ⅱ様式中頃 河内形	弥生中期	
	622	28	7層	A13-e4	弥生土器甕	14.8	(15.8)	2.5Y2/1黒	密	良好	Ⅱ様式中頃 炭化物付着	弥生中期	
	623		7層	A13-f2	弥生土器甕	(18.0)	(5.5)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式末頃 大和型?	弥生中期	
624		7層	A13-e4	弥生土器甕	(15.8)	(8.7)	2.5Y5/2～4/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期		

図番号	写真図版番号	面	遺構層位	地区	器種	径、長・幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図 97	625		7層	A13-e4	弥生土器甕	(15.6)	(6.3)	2.5Y4/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	626		7層	A13-f2	弥生土器甕	(16.0)	(5.4)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅲ様式初頭?	弥生中期	
	627		7層	A13-e4	弥生土器甕	(15.0)	(6.2)	10YR4/3~5/3 にぶい黄褐	密	良好	Ⅱ様式前半 摂津型	弥生中期	
	628		7層	A13-e4	弥生土器甕蓋	(16.8)	(3.7)	2.5Y4/1黄灰	密	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期	
	629		7層	A13-f4	弥生土器広口壺	(20.2)	(8.3)	7.5YR6/3にぶい 褐・2.5Y6/1黄灰	やや密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期	
	630	28	7層	A13-e4	弥生土器無頸壺	9.0	(9.4)	10YR4/1褐灰	密(2mm以下の白色 粒やや多く含む)	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期	
	631	28	7層	A13-e4	弥生土器細頸壺	8.4	(10.0)	5Y3/2オリーブ黒	密(細~粗砂)	良好	Ⅱ-3様式	弥生中期	
	632		7層	A13-g4	弥生土器壺	(12.2)	(6.3)	5Y6/1灰~6/2 灰オリーブ	密	良好	Ⅱ-1様式	弥生中期	
	633		7層	A13-e4	弥生土器甕	5.8	(4.6)	2.5Y6/1~5/1黄灰	やや密	良好	Ⅱ様式 紀伊型?	弥生中期	
	634		7層	A13-f3-4	弥生土器壺	10.6	(4.8)	10YR6/2~5/2 灰黄褐	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	635		7層	A13-e4	弥生土器甕	5.6	(5.0)	2.5Y4/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	636		7層	A13-e4	弥生土器甕	5.2	(3.2)	2.5Y7/2~6/2灰黄 ・2.5Y2/1黒	やや密	良好	Ⅱ様式 紀伊型?	弥生中期	
	637		7層	A13-e4	弥生土器甕	5.8	2.9	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期	
638		7層	A13-f2	弥生土器甕	6.0	(7.8)	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好	河内形	弥生中期		
639		7層	A13-f-g3	弥生土器甕	5.0	(5.9)	10YR5/4にぶい黄橙	やや密	良好	河内形	弥生中期		
図 104	661	29	7b	土坑630	A12-d8	弥生土器長頸広口 壺	6.6	(28.6)	10YR4/2灰黄褐~ 10YR1.7/1黒	密(1~2mm程度の白色 砂粒,8mm程度の 白色の小石を含む)	やや軟	Ⅱ-1様式 赤彩あり	弥生中期
	662	29	7b	土坑630	A12-d8	弥生土器長頸広口 壺	17.0	29.7	10YR5/2灰黄褐	密(2~0.5mm程度の 白・橙・灰色砂粒,5 ~7mm程度の浅黄橙 の小石を含む)	良好	Ⅱ-1様式 赤彩あり	弥生中期
図 105	663		7b	溝629	A13-e3・4	弥生土器甕	(31.3)	(5.1)	2.5Y6/1黄灰	密(3mm以下の白色 粒含む)	良好	Ⅲ様式	弥生中期
	664		7b	溝629	A13-e4	弥生土器甕	(30.4)	(5.1)	2.5Y6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	665		7b	溝629	A13-e3・4	弥生土器 瘤状突起付鉢	(28.6)	(5.8)	5Y6/1灰	密(3mm以下の白色粒・ 灰色粒やや多く含む)	良好	Ⅰ様式新段階~Ⅱ様式	弥生前期末 ~中期
	666		7b	溝629	A13-e3・4	弥生土器広口壺	(12.8)	(7.0)	10YR5/2灰黄褐	密(3.5mm以下の 白色粒,4mm以下の灰 色粒をやや多く含む)	良好	Ⅱ様式初頭	弥生中期
	667	29	7b	溝629	A13-e3・4	弥生土器壺	5.8	(16.25)	10YR4/1褐灰	やや密(~4mm程度 の砂粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	668		7b	溝629	A13-e4	弥生土器甕	4.3	(6.05)	10YR4/2灰黄褐	密(3mm以下の 白色粒多く含む)	良好		弥生中期
	669		7b	溝629	A13-e4	弥生土器甕	(5.0)	(2.4)	10YR6/2灰黄褐	密	良好		弥生中期
図 108	670	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(23.8)	(6.5)	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	671	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(22.2)	(9.5)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式 紀伊型?	弥生中期
	672	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(20.4)	(12.0)	2.5Y4/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式?	弥生中期
	673	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(15.8)	(9.5)	2.5Y3/1黒褐	密	良好	Ⅱ様式?	弥生中期
	674	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(21.0)	(8.8)	2.5Y4/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	675	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(21.8)	(5.4)	2.5Y6/2灰黄~5/2 暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式初頭	弥生中期
	676	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(19.2)	(5.5)	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式前半摂津型?	弥生中期
	677	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(16.4)	(10.0)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式前半摂津型?	弥生中期
	678	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	18.2	(23.4)	7.5YR3/2黒褐	密(4mm以下の 砂粒含む)	やや 良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	679	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	17.4	(14.3)	10YR2/1黒~2/2 黒褐	密(1mm程度の石英 が見られる)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	680	31	7b	土坑633 ・657	A13-e2・3	弥生土器甕	(6.7)	(16.3)	2.5Y6/2灰黄~5/2 暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	681	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	5.4	(8.6)	2.5Y6/4にぶい黄	粗(2~3mm大の礫 少量含む)	良好		弥生中期
	682	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	15.6	(18.6)	7.5YR2/1黒~2/2 黒褐	密(1mmの礫を含む)	良好	Ⅲ様式?	弥生中期
	683	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	6.2	(8.5)	10YR3/1黒褐	粗	良好	河内形	弥生中期
	684	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	(6.0)	(11.5)	5Y4/1灰	密	良好	河内形	弥生中期
	685	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	5.8	9.9	2.5Y2/1黒	密	良好	河内形 穿孔あり	弥生中期
	686	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	4.6	(8.6)	2.5Y3/1黒褐	粗(1~2mm大の礫多 く含む)	良好	河内形	弥生中期
	687	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器甕	5.6	(4.6)	2.5Y3/1黒褐	やや密	やや 良好		弥生中期
688	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器鉢	5.5	(3.7)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	底部木葉痕	弥生中期	
図 109	689	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器鉢	(26.2)	(7.8)	10YR5/2灰黄褐	やや密	やや軟	Ⅱ様式	弥生中期
	690	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器壺	(20.7)	(20.65)	10YR4/2灰黄褐	密(4.5mm以下の 白色粒やや多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	691	31	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器広口壺	—	(12.2)	2.5Y6/1黄灰~6/2 灰黄	密	良好		弥生中期
	692	30	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器広口壺	14.05	25.0	2.5Y3/1黒褐	密(0.5~1mmの白・ 褐色砂粒含む)	良好	Ⅱ様式 赤彩あり	弥生中期
	693	32	7b	土坑633	A13-e2	弥生土器壺	10.0	(9.4)	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期
図 112	703		7b	土坑657	A13-e3	弥生土器広口壺	19.3	(9.9)	5YR7/2明褐灰	密(細~中砂、 粗砂多少含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	704		7b	土坑657	A13-e3	弥生土器壺	—	—	5Y6/1灰~6/2 灰オリーブ	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	705		7b	土坑699	A13-f4	弥生土器広口壺	12.0	(5.0)	10YR5/2灰黄褐	密(0.3~2mm程度の 白・褐色砂粒、委母 を含む)	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
図 113	706		7b	土坑758	A13-f4	弥生土器甕	(23.6)	(11.5)	2.5Y5/1~4/1灰	密	良好	河内形甕	弥生中期
	707		7b	土坑758	A13-f4	弥生土器広口壺	(22.0)	(3.7)	10YR5/3にぶい黄褐	密	良好	Ⅲ様式	弥生中期

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径・長・ 幅 (cm)	器高・厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期	
図113	708		7b	土坑758	A13-f4	弥生土器甕	(9.2)	(6.5)	2.5Y6/2灰黄～5/1 黄灰・10YR5/3 にぶい・黄褐	密	良好	弥生中期	
	709		7b	土坑658	A13-e3	弥生土器甕	(6.3)	(7.05)	5YR7/3にぶい・橙	密(1.5mm以下の白色 粒を含む)	良好	Ⅱ様式後半 穿孔あり	弥生中期
	710		7b	土坑658	A13-e3	弥生土器鉢	—	(5.95)	5YR5/3にぶい 赤褐	粗(6.5mm以下の白色 粒多く含む)	良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
	711		7b	溝617 ・619	A13-f4	弥生土器壺	—	(10.1)	2.5Y5/3黄褐	粗(6mm以下の白色 粒多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	712		7b	溝617 ・619	A13-f4	弥生土器甕	6.85	(4.1)	7.5YR7/2明褐灰	密(3mm以下の白色 粒多く含む。1mm以下 の黒色粒含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	713		7b	溝617 ・619	A13-f4	弥生土器甕	5.25	(5.35)	10YR3/1黒褐	密(3mm以下の白色 粒やや多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	714		7b	溝617 ・619	A13-f4	土器転用土製円板	3.7・3.5	0.35	2.5Y5/1黄灰	密(1.5mm以下の白 色粒多く含む)	良好	Ⅱ様式	弥生中期
図118	715		7b	溝600	A13-e3	弥生土器甕	27.4	(7.8)	10YR6/2灰黄褐～ 6/3にぶい・黄橙	密	良好	Ⅱ様式前半 河内形	弥生中期
	716		7b	土坑646	A13-d3	弥生土器甕	(24.2)	(7.7)	2.5Y4/1黄灰～3/1 黒褐	密	良好	Ⅱ様式前半 河内形	弥生中期
	717		7b	溝592	A13-c・ d1・2	弥生土器鉢	(25.2)	(3.8)	10YR6/3～6/4 にぶい・黄橙	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	718		7b	ピット735	A13-f4	弥生土器広口壺	(24.4)	(5.9)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	719		7b	ピット570	A13-f4	弥生土器甕	(19.8)	(4.6)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期
	720		7b	土坑676	A13-e3	弥生土器甕	(20.0)	(3.5)	2.5Y6/1～5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式前半 近江系?	弥生中期
	721		7b	ピット756	A13-f4	弥生土器広口壺	(13.6)	(7.4)	2.5Y6/3にぶい・黄	密	やや 良好	Ⅱ様式	弥生中期
	722		7b	土坑788	A13-f4	弥生土器壺	—	(6.2)	10YR6/2灰黄褐	やや密	やや 良好	Ⅱ様式	弥生中期
	723	29	7b	ピット 569・570 ・572・ 土坑758 ・571	A13-f4	弥生土器甕	19.3	(26.9)	10YR5/1褐灰	やや密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	724		7b	土坑571	A13-f4	弥生土器壺	19.6	(12.6)	5Y2/1黒～3/1 オリブ黒	密(石英が入る)	良好	Ⅲ様式	弥生中期
	725		7b	土坑693	A13-f4	弥生土器甕	6.2	(5.3)	2.5Y6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	726		7b	土坑648	A13-d3	弥生土器甕	(7.0)	(4.9)	2.5Y7/1灰白～ 2.5Y3/2黒褐・ 2.5Y2/1黒	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	727		7b	ピット894	A13-f4	弥生土器甕	(6.7)	(4.9)	2.5Y4/2暗灰黄～ 5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	728		7b	ピット703	A13-f4	弥生土器甕	7.1	(4.1)	5Y5/1～4/1灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	729		7b	ピット779	A13-f4	弥生土器甕	(5.6)	(2.3)	2.5Y7/1灰白	やや密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	730		7b	ピット787	A13-f4	弥生土器壺	—	—	2.5Y6.5/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式	弥生前期
	731		7b	ピット680	A13-e2	弥生土器壺	—	—	2.5Y6/1～5/1黄灰	密	やや 良好	Ⅱ様式後半	弥生中期
732		7b	ピット735	A13-f4	弥生土器壺	—	—	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ～Ⅲ様式 赤彩あり	弥生中期	
733		7b	土坑571	A13-f4	弥生土器壺	—	—	10YR2/1黒～10 YR4/1褐灰	密(焼成粘土粒が若 干混じる)	良好	Ⅰ様式 新段階	弥生前期	
図120	744		7b層	A13-f4・ 5・g4	弥生土器広口壺	(32.0)	(1.9)	10YR5/2灰黄褐	やや密	良好	Ⅲ様式?	弥生中期	
	745		7b層	A13-f4・ 5・g4	弥生土器広口壺	(17.0)	(6.5)	10YR5/3にぶい 黄褐	密	やや 良好	Ⅱ様式	弥生中期	
	746		7b層	A13-g4	弥生土器無頸壺	(12.2)	(2.1)	5Y5/2灰オリブ	密	良好	Ⅱ-2様式?	弥生中期	
	747		7b層	A13-d1	弥生土器無頸壺	(7.8)	(5.2)	2.5Y6/2灰黄	密	良好	Ⅱ-2～3様式	弥生中期	
	748	32	7b層	A13-g4	弥生土器壺	(4.2)	(5.0)	2.5Y6/2黄灰	密	やや 良好		弥生中期	
	749		7b層 (洪水砂)	A13-f2	弥生土器壺	(4.9)	(5.8)	5Y5/1灰・2.5Y6/3 にぶい・黄	密	良好		弥生中期	
	750		7b層	A13-g4	弥生土器甕	(6.0)	(3.2)	2.5Y6/2灰黄	やや密	良好		弥生中期	
	751		7b層 (洪水砂)	A13-g4	弥生土器壺	(10.0)	(8.0)	10YR5/3にぶい 黄褐	やや密	良好		弥生中期	
	752		7b層	A13-g4	弥生土器甕	(15.0)	(6.8)	2.5Y7/2灰黄	密	良好	Ⅱ様式 紀伊型?	弥生中期	
	753		7b層	A13-f4・ 5・g4	弥生土器壺	—	—	5Y5/2灰オリブ	密	良好	Ⅰ様式 新段階	弥生前期	
	754		7b層 (洪水砂)	A13-f2	弥生土器壺	—	—	2.5Y7/3浅黄	やや密	良好	Ⅰ様式 新段階	弥生前期	
	755		7b層	A13-f3	弥生土器壺	—	—	10YR6/2灰黄褐	密	良好	Ⅱ様式 赤彩あり	弥生中期	
図125	766		8	溝836	A13-e3・4	弥生土器壺	(33.0)	(2.2)	5Y5/2灰オリブ	密	良好	Ⅱ-2様式	弥生中期
	767	32	8	溝836	A13-f3	弥生土器短頸広口 壺	(17.0)	(4.6)	5Y7/2灰白	やや密	やや 良好	Ⅱ-1様式	弥生中期
	768		8	溝836	A13-e3・4	弥生土器壺	(15.0)	(7.1)	2.5Y6/2灰黄～6/1 黄灰	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	769	32	8	溝836	A13-d3・4	弥生土器壺	—	—	5Y5/1灰～6/2灰 オリブ	やや密	良好	Ⅰ-2様式	弥生前期
	770	32	8	溝836	A13-d3・4	縄文土器深鉢	—	—	2.5Y3/2黒褐	やや密	やや 良好	長原式	縄文晩期
	771		8	溝836 (洪水砂)	A13-f・g4	弥生土器甕	5.6	(9.3)	2.5Y6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	772		8	溝836	A13-e3・4	弥生土器甕	5.4	(4.0)	2.5Y6/2灰黄～6/1 黄灰	やや密	やや 良好	Ⅱ様式	弥生中期
	773		8	溝836	A13-d3・4	弥生土器甕	5.6	(4.0)	10YR7/4にぶい・黄 橙・7.5YR6/4 にぶい・橙	やや密	良好		弥生中期

図番号	写真図 版番号	面	遺構 層位	地区	器種	径、長・ 幅 (cm)	器高、厚 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	時期
図 125	774		8 溝836	A13-e3・4	弥生土器甕	6.4	(2.8)	10YR6/4にぶい黄橙	やや密	良好	底部木葉痕	弥生中期
	775		8 溝836	A13-e3・4	弥生土器甕	(21.6)	(9.4)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	776	32	8 溝836	A13-f3	弥生土器甕	(18.4)	(4.0)	2.5Y5/1黄灰	密	良好	I様式	弥生前期
	777		8 溝836	A13-e3・4	弥生土器甕	5.4	(7.5)	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期
	778		8 溝836	A13-e3・4	弥生土器甕	5.4	(3.8)	2.5Y7/2～6/2灰黄	密	良好		弥生中期
図 127	779		8層	A13-f-g4	弥生土器広口壺	(17.8)	(1.6)	2.5Y4/1黄灰	密	良好	Ⅱ-1様式	弥生中期
	780	32	8層	A13-e4	弥生土器甕	—	—	5Y7/2灰白	密	良好	I-3様式	弥生前期
図 129	781		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器甕	(22.2)	(6.8)	10YR6/4にぶい黄橙	密	良好	Ⅱ様式 前半	弥生中期
	782		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器壺	10.7	(6.1)	5Y5/1灰～5/2灰オリーブ・7.5YR6/6橙	密	良好		弥生中期
	783		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器甕	8.2	(5.1)	2.5Y6/2灰黄～6/1黄灰	密	良好	Ⅱ様式前半	弥生中期
	784		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器甕	6.8	(5.2)	5Y5/1灰～6/2灰オリーブ	密	良好		弥生中期
	785		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器甕	7.0	(4.2)	2.5Y6/2灰黄	密	良好		弥生中期
	786		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器甕	7.2	(3.2)	2.5Y7/1灰白～5/1黄灰	やや粗	やや良好		弥生中期
	787		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器壺	—	—	2.5Y7/2灰黄	やや密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
	788		8b 土坑867	A13-d2	弥生土器壺	—	—	2.5Y5/2暗灰黄	密	良好	Ⅱ様式 前半	弥生中期
	789		8b層	A13-d1	弥生土器広口壺	(22.2)	(7.4)	7.5YR6/4にぶい橙	密	良好	Ⅱ様式	弥生中期
図 131	790		8b層	A13-c・d1・2	弥生土器甕	6.2	(13.0)	5Y6/1灰～6/2灰オリーブ	密	良好	Ⅱ様式 河内形	弥生中期
図 135	800		9～9b層?	A13-c・d1・2付近	弥生土器甕蓋	(22.8)	(1.3)	5Y5/1灰～5/2灰オリーブ	密	良好	Ⅱ様式前期以前	弥生中期
	801		7b層～10b層 (x=150.050アゼ)	A13-f3・4	土器転用土製円板	7.1・6.9	1.0	2.5Y6/2灰黄～5/1黄灰	密	良好	河内形?	
	802		6～10層 (y=37.300ラインセクション中)	A12-c・d10・A13-c・d1	土器転用土製円板	6.7・6.7	1.0	2.5Y5/2暗灰黄～5/1黄灰	やや密	良好		

凡例

- ・ 径・幅・器高・厚で () 表記しているものは、復元径、現存高を示す。
- ・ 径・幅で数字が2種類あるものは、長径・長軸幅と短径・短軸幅をそれぞれ示す。

表19 実測木製品観察表

図番号	写真図 版番号	面	遺構・層位	地区	器種	径・長	幅	厚	樹種	時期	
図17	28	18	3-1	土坑34	A12-d9・10	板状木製品(部材) (墨書あり)	40.7	31.1	7.9	スギ	近世後半
図40	289	19	4b	土坑285	A12-c10	礎板(円盤状底 板転用)	26.4	26.6	3.2	スギ	8世紀後半 ~9世紀前半
	290		4b	土坑294	A12-d10	棒状木製品	49.0	4.4	3.0	ヒノキ	8世紀後半 ~9世紀前半
	291	18	4b	土坑252	A12-c7	桶(井戸杵曲物)	17.5	37.6	0.4	ヒノキ	8世紀後半 ~9世紀前半
図42	342	20		4b層	A12-d9・10	農耕具柄?	33.4	6.4	3.6	スギ	
	343	19		4b層上部	A13-e2	履物	25.3	6.7	1.6	ヒノキ	7世紀
	344	19		4b層	A13-d.e3	板材木製品(墨 書あり)	54.6	23.0	7.8	スギ	
	345	20		4b層	A13-e3	棒状木製品(建 築部材)	242.0	60.0	2.4~5.0	スギ	
図44	347	20		5-0b層	A13-f3.4	紡織具糸巻きの 支え?	47.6	4.8	2.6	ヒノキ	7世紀初頭
図66	423		5b	ピット457	A12-c8	礎板(板状製品)	31.3	15.1	3.9	スギ	古墳前期
図85	524	20		6b層	A13-cd1・2	刀子状木製品	16.2	1.7・1.3	1.2・0.8	カヤ	弥生中期
	525			6b層(6面高まり 546直下部分)	A12-d8	不明棒状木製品	12.3	15.1	4.0	ヒノキ	弥生中期
図90	560	21	7	溝563	A13-e3・4	横槌?	14.6	7.1	6.4	ヒノキ	弥生中期
図91	573	21	7	溝559	A12-c・d10	棒状木製品 (柄?)	36.2	4.1	3.8	ヒノキ	弥生中期
図97	640			7層	A12-c8	不明板状製品	5.9	4.9	1.8	コナラ亜属	弥生中期
	641	21		7層	A12-c8	曲柄又鋏	28.8	4.9	2.0	ヒノキ	弥生中期
図109	694	21	7b	土坑633	A13-e2	紡織具 経(布)巻具	81.6	8.3	4.1	ケヤキ	弥生中期
	695	21	7b	土坑633	A13-e2	不明木製品 (柄?)	28.5	5.2	5.0	サカキ	弥生中期
図120	756	21		7b層	A13-d1	紡織具 経(布)巻具	17.3	7.5	2.2	ヤマグワ	弥生中期
	757			7b層	A13-f4	杭	49.0	12.2	8.7	アカガシ亜属	弥生中期
図131	791	22	9	8b層	A13-fg3	直柄平鋏?	26.7	15.5	3.2	アカガシ亜属	弥生中期
	792			8b層	A13-c1	杭	55.5	6.4	6.6	ヤマグワ	弥生中期
	793	22	9	8b層	A13-fg4	曲柄平鋏?	17.3	9.8	4.3	ヤマグワ	弥生中期
図133	796	22	9		A13-c1	曲柄平鋏?	31.4	10.9	3.2	クリ	弥生前期 ~中期初頭
	797				A13-c1	不明板状木製品	62.9	10.6	2.5	スギ	弥生前期 ~中期初頭
	798	22			A13-c1	農具未製品?	25.8	10.9	4.1	クスノキ	弥生前期 ~中期初頭
	799				A13-c1	不明板状木製品	94.3	9.9	4.0	スギ	弥生前期 ~中期初頭
図135	803	22		7層~10b層	A13-c1・2	横槌	17.2	5.4	3.5	サカキ	弥生中期?

表20 実測石器観察表

図番号	写真図 版番号	面	遺構・層位	地区	器種	長さ	幅	厚さ	重量(g)	岩石名	備考	時期	
図21	96	39		3-2層	A12-c6・7	砥石	7.9	5.7	7.0	430.9	アルコース砂岩	付着物あり	中世
	97	39		3-2層	A12-c6・7	砥石	(9.0)	(6.7)	(2.8)	248.4	流紋岩		中世
	98	39		1~4層	A12-d10	砥石	(10.0)	(3.1)	1.0	43.3	シルト岩		現代~中世
	99	40・41		3-2層	A12-c9	不明石製品	(2.3)	(2.7)	0.9	13.2	褐鉄鉱または赤鉄鉱	色調5YR3/2 暗赤褐	中世
図23	123	39		3-3層	A12-d8	砥石	(6.7)	(6.9)	—	98.7	シルト岩		中世
図27	130	39		3-4層	A13-c・d1	砥石	7.4	5.1	2.3	117.7	雲母片岩 ~片麻岩		中世
図31	171	39	4	ピット138	A12-c7	砥石	6.3	3.1	1.5	72.2	泥質ホルンヘルス		
図33	232	39		4層	A12-c・d8	砥石	4.55	4.7	2.0	50.8	安山岩		古代末
	233			4層	A13-d1	砥石	7.95	5.6	2.0	38.2	流紋岩		古代末
	234	39		4層	A12-d8	砥石	7.1	3.0	2.3	83.6	流紋岩		古代末
	235			4層	A12-c・d8	砥石?	6.7	4.4	2.0	68.4	流紋岩		古代末
図40	286	40・41	4b		A12-d8	不明石製品	12.9	5.45	1.3	131.0	黒雲母片岩		古代前半
	287	39	4b		A12-c9・10	砥石	(5.85)	(6.7)	4.7	144.4	流紋岩		古代前半
	288	39	4b		A12-c9・10	砥石	6.5	4.0	1.6~2.5	94.1	流紋岩		古代前半
図41	334	39		4b層	A12-d8	砥石	6.6	6.1	3.1	212.2	雲母片岩		古代前半
	335	39		4b層	A12-d10	砥石	(3.9)	(5.7)	1.5	42.2	流紋岩		古代前半
図71	448			5b層	A13-d1	剥片	3.1	4.3	0.5	9.6	サスカイト		弥生中期
	449			5b層	A13-f4	剥片 (側面自然面)	3.75	5.1	1.1	12.8	サスカイト		弥生中期
	450	42・43		5b層	A13-d1	二次加工ある剥片	9.0	4.4	1.9	85.6	サスカイト		弥生中期
図72	451	40・41		5b層	A12-c・d9・10	石庖丁	(9.0)	(3.8)	0.8	45.2	石英片岩		弥生中期
図75	460		6	溝537	A13-f3	剥片 (側面自然面)	2.9	5.2	0.85	12.4	サスカイト		弥生中期前半
図80	470	42・43	6	高まり523	A13-d・e3	両面調整石器	4.6	3.7	1.0	22.2	サスカイト		弥生中期
	471	44・45	6	高まり522	A12-c・d9	スクレイパー	4.8	7.8	0.9	43.4	サスカイト		弥生中期
	472		6	高まり523	A13-e2	剥片 (打面自然面)	3.1	6.6	2.8	22.2	サスカイト		弥生中期
図81	481	44・45		6層	A13-f3	スクレイパー	5.0	8.0	1.6	56.9	サスカイト		弥生中期前半
	482			6層	A13-c・d1・2	剥片	2.5	3.85	0.8	9.0	サスカイト		弥生中期前半
	483			6層	A13-d・e1・2	剥片 (側面自然面)	5.25	4.25	0.6	14.7	サスカイト		弥生中期前半
図84	501	40・41	6b	高まり547	A13-d3・e4	石庖丁	(9.4)	(4.4)	0.6	41.1	石英片岩		弥生中期前半
	502	44・45	6b	高まり547	A13-d3・e4	スクレイパー	3.9	6.5	0.6	22.1	サスカイト		弥生中期前半
	503		6b	高まり547	A13-e3	剥片	5.1	5.0	0.8	10.9	サスカイト		弥生中期前半
	504		6b	高まり547	A13-e2	剥片	7.4	7.35	1.0	43.7	サスカイト		弥生中期前半
図85	526	40・41		6b層	A13-f3	石庖丁	(8.6)	(3.8)	0.8	36.4	千枚岩		弥生中期前半
図86	527	40・41		6b層	A13-e1	磨製石斧	(7.8)	(7.0)	5.0	437.3	長石質~砂岩		弥生中期前半
	528	39		6b層	A13-c・d1・2	砥石	5.35	3.6	2.3	41.4	シルト岩	被熱	弥生中期前半
	529			6b層	A13-f4	剥片 (背面自然面)	3.4	4.3	0.8	7.6	サスカイト		弥生中期前半
	530			6b層	A13-f4	剥片 (打・側面自然面)	3.1	4.6	0.9	7.3	サスカイト		弥生中期前半
	531	42・43		6b層	A13-d1・2	両面調整石器	10.9	5.5	3.7	184.4	サスカイト		弥生中期前半
	532	42・43		6b層	A12-d9	石小刀	4.7	2.3	0.8	13.7	サスカイト		弥生中期前半
図87	533			6b層	A13-f4	スクレイパー	4.9	4.4	0.9	25.7	サスカイト		弥生中期前半
	534			6b層(植物遺体層)	A13-c1・2	剥片 (打・側面自然面)	3.65	3.7	0.5	6.1	サスカイト		弥生中期前半
	535			6b層	A13-e2	剥片 (打・側面自然面)	3.4	5.6	0.85	14.5	サスカイト		弥生中期前半
	536	42・43		6b層	A13-f3	両面調整石器	6.5	5.7	1.45	71.6	サスカイト		弥生中期前半
	537			6b層	A13-e2	剥片 (打・側面自然面)	3.1	3.5	0.5	7.6	サスカイト		弥生中期前半
	538	44・45		6b層	A13-g4	剥片 (打面自然面)	3.1	3.9	0.5	8.7	サスカイト		弥生中期前半
	539			6b層	A13-d1	剥片 (打面自然面)	5.2	4.2	1.0	23.1	サスカイト		弥生中期前半
	540			6b層(植物遺体層)	A13-c1・2	剥片	5.8	5.5	0.5	27.6	サスカイト		弥生中期前半
	541			6b層	A13-f3	剥片 (打面自然面)	3.8	4.6	1.3	16.5	サスカイト		弥生中期前半
	図90	561	40・41	7		A13-e3・4	石庖丁	(5.8)	(2.7)	0.5	12.5	緑泥岩石英片岩	
562		42・43	7	溝563	A13-e3・4	未製品再加工品	10.3	4.7	1.5	82.6	サスカイト		弥生中期前半
563			7	溝563	A13-e3・4	搔器?	6.9	4.4	1.1	29.2	サスカイト		弥生中期前半
564			7	溝563	A13-e3・4	剥片 (打・側面自然面)	5.4	6.4	1.8	41.1	サスカイト		弥生中期前半
565			7	溝563	A13-e3・4	剥片	3.4	2.8	0.5	4.2	サスカイト		弥生中期前半
図91	574	44・45	7	溝559	A12-d9・10	スクレイパー	3.6	7.0	1.8	45.8	サスカイト		弥生中期前半
図93	592	40・41	7b		A13-c1・2	自然礫・ 赤色顔料付着	4.0	6.1	2.1	76.7	粗粒砂岩		弥生中期前半
	593			7層	A13-c・d1	スクレイパーまたは 両面調整石器	5.7	6.0	1.1	51.3	サスカイト		弥生中期前半
	594	42・43		7層	A13-c・d1	二次加工ある剥片	4.03	3.8	0.8	14.8	サスカイト		弥生中期前半
図95	610		7	高まり553	A13-e2	搔器?	3.9	7.3	0.9	20.2	サスカイト		弥生中期前半
	611	44・45	6~7	高まり523・ 546・533	A13-e2	スクレイパー	5.45	6.45	1.2	52.0	サスカイト		弥生中期前半

図番号	写真図版番号	面	遺構・層位	地区	器種	長さ	幅	厚さ	重量(g)	岩石名	備考	時期	
図96	612		7	高まり553	A13-d・e3	スクレイパー	3.8	4.9	1.2	39.0		弥生中期前半	
	613		6層~7	高まり523・546・533	A13-e2	剥片 (側面自然面)	5.8	7.3	9.05	34.4			
	614		7	高まり553	A13-e2	剥片 (背面自然面)	6.3	6.1	1.1	33.2		弥生中期前半	
	615		7	高まり553	A13-e2	剥片 (背・打面自然面)	4.5	5.2	0.9	19.7		弥生中期前半	
	616	44・45	7	高まり553	A13-e2	剥片 (側面自然面)	2.9	5.0	1.1	10.2		弥生中期前半	
	617		7	高まり553	A13-e2	剥片	3.4	3.4	0.6	7.3		弥生中期前半	
	618		7	高まり553	A13-e2	剥片 (背面自然面)	3.4	4.5	1.1	15.7		弥生中期前半	
図98	642	40・41		7層	A13-e4	磨製石斧	(8.5)	(6.7)	3.6	176.2	ほんれい岩	弥生中期前半	
	643	40・41		7層	A13-f3	石棒	4.8	3.2	1.9	44.6	粗粒アルコース砂岩	弥生中期前半	
	644	44・45		7層	A13-d・e3	スクレイパー (背面自然面)	6.7	9.4	1.9	134.4		サスカイト	弥生中期前半
	645	40・41		6~7層	A13-d・e2・3	石小刀	6.9	1.1	0.8	5.3		サスカイト	
	646	42・43		7層	A13-f4	両面調整石器	7.0	4.3	1.5	42.0		サスカイト	弥生中期前半
図99	647	44・45		7層	A13-e4	スクレイパー	6.8	9.7	2.1	152.9		サスカイト	弥生中期前半
	648	44・45		7層?(側溝)	A13-d1・2	スクレイパー	5.35	7.6	2.0	82.0		サスカイト	転轆利用
	650	42・43		7層	A13-d・e3	二次加工ある剥片	4.6	6.3	1.5	53.8		サスカイト	弥生中期前半
	651	44・45	7b	落ち込み443	A13-f・g3	スクレイパー	2.9	6.0	1.3	15.0		サスカイト	弥生中期前半
	652			7層	A13-f3・4	剥片 (背面自然面)	14.1	6.9	2.3	173.6		サスカイト	弥生中期前半
図100	653			7層?(側溝最下部)	A12-d8	剥片 (側面自然面)	5.6	6.6	0.8	29.0		サスカイト	弥生中期前半
	654			7層	A13-f2	剥片 (打面自然面)	6.3	6.2	1.3	37.0		サスカイト	弥生中期前半
	655	42・43		7層	A13-g4	楔形石器	3.9	2.5	1.15	14.5		サスカイト	弥生中期前半
	656			7層	A13-f4	剥片	1.8	3.45	0.5	2.6		サスカイト	弥生中期前半
	657			7層	A13-g4	剥片	2.6	2.1	0.6	3.2		サスカイト	弥生中期前半
	658			7層	A13-f4	砕片	2.4	2.3	0.4	1.6		サスカイト	弥生中期前半
	659		7b	落ち込み443	A13-f・g3	剥片 (背面自然面)	3.5	5.5	1.0	23.4		サスカイト	弥生中期前半
図101	660			7層	A13-f4	剥片 (打面自然面)	2.2	3.6	1.0	3.7		サスカイト	弥生中期前半
	696	42・43	7b	土坑633	A13-e2	石鏃か石錐	3.75	1.6	0.9	6.4		サスカイト	弥生中期前半
図109	697		7b	土坑633	A13-e2	石鏃か尖頭器	2.95	3.1	1.2	8.0		サスカイト	弥生中期前半
	698		7b	土坑633	A13-e2	スクレイパー	5.3	6.3	0.8	23.6		サスカイト	弥生中期前半
	699	39	7b	土坑633	A13-e2	砥石	10.3	7.8	2.7	387.5	アルコース砂岩		弥生中期前半
図110	700		7b	土坑633	A13-e2	剥片 (打・側面自然面)	5.5	2.9	1.5	16.5		サスカイト	弥生中期前半
	701		7b	土坑633	A13-e2	二次調整ある剥片	3.8	3.4	2.7	11.7		サスカイト	弥生中期前半
	702		7b	土坑633	A13-e2	剥片 (打・側面自然面)	5.3	8.8	1.5	64.9		サスカイト	弥生中期前半
	734	44・45	7b	溝600	A13-e3	スクレイパー	5.1	9.0	1.9	97.5		サスカイト	弥生中期前半
図118	735	44・45		ピット784	A13-f4	剥片	3.8	3.6	0.6	5.6		サスカイト	弥生中期前半
	736	42・43	7b	ピット773	A13-f4	両面調整石器	0.3	3.65	0.8	20.0		サスカイト	弥生中期前半
	737	44・45	7b	土坑676	A13-e3	スクレイパー	5.15	1.0	2.0	74.2		サスカイト	弥生中期前半
図119	738	44・45	7b	ピット646	A13-d3	スクレイパー	4.1	7.4	1.6	73.4		サスカイト	弥生中期前半
	739		7b	土坑648	A13-d3	剥片	2.3	3.6	0.8	5.4		サスカイト	弥生中期前半
	740		7b	土坑719	A13-f4	剥片	2.4	3.4	0.4	2.4		サスカイト	弥生中期前半
	741		7b	ピット773	A13-f4	剥片	3.35	3.0	0.35	3.4		サスカイト	弥生中期前半
	742		7b	土坑678	A13-e2	剥片	3.4	2.7	0.5	2.9		サスカイト	弥生中期前半
	743	44・45	7b	ピット645	A13-d3	スクレイパー	5.65	10.7	1.45	89.1		サスカイト	弥生中期前半
	758	40・41		7b層 (洪水砂)	A13-f3	自然礫	7.0	4.35	1.9	92.7		粗粒砂岩	赤色顔料 付着
図121	759			7b層 (非洪水砂)	A13-f3	尖頭器未成品	4.9	7.2	2.5	81.5		サスカイト	弥生中期前半
	760	44・45		7b層	A13-f4・5・g4	スクレイパーか両面調整石器未成品	5.1	5.5	1.7	50.8		サスカイト	弥生中期前半
	761		7b精査	7層	A13-f4	剥片	3.0	4.9	0.4	5.9		サスカイト	弥生中期前半
	762			7b層	A13-d1・2	剥片 (背面自然面)	3.1	3.95	0.4	6.0		サスカイト	弥生中期前半
	763		7b精査		A13-e4	剥片	3.8	3.4	0.6	7.3		サスカイト	弥生中期前半
	764	40・41		7b層 (洪水砂)	A13-f2	打製尖頭器	8.9	3.4	1.0	38.1		サスカイト	弥生中期前半
	765	42・43	7b精査		A12-c・d6・7	両面調整石器	6.6	2.4	1.05	18.2		サスカイト	弥生中期前半
図131	794	40・41		8b層	A13-f3	スクレイパー (折れ)・縄文	(1.1)	4.2	0.55	2.4		サスカイト	
	795			8b層(落ち込み884)	A13-d1	剥片	5.9	3.5	0.6	14.6		サスカイト	